# 共通教育科目
# 履 修 案 内

*Subjects, Registration*
*in Liberal Arts and Sciences*

この履修案内は卒業まで必要です。絶対に紛失しないでください。
また，この履修案内は平成29年度入学者用です。平成28年度以前の入学者は，当該入学年度の「履修案内」を参照してください。

*2017*


金沢大学国際基幹教育院

*Kanazawa University*
*Institute of Liberal Arts and Science*

# 目　　次


角間キャンパスマップ…… 1

**2017年度共通教育科目学年暦**…… 2

## Ⅰ　履修案内

金沢大学の基本理念と教育目標…… 6

1　共通教育科目とは…… 7
2　学年・学期…… 7
3　授業時限…… 7
4　単位…… 7
5　授業時間割…… 8
6　休講・補講…… 8
7　出席日数…… 8
8　既往症ならびに治療中の病気…… 8
9　履修に関する注意…… 9
10　Web版シラバスの利用方法 …… 14
11　履修登録の手続・方法…… 17
12　各科目の履修・単位修得方法…… 23
13　学類別の卒業要件（共通教育科目）…… 56
14　基幹教育特設プログラム…… 76
15　教育職員免許状…… 78
16　社会教育主事および学校図書館司書教諭資格…… 80
17　成績評価（単位認定）…… 80
18　入学前の既修得単位の認定…… 82
19　授業改善のための学生アンケート…… 83
20　「いしかわシティカレッジ」の授業科目の履修…… 83
21　放送大学の授業科目の履修…… 84
22　アカンサスポータル…… 87
23　金沢大学共通教育科目に関する規程…… 87
24　金沢大学＜グローバル＞スタンダード（KUGS）の解説 …… 91
25　GS科目の説明 …… 93

## Ⅱ　時間帯表 …… 100

## Ⅲ　学生生活

1　学生生活に関する相談…… 108
2　キャンパス交通ルール…… 108
3　総合教育棟の利用…… 109
4　所属変更・休学・復学・退学…… 110
5　パソコンとネットワーク…… 110
6　その他…… 111

## Ⅳ　建物配置図

1　総合教育棟　平面図…… 114
付．総合教育１号館，２号館在室者一覧（五十音順）…… 120

付．時間割表・受 講 票 …… 122

# 金沢大学角間キャンパスマップ

# 2017年度　共通教育科目学年暦

（平成28・29年度入学者用）

## 第１クォーター・第２クォーター

| | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 4月 | | | | | | | 1 |
| | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 |
| | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |
| | 30 | **1** | **2** | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 5月 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 |
| | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
| | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
| | 28 | 29 | 30 | 31 | 1 | 2 | 3 |
| 6月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
| | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
| | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 |
| | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 1 |
| 7月 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| | 16 | 17 | 18 | 19 | **20** | 21 | 22 |
| | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |
| | 30 | 31 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 8月 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 |
| | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 |
| | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 1 | 2 |
| 9月 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 |
| | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 |
| | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |
| 授業 | | 7.5 | 7.5 | 7.5 | 7.5 | 7.5 | 回 |
| 試験 | | 0.5 | 0.5 | 0.5 | 0.5 | 0.5 | 回 |

| | |
|---|---|
| 履修ガイダンス | 4月3日(月) |
| 学類オリエンテーション | 4月4日(火)・4月5日(水) |
| 新入生健康診断 | 4月4日(火)～4月6日(木) |
| 入学宣誓式 | 4月7日(金) |

**【第１クォーター】**

| | |
|---|---|
| **履修登録期間** | **4月3日(月)7：00～4月7日(金)18：00** |
| 履修登録補正期間 | 4月8日(土)7：00～4月9日(日)23：59 |
| **授業開始** | **4月10日(月)** |
| **履修許可表交付** | **4月11日(火)** |
| 履修登録訂正期間 | 4月11日(火)7：00～4月16日(日)23：59 |
| **曜日振替日（木曜日扱いの講義日）** | **5月1日(月)** |
| **曜日振替日（金曜日扱いの講義日）** | **5月2日(火)** |
| 補講週間 | 5月18日(木)～5月31日(水)の6限 |
| 試験期間 | 6月1日(木)～6月7日(水) |
| 授業終了 | 6月7日(水) |

**【第２クォーター】**

| | |
|---|---|
| **履修登録期間** | **5月22日(月)7：00～5月25日(木)18：00** |
| 履修登録補正期間 | 5月29日(月)12：30～5月31日(水)18：00 |
| **授業開始** | **6月8日(木)** |
| **履修許可表交付** | **6月9日(金)** |
| 履修登録訂正期間 | 6月9日(金)7：00～6月14日(水)18：00 |
| 補講週間 | 7月13日(木)～7月27日(木)の6限 |
| **曜日振替日（月曜日扱いの講義日）** | **7月20日(木)** |
| 試験期間 | 7月28日(金)～8月3日(木) |
| 授業終了 | 8月3日(木) |

| | |
|---|---|
| オープンキャンパス | 8月7日(月)～8月8日(火) |
| 夏季一斉休業期間 | 8月14日(月)～8月16日(水) |

| | |
|---|---|
| 成績通知表交付 | 9月下旬（別途掲示） |
| 成績疑義受付期間 | 別途掲示 |

注１．　は原則として授業を行わない日　　は試験日

２．学年暦に関する詳細及び諸通知については，すべて掲示で知らせます。

**３．登校，下校，授業の合間には，必ず掲示板を見るように習慣づけてください。見落としは大きな不利益を招きます。**

**学生の呼び出しは，エントランスホールの掲示板またはアカンサスポータルで行います。**

**※授業回数，試験回数は各クォーターにおける開講数を示します。**

# 第３クォーター・第４クォーター

| | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 10月 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
| | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
| | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |
| | 29 | 30 | **31** | **1** | 2 | 3 | 4 |
| 11月 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 |
| | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 |
| | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 |
| | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 1 | 2 |
| 12月 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 |
| | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 |
| | 24 | 25 | **26** | 27 | 28 | 29 | 30 |
| | 31 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 1月 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 |
| | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
| | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
| | 28 | 29 | 30 | 31 | 1 | 2 | 3 |
| 2月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
| | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
| | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 |
| | 25 | 26 | 27 | 28 | 1 | 2 | 3 |
| 3月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
| | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
| | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 |
| | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 |
| 授業 | | 7.5 | 7.5 | 7.5 | 7.5 | 7.5 | 回 |
| 試験 | | 0.5 | 0.5 | 0.5 | 0.5 | 0.5 | 回 |

**【第３クォーター】**

| | |
|---|---|
| **履修登録期間** | **９月20日㈬７：00～９月25日㈪18：00** |
| 履修登録補正期間 | ９月27日㈬12：30～10月９日㈪18：00 |
| **授業開始** | **10月２日㈪** |
| **履修登録確定** | **10月11日㈬** |
| 金大祭（休講） | 10月27日㈮・10月30日㈪ |
| **曜日振替日（月曜日扱いの講義日）** | **10月31日㈫** |
| **曜日振替日（金曜日扱いの講義日）** | **11月１日㈬** |
| 補講週間 | 11月13日㈪～11月24日㈮の６限 |
| 試験期間 | 11月27日㈪～12月１日㈮ |
| 授業終了 | 12月１日㈮ |

**【第４クォーター】**

| | |
|---|---|
| **履修登録期間** | **11月14日㈫７：00～11月17日㈮18：00** |
| 履修登録補正期間 | 11月21日㈫12：30～12月10日㈰18：00 |
| **授業開始** | **12月４日㈪** |
| **履修登録確定** | **12月12日㈫** |
| **曜日振替日（金曜日扱いの講義日）** | **12月26日㈫** |
| 大学入試センター試験準備（休講） | １月12日㈮ |
| 補講週間 | １月22日㈪～２月２日㈮の６限 |
| 試験期間 | ２月５日㈪～２月９日㈮ |
| 授業終了 | ２月９日㈮ |
| TOEIC-IP（平成29年度入学者） | ２月13日㈫・２月14日㈬ |

| | |
|---|---|
| 成績通知表交付 | ３月下旬～４月上旬（別途掲示） |
| 成績疑義受付期間 | 別途掲示 |

注１．　は原則として授業を行わない日　　は試験日

２．学年暦に関する詳細及び諸通知については，すべて掲示で知らせます。

３．**登校，下校，授業の合間には，必ず掲示板を見るように習慣づけてください。見落としは大きな不利益を招きます。**

**学生の呼び出しは，エントランスホールの掲示板またはアカンサスポータルで行います。**

**※授業回数，試験回数は各クォーターにおける開講数を示します。**

# Ⅰ 履 修 案 内

☆　履修に関する事柄は，掲示で知らせます。
　　必ず，総合教育講義棟の掲示板で確認してください。
☆　専門教育科目については，各学域・学類が発行している手引き・ハンドブック等により，確認してください。

# 金沢大学の基本理念と教育目標

金沢大学は，本学の活動が21世紀の時代を切り拓き，世界の平和と人類の持続的な発展に資するとの認識に立ち，**「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」**の位置付けをもって改革に取り組み，北陸さらには東アジアにおける**「知の拠点」**として，グローバル化の進む世界に向けて情報を発信することとし，その拠って立つ理念と目標を**金沢大学憲章**として制定しています。

この金沢大学憲章では，教育について次の２点を謳っています。

○　金沢大学は，各種教育機関との接続，社会人のリカレント教育，海外からの留学，生涯学習等に配慮して，多様な資質と能力を持った意欲的な学生を受け入れ，**教養と専門とを結合した学部教育**と，学際性や専門性の高い大学院教育を実施する。

○　金沢大学は，**学生の個性と学ぶ権利を尊重し，自学自習を基本とする**。また，教育改善のために教員が組織的に取り組むFD活動を推進して，**専門知識と課題探求能力，さらには国際感覚と倫理観を有する人間性豊かな人材を育成する**。

こうした本学の理念・目標の実現へ向けての大きな改革の一つとして，2006（平成18）年度に従来の教養教育を，導入教育や基盤教育などの幅広い教育内容を含む「**共通教育**」ということばに切り替え，教養的科目から「**共通教育科目**」に名称変更しました。

2016（平成28）年４月から始まった第３期の中期目標には，「主体性を涵養する教育により，学士課程においては，専門分野における確かな基礎学力と総合的視野を身に付け，国際性と地域への視点を兼ね備えた人材を育成するとともに，大学院課程においては，高度な専門的知識・技能と学際性を兼ね備え，国際的視野を有する研究者及び専門職業人等，グローバル化する社会を積極的にリードする人材を育成する。」と明記されました。この目標を実現するために，新たに**国際基幹教育院**が創設され，世界で活躍する「金沢大学ブランド」人材の育成のための本学独自の教育方針である「**金沢大学＜グローバル＞スタンダード（Kanazawa University “Global” Standard；**以下「**KUGS**」という。）」が制定されました。

学士課程におけるKUGSは次の５項目よりなっています（詳細な解説は91ページを参照）。

**１．自己の立ち位置を知る：**
鋭い倫理感と科学的知見をもって，人類の歴史学的時間と地政学的空間の中に立つ自己の位置，自己の使命を主体的に把握する能力

**２．自己を知り，自己を鍛える：**
自己を知り，その限界に挑戦し，知的冒険と心身の鍛錬を通して常に自己の人間力を磨き高めていく能力

**３．考え・価値観を表現する：**
論理的構成力や言語表現力を駆使して概念やアイデアを明確に表現し，かつ自己の感性や価値観を的確に他者に伝える能力

**４．世界とつながる：**
他者への深い共感に基づいて異文化と共生し，各人にとっての自国と郷土への自覚と誇りをもって，世界と積極的につながっていく能力

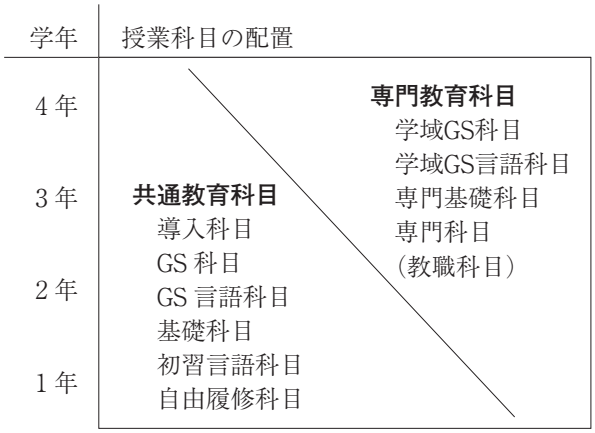
**５．未来の課題に取り組む：**
科学技術の動向，自然環境変動，持続可能性などの多角的視座から，地球と人類，国際社会と日本の未来を総合的に予測し，未来の課題に取り組んでいく能力

今後は，このKUGSを基軸とした，学士課程教育の基盤をなす授業科目であるGlobal Standard科目（GS科目）およびGlobal Standard言語科目（GS言語科目）を中心とする体系的なカリキュラムを実施します。

## 1．共通教育科目とは

大学の教育は，基本的に教養教育（専門を超えた幅広い知識や知的技術・批判力・総合的視野などを身につける）と専門教育（専攻領域の知識・方法等を身につける）に大きく区分されています。金沢大学では，このうちの教養教育のカリキュラムを大幅に見直し，科目名称も「教養的科目」から「共通教育科目」としています。

「共通教育科目」は主として低学年に，「専門教育科目」は高学年に，いわゆる「くさび型」に配置されています。また，「共通教育科目」は「導入科目」「GS科目」「GS言語科目」「基礎科目」「初習言語科目」「自由履修科目」の６つの科目区分に分類されています（右図参照）。共通教育科目に関する規程については87ページを参照してください。




## 2．学年・学期

大学の１年（年度）は，４月１日に始まり，翌年の３月31日に終わります。この期間を４つに分けたものがクォーターで，平成29年度の第１クォーターは４月１日～６月７日，第２クォーターは６月８日～９月30日，第３クォーターは10月１日～12月３日，第４クォーターは12月４日～３月31日です。また１年を２つに分けたものが学期で，平成29年度の前期は４月１日～９月30日，後期は10月１日～翌年３月31日です。

また，第１クォーターはＱ１，第２クォーターはＱ２，第３クォーターはＱ３，第４クォーターはＱ４と省略されることがあります。

## 3．授業時限（いしかわシティカレッジは別冊子の「共通教育科目 授業時間割表2017」を参照のこと）

**(1)** 授業は，月曜日から金曜日まで開講され，土曜日，日曜日，祝日は（補講及び集中講義を除き）開講しません。

**(2)** 授業は実験を除き，１時限単位で行われ，１時限は90分で１コマと呼びます。

**(3)** １日の授業は６時限制で，各時限の始業・終業の時刻は，右のとおりです。

| 時　　限 | 授業時間帯 |
|---|---|
| 1　時　限 | 8：45 ～ 10：15 |
| 2　時　限 | 10：30 ～ 12：00 |
| 3　時　限 | 13：00 ～ 14：30 |
| 4　時　限 | 14：45 ～ 16：15 |
| 5　時　限 | 16：30 ～ 18：00 |
| 6　時　限 | 18：15 ～ 19：45 |

## 4．単位

授業はすべて単位制であり，**授業科目の履修と所定の授業外学修をすれば**，試験・レポート等の成績評価を経て，単位が認定されます。

**(1)** 単位の計算方法は次のとおりです。

① 講義および演習については，15時間から30時間までの授業をもって１単位とします。

② 実験，実習および実技については，30時間から45時間までの時間をもって１単位とします。

授業科目の単位数

| | | |
|---|---|---|
| 導入科目 | 大学・社会生活論 | １単位 |
| | 初学者ゼミⅠ | １単位 |
| | 情報処理基礎 | １単位 |
| | 地域概論 | １単位 |
| GS科目 | ４D 異文化体験を除く科目 | １単位又は0.5単位 |
| | ４D 異文化体験 | １～８単位 |
| GS言語科目 | | １単位 |
| 基礎科目 | | １単位又は２単位 |
| 初習言語科目 | | １単位又は２単位 |
| 自由履修科目 | | １単位又は２単位 |

## 5．授業時間割

今年度の授業時間割は，別冊子の「共通教育科目 授業時間割表2017」に載っています。

３年次以上になると本冊子は配付されません。毎年３月上旬に，Web版シラバスで公示されますので，それで確認してください。また，基幹教育学務係のカウンターで本冊子を閲覧することもできます。

**授業時間割の変更について**

授業時間割表に掲載されている**開講時限・講義室等に，変更や訂正がある場合は，掲示します。**

## 6．休講・補講

本学の公式行事等や，担当教員の都合により授業ができなくなった場合は，「休講」として掲示します。また，休講となった授業の補充として「補講」を行う場合も同様です。

なお，台風・大雪などの非常時の場合，休講措置がとられることがあります。その場合には，金沢大学Webサイトおよびアカンサスポータルに掲載されます。また，テレホンサービス（076－264－5299）で確認することもできます。台風，大雪などで警報が出たときには，ぜひこれらの手段で情報を集めるようにしてください。

## 7．出席日数

学生にとって，**授業への出席は義務**です。本来，全授業時間に出席していなければなりませんが，やむを得ず欠席しなければならない場合がどうしても存在します。そのために，単位修得に最低限必要な出席日数が決められています。

単位を修得するには，原則として，当該科目の授業時間数の３分の２以上の出席が必要です。特に保健体育関連科目の実技と演習は，出席すべき時間数の５分の４以上の出席が必要です。

**書面で欠席を届け出たり，課外活動や冠婚葬祭等で出席扱いを願い出たりする制度はありません。**課外活動や冠婚葬祭等は上記の「やむを得ない」場合に組み込まれているからです。

ただし，教育職員免許状取得で介護等体験のため授業に出席できない場合は，所属学類の学務係に申し出て，指示に従ってください。

なお，遅刻も厳禁です。授業ごとに異なりますが，一定時間を超えた遅刻は出席として認められないことがあります。

## 8．既往症ならびに治療中の病気

これまで患ったことのある病気や，現在治療中の病気で，授業中に救急対応の求められることが発生する可能性があるもの（例：てんかん，気管支喘息，心臓発作等）については，あらかじめ授業担当教員に話をしておいてください。

# 9．履修に関する注意

(1) 共通教育科目と専門教育科目
(2) 修得すべき共通教育科目と単位数
(3) 自由履修枠
(4) 履修に関するいろいろな制限
① 履修登録単位数（履修が許可される単位数）の制限
② 対象者による制限　全学生／限定／優先
③ 収容数等による制限　抽選／スクリーニングテスト
④ 重複履修の禁止　同一曜日・時限／同一授業科目名／合格済み科目
⑤ 保健体育（GS２F・３F）関連科目の履修制限
(5) 集中講義
(6) 開放科目

この項目は，各自の時間割作成にあたって，特に大切です。「12. 各科目の履修・単位修得方法」「13. 学類別の卒業要件」とともに，十分注意して読んでください。

## (1) 共通教育科目と専門教育科目

本学では，共通教育科目と専門教育科目が並行して開講されます。原則として２年前期まで（医学類は１年後期まで）は主として総合教育講義棟および保健体育関連施設で開講されます。

共通教育科目は，全学年を通じて開講されますが，学年が進むにつれて専門教育科目と重なる時間帯が増えてきます。

したがって，共通教育科目の履修は，履修上の規則および共通教育科目の時間帯表（100ページ）を十分理解した上で，しっかりした履修方針と年次計画を立てることが必要です。

共通教育科目の履修方法は，この『履修案内』で説明されていますが，専門教育科目の履修方法は，各学類の履修の手引きなどによって説明されています。両方をよく読んでください。

また，授業科目ごとの注意は「Web版シラバス」（以下「シラバス」という。14ページを参照）で確認してください。（学類によっては冊子版もあります。）

## (2) 修得すべき共通教育科目と単位数

共通教育科目に関する規程及び各学域規程により，それぞれの学類の学生が修得すべき共通教育科目の内訳が決められています。卒業のためには，内訳に示された各科目区分の単位修得の要件（単位数・指定科目など）を満たし，さらに修得した全共通教育科目の単位数の合計が「共通教育科目合計」以上であることが必要です。

詳細は「13. 学類別の卒業要件（共通教育科目）」の各学類の説明で確認してください。

## (3) 自由履修枠

数物科学類，物質化学類および保健学類では，共通教育科目と専門教育科目のそれぞれの所定単位数を充たしても，卒業要件の総単位数には足りません。この不足分の単位数を**「自由履修枠」**と呼び，共通教育科目・専門教育科目のどちらからでも充たすことができます。自らの興味関心や能力に合わせて選択してください。

また，**共通教育科目および専門教育科目の所定の単位数以上を修得すれば，その単位は自動的にこの枠に充足されます**ので，この枠に関連して特別な履修上の手続きをする必要はありません。

## (4) 履修に関するいろいろな制限

① **履修登録単位数**（履修登録が許可される単位数）**の制限**

・履修登録単位数は，**各クォーターにつき共通教育科目・専門教育科目合わせて，１年次は12単位（医学類は共通教育科目のみ）**とされています。

・次の科目は，共通教育科目の履修登録単位数の上限単位の対象外になります。
集中講義／いしかわシティカレッジにおいて開講する科目／放送大学において開講する科目

② **対象者による制限**

・対象者による制限を設けている授業科目があります。**対象者指定科目**は，授業時間割表およびシラバスに明記してあります。主な指定方法は以下のとおりです。

１．**全学生**…対象者を特に指定せず，全学類・全学生を対象とする。

２．**限定**…指定された学類・学年や性別等の該当者以外は，原則不可。（再履修の場合などは指定学年以外でも許可されることがあります。）

３．**優先**…指定された学類・学年や性別等を優先する。人数に余裕があれば，それ以外の者も可能。

＊限定と優先が合わせて指定されることもあります。

＊Web上で履修登録できた場合でも，対象外の場合取り消されることがあります。

＊事前に履修者の選考等が行われる科目もあります。詳細は掲示等でお知らせします。

③ **収容数等による制限**

・ほとんどの科目には，教育効果や教室の収容力等を配慮して，受講者の**適正人数**が設定されています。受講希望者がそれを超過した場合，抽選やスクリーニングテストにより**受講者数調整**が行われることがあります。

１．**抽選**…ランダムに抽選して履修許可者を決定する。（学年等で優先されることがあります）

２．**スクリーニングテスト**…ミニテスト等課題を課し，その結果により履修許可者を決定する。

④ **重複履修の禁止**

・以下のような履修は禁止されています。もし試験を受けても，履修許可された科目以外は単位認定されません。

１．**同一曜日・時限**に開講される異なった授業科目の履修

２．**授業科目名が同じ科目**の履修（一部のGS科目，EAP（Retake），英語セミナー，初習言語B・Cは除く）

＊授業科目名にA・BやⅠ・Ⅱ等がついている場合は別の科目扱いですので，この禁止条項に該当しません。

＊GS科目の例外については，28ページを参照してください。

３．**合格済み科目**の再履修（科目名が異なる「過去の同一科目」を含む。過去の同一科目はシラバスで確認できます。）

⑤ **保健体育（GS科目２F・３F）関連科目の履修制限**

・**保健体育科目関連の集中講義を除く実技型授業の履修は，各クォーター内に２つ**までです。さらに，実技授業の履修は同一曜日に１つまでです（28ページ参照）。
また，GS科目２F・３Fの修得できる単位数はそれぞれ２単位以下に制限されています。

## (5) 集中講義

通常の授業期間外に，短期間に集中して行う授業科目を「**集中講義**」と呼びます。履修手続については，別冊子の集中講義時間割表を参照してください。

なお，集中講義は履修登録単位数の上限単位に含まれません。

## (6) 開放科目

学類の専門教育科目で共通教育科目としても登録できる授業科目を「**開放科目**」と呼びます。**時間割番号が，共通教育科目用と専門教育科目用の二通り**存在しますので，**どちらか一方の番号を選択**し，履修登録してください。(授業科目名が二種類存在することもあります。)

どちらかの科目で単位を修得したあとで，もう一つの科目として履修することは，「重複履修の禁止」の３に該当し，履修は許可されません。また，履修登録後・単位修得後の共通教育科目または専門教育科目への登録変更もできません。履修登録の際には，将来的な授業計画までよく考えながら，どちらの科目として登録するか選択してください。

平成29年度の開放科目の一覧を下記に付します。授業時間・履修制限・時間割番号・開講場所などの詳細は，共通教育科目または専門教育科目のシラバスや時間割表を参照してください。また，授業開始日・試験日および終了日は学類によって異なるので，該当学類の学年暦にしたがって履修してください。

GS科目／自由履修科目

| 授業科目名（科目区分） | 単位数 | 担当教員名 | 開講学期･曜日･時限 | 学　類 | 専門教育科目名 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 法論理学入門(自由履修/旧カリ:一般･社会) | 2 | 足立　英彦 | Q１･水曜１限･金曜１限 | 法学類 | 特講（法論理学入門） | |
| ゼミ／政治哲学入門(自由履修/旧カリ:テーマ別) | 2 | 仲正　昌樹 | 後期･木曜･１限 | 法学類 | 基礎演習 | |
| 哲　学　A(自由履修/旧カリ:一般･人間) | 2 | 山本　英輔 | 前期･水曜･２限 | 学校教育学類 | 哲学A | |
| 「３F スポーツ科学／身体運動心理学Ⅰ」(GS科目) | 1 | 村山　孝之 | Q１･金曜･２限 | 地域創造学類 | スポーツ心理学Ⅰ | |
| 「３F スポーツ科学／身体運動心理学Ⅱ」(GS科目) | 1 | 村山　孝之 | Q２･金曜･２限 | 地域創造学類 | スポーツ心理学Ⅱ | |
| 旧カリ：ゼミ／身体運動心理学(テーマ別) | 2 | 村山　孝之 | 前期･金曜･２限 | 地域創造学類 | スポーツ心理学（H27年度以前入学） | |
| ゼミ／アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界(自由履修/旧カリ:テーマ別) | 2 | 粕谷　雄一 | 後期･火曜･５限 | 国際学類 | アフリカ概説１・２<br>アフリカ概説（H27年度以前入学者） | |
| 環境動態学概説Ⅰ(自由履修/旧カリ:一般･自然) | 1 | 塚脇　真二 | Q３･水曜･１限 | 国際学類 | 地球環境論１E | 地球環境論E（H27年度以前入学者） |
| 環境動態学概説Ⅱ(自由履修/旧カリ:一般･自然) | 1 | 塚脇　真二 | Q４･水曜･１限 | 国際学類 | 地球環境論２E | |
| 日本史要説(自由履修/旧カリ･一般･社会) | 2 | 能川　泰治 | 後期･水曜･５限 | 国際学類 | 日本史要説 | |
| 東洋史要説(自由履修/旧カリ･一般･社会) | 2 | 古畑　　徹 | 後期･火曜･５限 | 国際学類 | 東洋史要説 | |
| 旧カリ：東洋医学（一般・自然） | 2 | 佐々木陽平<br>御影　雅幸 | 後期･金曜･２限 | 薬学類・創薬科学類 | 東洋医学 | |
| 画像解剖学(自由履修/旧カリ:一般･人間) | 1 | 川島　博子 | 後期･金曜･２限 | 保健学類 | 画像解剖学 | |
| 基礎病態学(自由履修/旧カリ:一般･人間) | 1 | 細　　正博 | 後期･月曜･３限 | 保健学類 | 基礎病態学 | |
| 基礎運動学(自由履修/旧カリ:一般･人間) | 1 | 染矢富士子<br>中川　敬夫<br>三秋　泰一<br>西村　誠次 | 前期･木曜･３限 | 保健学類 | 基礎運動学 | |

※旧カリは平成27年度以前入学者を指す

初習言語科目（平成28年度及びそれ以前の入学生用）

| 授業科目名 | 単位数 | 担当教員名 | 開講学期･曜日･時限 | 学　類 | 専門教育科目名 | 単位数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ドイツ語B | 2 | 志村　　恵 | 前期･水曜･２限 | 人文学類 | ドイツ語読解基礎１ | 1 |
| | | | | | ドイツ語読解基礎２ | 1 |
| ドイツ語B | 2 | 早川　文人 | 前期･水曜･２限 | 人文学類 | ドイツ語読解基礎１ | 1 |
| | | | | | ドイツ語読解基礎２ | 1 |
| ドイツ語B | 2 | H．マウラー | 前期･木曜･２限 | 人文学類 | ドイツ語コミュニケーションⅠ１ | 1 |
| | | | | | ドイツ語コミュニケーションⅠ２ | 1 |

| 授業科目名 | 単位数 | 担当教員名 | 開講学期･曜日･時限 | 学　　類 | 専門教育科目名 | 単位数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ドイツ語C | 2 | H．マウラー | 後期･月曜･4限 | 人文学類 | ドイツ語コミュニケーションⅡA1 | 1 |
| | | | | | ドイツ語コミュニケーションⅡA2 | 1 |
| ドイツ語C | 2 | H．マウラー | 後期･水曜･5限 | 人文学類 | ドイツ語コミュニケーションⅡB1 | 1 |
| | | | | | ドイツ語コミュニケーションⅡB2 | 1 |
| フランス語B | 2 | C.アンドリュ | 前期･火曜･3限 | 人文学類 | フランス語コミュニケーションⅡA1 | 1 |
| | | | | | フランス語コミュニケーションⅡA2 | 1 |
| | | | | | フランス語コミュニケーションⅡA（平成25~27年度入学者） | 2 |
| | | | | | フランス語演習（聞く･話す）A（平成24年度以前入学者） | 2 |
| フランス語B | 2 | 阪上るり子 | 前期･木曜･2限 | 人文学類 | フランス語コミュニケーションⅠA1 | 1 |
| | | | | | フランス語コミュニケーションⅠA2 | 1 |
| | | | | | フランス語コミュニケーションⅠA（平成25~27年度入学者） | 2 |
| | | | | | フランス語演習（読む･書く）A（平成24年度以前入学者） | 2 |
| フランス語B | 2 | 粕谷　雄一 | 前期･金曜･3限 | 人文学類 | フランス語圏概論A1 | 1 |
| | | | | | フランス語圏概論A2 | 1 |
| | | | | | フランス語圏概論A（平成27年度以前入学者） | 2 |
| フランス語B | 2 | 岩津　　航 | 後期･火曜･5限 | 人文学類 | フランス語作文表現法（基礎）1 | 1 |
| | | | | | フランス語作文表現法（基礎）2 | 1 |
| | | | | | フランス語作文表現法（基礎）（平成27年度以前入学者） | 2 |
| フランス語C | 2 | 粕谷　雄一 | 前期･月曜･4限 | 人文学類 | フランス語コミュニケーションⅣA（平成25~27年度入学者） | 2 |
| | | | | | フランス語演習（総合）A（平成24年度以前入学者） | 2 |
| フランス語C | 2 | 粕谷　雄一 | 後期･月曜･4限 | 人文学類 | フランス語コミュニケーションⅣB（平成25~27年度入学者） | 2 |
| | | | | | フランス語演習（総合）B（平成24年度以前入学者） | 2 |
| フランス語C | 2 | C.アンドリュ | 後期･火曜･3限 | 人文学類 | フランス語コミュニケーションⅡB1 | 1 |
| | | | | | フランス語コミュニケーションⅡB2 | 1 |
| | | | | | フランス語コミュニケーションⅡB（平成25~27年度入学者） | 2 |
| | | | | | フランス語演習（聞く･話す）B（平成24年度以前入学者） | 2 |
| フランス語C | 2 | 阪上るり子 | 後期･木曜･2限 | 人文学類 | フランス語コミュニケーションⅠB1 | 1 |
| | | | | | フランス語コミュニケーションⅠB2 | 1 |
| | | | | | フランス語コミュニケーションⅠB（平成25~27年度入学者） | 2 |
| | | | | | フランス語演習（読む･書く）B（平成24年度以前入学者） | 2 |
| フランス語C | 2 | 粕谷　雄一 | 後期･金曜･3限 | 人文学類 | フランス語圏概論B1 | 1 |
| | | | | | フランス語圏概論B2 | 1 |
| | | | | | フランス語圏概論B（平成27年度以前入学者） | 2 |
| 中国語C | 2 | 王学松 | 後期･水曜･1限 | 人文学類 | 現代中国時事文B（平成27年度以前入学者） | 2 |
| ギリシア語B | 2 | 三浦　　要 | 前期･月曜･2限 | 人文学類 | 西洋古代中世哲学研究演習A | 1 |
| | | | | | 西洋古代中世哲学研究演習B | 1 |
| | | | | | 西洋古代中世哲学研究演習B（平成27年度以前入学者） | 2 |
| ギリシア語C | 2 | 三浦　　要 | 後期･月曜･2限 | 人文学類 | 人間学研究演習A | 1 |
| | | | | | 人間学研究演習B | 1 |
| | | | | | 人間学研究演習（平成27年度以前入学者） | 2 |
| ドイツ語B | 2 | 志村　　恵 | 前期･水曜･2限 | 国際学類 | ドイツ語読解基礎1 | 1 |
| | | | | | ドイツ語読解基礎2 | 1 |
| | | | | | ドイツ語読解基礎（平成27年度以前入学者） | 2 |
| ドイツ語B | 2 | 早川　文人 | 前期･水曜･2限 | 国際学類 | ドイツ語読解基礎1 | 1 |
| | | | | | ドイツ語読解基礎2 | 1 |
| | | | | | ドイツ語読解基礎（平成27年度以前入学者） | 2 |
| ドイツ語B | 2 | H．マウラー | 前期･木曜･2限 | 国際学類 | ドイツ語コミュニケーション1 | 1 |
| | | | | | ドイツ語コミュニケーション2 | 1 |
| | | | | | ドイツ語コミュニケーション1（平成27年度以前入学者） | 2 |
| ドイツ語C | 2 | H．マウラー | 後期･月曜･4限 | 国際学類 | ドイツ語コミュニケーション3a | 1 |
| | | | | | ドイツ語コミュニケーション3b | 1 |
| | | | | | ドイツ語コミュニケーション2A（平成27年度以前入学者） | 2 |

| 授業科目名 | 単位数 | 担当教員名 | 開講学期･曜日･時限 | 学　　類 | 専門教育科目名 | 単位数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ドイツ語C | 2 | H. マウラー | 後期･水曜･5限 | 国際学類 | ドイツ語コミュニケーション4 a | 1 |
| | | | | | ドイツ語コミュニケーション4 b | 1 |
| | | | | | ドイツ語コミュニケーション2B（平成27年度以前入学者） | 2 |
| フランス語B | 2 | C.アンドリュ | 前期･火曜･3限 | 国際学類 | フランス語コミュニケーションⅡA1 | 1 |
| | | | | | フランス語コミュニケーションⅡA2 | 1 |
| | | | | | フランス語コミュニケーションⅡA（平成25～27年度入学者） | 2 |
| | | | | | フランス語演習（聞く･話す）A（平成24年度以前入学者） | 2 |
| フランス語B | 2 | 阪上るり子 | 前期･木曜･2限 | 国際学類 | フランス語コミュニケーションⅠA1 | 1 |
| | | | | | フランス語コミュニケーションⅠA2 | 1 |
| | | | | | フランス語コミュニケーションⅠA（平成25～27年度入学者） | 2 |
| | | | | | フランス語演習（読む･書く）A（平成24年度以前入学者） | 2 |
| フランス語B | 2 | 粕谷　雄一 | 前期･木曜･3限 | 国際学類 | フランス語コミュニケーションⅠA1 | 1 |
| | | | | | フランス語コミュニケーションⅠA2 | 1 |
| | | | | | フランス語コミュニケーションⅠA（平成25～27年度入学者） | 2 |
| | | | | | フランス語演習（読む･書く）A（平成24年度以前入学者） | 2 |
| フランス語C | 2 | 粕谷　雄一 | 前期･月曜･4限 | 国際学類 | フランス語コミュニケーションⅣA（平成25～27年度入学者） | 2 |
| | | | | | フランス語演習（総合）A（平成24年度以前入学者） | 2 |
| フランス語C | 2 | 粕谷　雄一 | 後期･月曜･4限 | 国際学類 | フランス語コミュニケーションⅣB（平成25～27年度入学者） | 2 |
| | | | | | フランス語演習（総合）B（平成24年度以前入学者） | 2 |
| フランス語C | 2 | C.アンドリュ | 後期･火曜･3限 | 国際学類 | フランス語コミュニケーションⅡB1 | 1 |
| | | | | | フランス語コミュニケーションⅡB2 | 1 |
| | | | | | フランス語コミュニケーションⅡB（平成25～27年度入学者） | 2 |
| | | | | | フランス語演習（聞く･話す）B（平成24年度以前入学者） | 2 |
| フランス語C | 2 | 阪上るり子 | 後期･木曜･2限 | 国際学類 | フランス語コミュニケーションⅠB1 | 1 |
| | | | | | フランス語コミュニケーションⅠB2 | 1 |
| | | | | | フランス語コミュニケーションⅠB（平成25～27年度入学者） | 2 |
| | | | | | フランス語演習（読む･書く）B（平成24年度以前入学者） | 2 |
| フランス語C | 2 | 粕谷　雄一 | 後期･木曜･3限 | 国際学類 | フランス語コミュニケーションⅠB1 | 1 |
| | | | | | フランス語コミュニケーションⅠB2 | 1 |
| | | | | | フランス語コミュニケーションⅠB（平成25～27年度入学者） | 2 |
| | | | | | フランス語演習（読む･書く）B（平成24年度以前入学者） | 2 |
| フランス語C | 2 | 粕谷　雄一 | 後期･金曜･3限 | 国際学類 | ヨーロッパ文化特論A1 | 1 |
| | | | | | ヨーロッパ文化特論A2 | 1 |
| | | | | | ヨーロッパ文化特論A（平成26～27年度入学者） | 2 |
| | | | | | ヨーロッパ圏理解A（平成25年度以前入学者） | 2 |
| ロシア語B | 2 | 平松　潤奈 | 前期･火曜･3限 | 国際学類 | ロシア語コミュニケーションⅠA1 | 1 |
| | | | | | ロシア語コミュニケーションⅠA2 | 1 |
| | | | | | ロシア語コミュニケーションⅠA（平成27年度以前入学者） | 2 |
| ロシア語B | 2 | 平松　潤奈 | 前期･木曜･3限 | 国際学類 | ロシア語コミュニケーションⅠB1 | 1 |
| | | | | | ロシア語コミュニケーションⅠB2 | 1 |
| | | | | | ロシア語コミュニケーションⅠB（平成27年度以前入学者） | 2 |
| ロシア語B | 2 | 平松　潤奈 | 後期･火曜･3限 | 国際学類 | ロシア語コミュニケーションⅡA1 | 1 |
| | | | | | ロシア語コミュニケーションⅡA2 | 1 |
| | | | | | ロシア語コミュニケーションⅡA（平成27年度以前入学者） | 2 |
| ロシア語B | 2 | 平松　潤奈 | 後期･木曜･3限 | 国際学類 | ロシア語コミュニケーションⅡB1 | 1 |
| | | | | | ロシア語コミュニケーションⅡB2 | 1 |
| | | | | | ロシア語コミュニケーションⅡB（平成27年度以前入学者） | 2 |
| ロシア語C | 2 | 平松　潤奈 | 前期･水曜･5限 | 国際学類 | ロシア語コミュニケーションⅢ（平成27年度以前入学者） | 2 |
| ロシア語C | 2 | 平松　潤奈 | 後期･水曜･5限 | 国際学類 | ロシア語コミュニケーションⅣ（平成27年度以前入学者） | 2 |
| 中国語C | 2 | 王学松 | 後期･水曜･1限 | 国際学類 | 現代中国時事文B（平成27年度以前入学者） | 2 |
| 朝鮮語C | 2 | 南　　相瓔 | 前期･月曜･5限 | 国際学類 | 朝鮮語コミュニケーションⅢA（平成27年度以前入学者） | 2 |
| 朝鮮語C | 2 | 南　　相瓔 | 後期･月曜･5限 | 国際学類 | 朝鮮語コミュニケーションⅢB（平成27年度以前入学者） | 2 |

## 10. Web版シラバスの利用方法

### (1) シラバスについて

シラバスには，授業目標，授業内容，授業計画，評価の方法，オフィスアワー等重要な項目が記載されています。授業を選択する際には，シラバスをよく読んでおく必要があります。

### (2) シラバスの見方

金沢大学Webサイトから（http://sab.adm.kanazawa-u.ac.jp/）
在学生 → Web版シラバス（授業案内） を開きます。

共通教育科目の検索は，
ここから行います。

### (3) 検索方法

① 科目区分から検索する。

「共通教育科目からの検索」の
「科目区分検索」をクリックします。

科目区分，対象学生のプルダウンから
選択し，検索ボタンを
クリックします。

② 曜日・時限を選択して検索する。

科目区分，対象学生のプルダウンから
選択し，

開講期，曜日，時限を選択し，
検索ボタンをクリックします。

③ 科目名，教員名，キーワードから検索する。

科目名，教員名，キーワードから
検索することもできます。

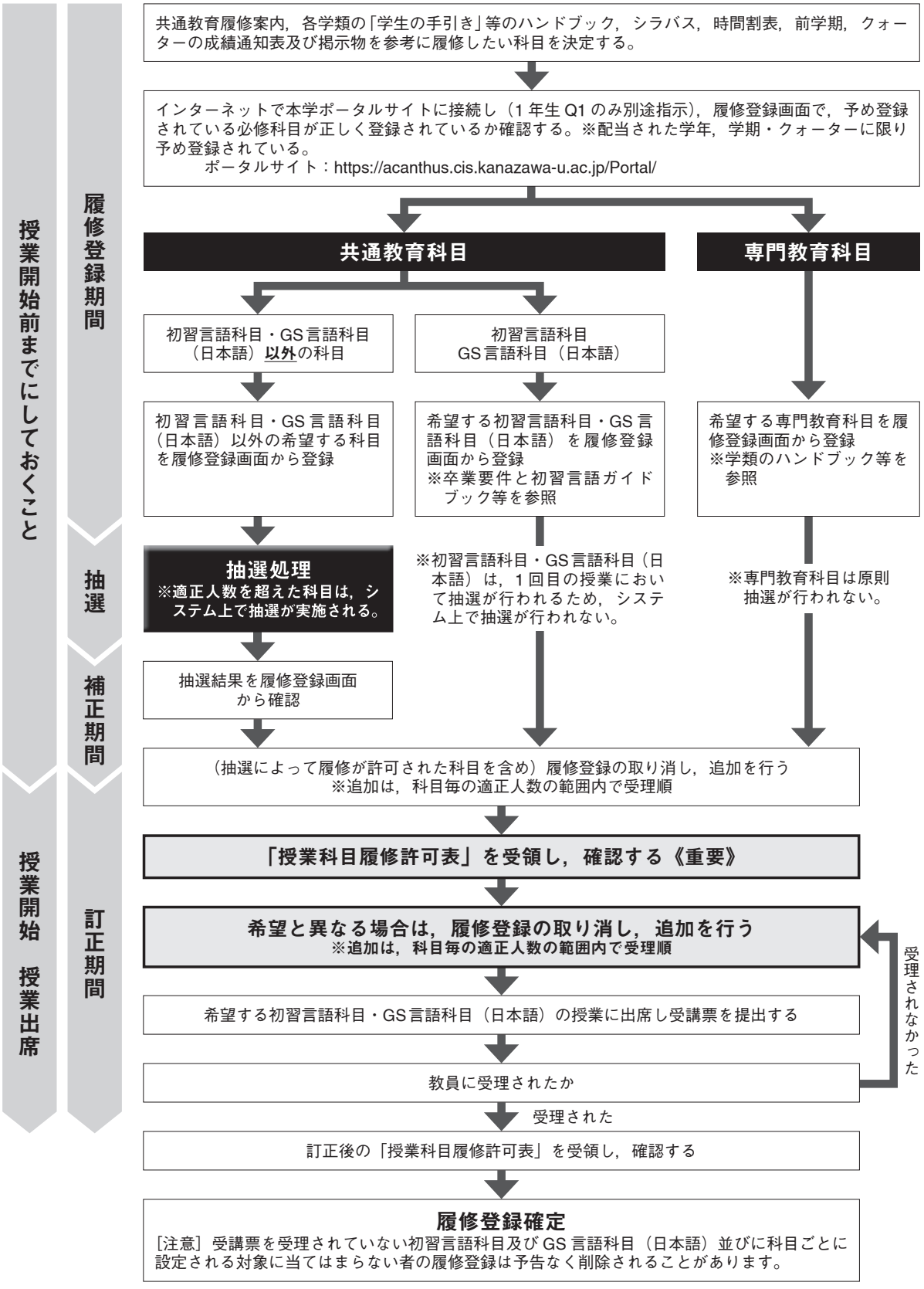
※学域，曜日・時限，科目名，教員名，キーワードの条件を組み合わせて検索することもできます。

見たい科目の科目名を
クリックします。

選択した科目のシラバスが
表示されます。

# 11. 履修登録の手続・方法

## 履修登録の流れ図




※平成29年度後期からは新システムの稼働を予定しているため変更となります。

**(1) 履修登録手続きに必要な知識**
①学籍番号
②名列番号
③時間割番号
④インターネットを利用した履修登録
⑤履修登録の種類
**(2) 履修登録日程の概要**
**(3) 履修登録期間にする事項**
**(4) 履修登録補正期間にする事項**
**(5) 授業開始１週間にする事項**
**(6) 履修登録訂正期間にする事項**



各学期・クォーターに開講される授業科目で単位認定を希望する授業科目は，すべて履修登録が必要です。期限に遅れたり，手続きミスをしたりすると，その学期・クォーターの履修ができなくなりますので，以下の内容をよく読んで，間違いのないようにしてください。

また，変更などは掲示しますので，常に掲示板を見て，早め早めに手続きを済ますようにしてください。

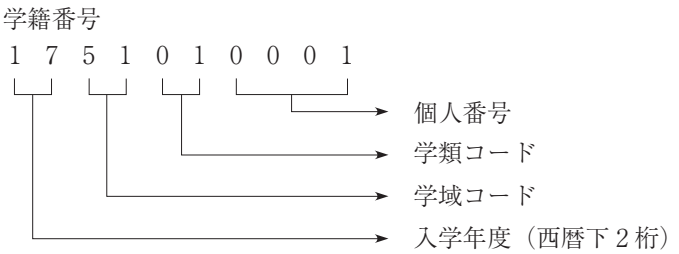
専門教育科目の履修についても履修登録が必要です（医学類を除く）。詳細は学類からの指示に従ってください。

## (1) 履修登録手続きに必要な知識

### ① 学籍番号

学生一人一人に卒業まで基本的に変更しない学籍番号が与えられています。各種申請や呼び出し，掲示など様々な場面で使用されます。必ず学生証で確認してください。

履修登録にあたっては，②で説明する名列番号とともに，（５）で説明する受講票への記入で用います。




なお，学籍番号は右のような規則で付番されています。

学域・学類番号

| 学　域 | 学域コード | 学　類 | 学類コード |
|---|---|---|---|
| 人間社会学域 | 51 | 人文学類 | 01 |
| | | 法学類 | 02 |
| | | 経済学類 | 03 |
| | | 学校教育学類 | 04 |
| | | 地域創造学類 | 05 |
| | | 国際学類 | 06 |

| 学　域 | 学域コード | 学　類 | 学類コード |
|---|---|---|---|
| 理工学域 | 52 | 数物科学類 | 01 |
| | | 物質化学類 | 02 |
| | | 機械工学類 | 03 |
| | | 電子情報学類 | 04 |
| | | 環境デザイン学類 | 05 |
| | | 自然システム学類 | 06 |

| 学　域 | 学域コード | 学　類 | 学類コード |
|---|---|---|---|
| 医薬保健学域 | 53 | 医学類 | 01 |
| | | 薬学類・創薬科学類 | 02 |
| | | 保健学類 | 03 |

### ② 名列番号

学域・学類・学年ごとに氏名を50音順に並べた名簿上の順序を名列番号と言います。

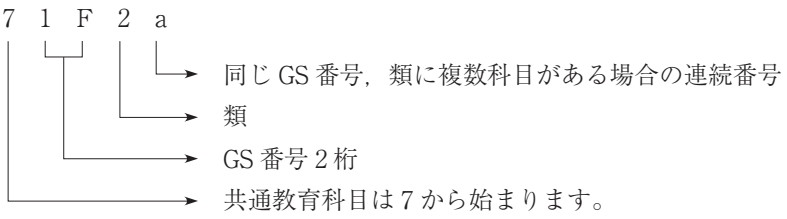
また，この番号は，所属によってはコース等の配属により変更され，学期当初に掲示されますので確認してください。

### ③ 時間割番号

開講される共通教育科目すべてに５桁の時間割番号が付けられています。必ず別冊子「共通教育科目授業時間割表2017」で確認してください。同一科目が複数開講される場合等は，枝番（小数点以下）

が付きます。
なお，GS科目は，以下の規則で科目番号が付番されていますので，履修登録にあたって参考にしてください。

例）GS科目 「1F 物理の世界」




**④ インターネットを利用した履修登録**

本学では，インターネットを利用して履修登録を行います。

履修登録画面へは，学内，学外を問わず接続できます。ただし，学内ネットワークを利用する場合は，**ネットワークID**を自ら取得する必要があります。取得方法は，共通教育ガイダンスで配布される資料を参照してください。

また，履修登録画面へのログインにあたっては，共通教育ガイダンスで配付される「**金沢大学ID**」と，そのパスワードが必要です。詳しい方法は，学生便覧を参照してください。

※平成29年度後期からシステムの変更が予定されています。詳しいことは改めてお知らせします。



**⑤ 履修登録の種類**

科目により，履修登録には５つの種類があります。

**（ア）予め登録されている科目**

学類から必修科目として指定されている共通教育科目は，配当されている学年，学期・クォーターに限り，予め履修登録されています。

**（イ）受講票により抽選される科目**

初習言語科目及び留学生のみ履修登録可能なGS言語科目（日本語）は，履修登録があり，かつ受講票を教員に提出して受理された場合に履修が許可されます。

**（ウ）システムにより抽選される科目（システム抽選対象科目）**

GS科目，EAP（Retake），自由履修科目は履修登録期間内に希望する科目を登録します。希望する学生の数が科目ごとに設定された適正人数を超えた場合，予め設定された期日にシステムにより抽選が行われます。

**（エ）抽選せず履修登録する科目**

専門教育科目（別に指示のあるものを除く），選択科目として指定された基礎科目，シティカレッジで開講する科目及び放送大学科目は，システムにより抽選されることなく履修登録できます。（適正人数の設定のない一部のGS科目，自由履修科目も同様です。）

**（オ）事前の選考等で履修者を決定する科目**

（ア）～（エ）のほか，事前に選考などを行い，履修者を決定する科目等もあります。詳細は，科目ごとに掲示等でお知らせします。

## (2) 履修登録日程の概要

履修登録日程は，以下の期間等から構成されます。各日程などの概要はここに記載していますが，詳細は（３）以降を参照してください。

**・履修登録期間**

専門教育科目を含め履修を希望する科目をすべて登録します。

（**・システム抽選処理**）

履修登録期間に希望者が適正人数を超えたシステム抽選対象科目について抽選します。

**・履修登録補正期間**

システム抽選により履修が許可されなかった科目を中心に履修登録を補正します。

**・授業開始**

希望する授業に出席します。初習言語科目及びGS言語科目（日本語）の履修を希望する場合は，履修登録した授業の１回目の授業に出席し，受講票を提出します。

**・履修登録訂正期間**

履修登録を授業科目履修許可表により確認し，間違いがあれば訂正します。

### (3) 履修登録期間にする事項

まず，自分だけの時間割（予定表）を作成してください。その手順と注意事項は以下のとおりです。

**① 時間割（予定表）作成の手順**

学類別の卒業要件（56ページ～75ページ）と共通教育科目の時間帯表（100ページ～），さらに時間割表とシラバスを参照し，以下の例（１年第１クォーターの場合）を参考に本冊子に付いている時間割表に記入してみてください。

Step１　**必修科目**（履修して単位修得しなければ卒業できない科目）を入れる

大学・社会生活論／初学者ゼミⅠ／GS科目「３A プレゼン・ディベート論（初学者ゼミⅡ）」／地域概論／GS言語科目（英語）「TOEIC準備」及び「EAP」／情報処理基礎／必修指定の基礎科目（理工学域および医薬保健学域）

＊開講期は，「共通教育科目の時間帯表」または履修ガイダンスで確認してください。

＊GS言語科目（英語）は履修する時間割が指定されています。あなたが指定された時間割は，履修ガイダンスにおいて配付されます。

＊専門教育科目の時間をあけておいてください。あとで各学類のシラバス・時間割表をみて授業科目を入れてください。（シラバスを使えば，シラバス・時間割配付前に専門教育科目の時間に開講される授業科目を知ることができます。トップページで学域からの検索をクリックし，検索画面で所属学類と学年・開講期を選択すると，履修できる専門教育科目の一覧を見ることができます。）

Step２　**初習言語科目及びGS言語科目（日本語）**を入れる

初習言語科目‥必修の学類では初習言語Aを２コマ入れるのが標準

GS言語科目（日本語）…留学生のみ登録します。対象学生には個別に指示されます。

＊初習言語科目は，学類等ごとに細かな指導があるので，「初習言語科目」（46ページ）および『初習言語ガイドブック』を参照してください。

Step３　**その他の履修希望科目**を入れる

＊学類別の卒業要件（56ページ～75ページ）及びシラバスを参考に授業科目を選択してください。

＊「履修に関するいろいろな制限」（10ページ）と「各科目の履修・単位修得方法」（23ページ）も注意して読んでください。

**② 時間割（予定表）作成における留意事項**

・GS科目，初習言語科目及び自由履修科目は，希望者が適正人数を上回った場合，抽選が行われ，その結果によって履修が許可されないことがあります。その場合のために，**第２希望以降をできるだけ多くあらかじめ想定**しておいてください。

・抽選において優先される学類，学年等や，履修登録が特定の学類，学年等に限定されている科目がありますので，シラバスや別冊子「共通教育科目　授業時間割表2017」を参照し，確認してください。

・本学との単位互換協定により，**「いしかわシティカレッジ」の授業科目と放送大学の指定された授業科目について修得した単位は，卒業要件の単位数に入れる**ことができます。詳しくは「20.「いしかわシティカレッジ」の授業科目の履修」（83ページ），「21．放送大学の授業科目の履修」（84ページ）を参照してください。

・本学入学前に大学・短大等で単位修得をしたことのある学生は，入学前の既修得単位認定の制度を利用することができます。詳しくは，「18．入学前の既修得単位の認定」（82ページ）を参照してください。ただし，審査結果の通知は履修登録後になるので，通常どおりに履修登録の手続きを進めてください。

・外部試験（TOEIC等）により，所定のスコア・成績を得た学生は，外部試験による単位を認定する制度があります。詳しくは，「（７）外部試験による単位の認定」（35ページ，51ページ）を参照してください。

**③　インターネットから履修登録を行う**

・履修登録はインターネットを通して行います。

・まず必修科目が正しく登録されているか確認してください。（疑義がある場合は，至急学務係に申し出てください。）

・作成した時間割表（予定表）に従って，初習言語科目，GS言語科目（日本語），その他の履修希望科目を，専門教育科目を含めすべて登録してください（医学類は専門教育科目の登録は必要ありません）。

・システムによる抽選にあたっては，第１希望から抽選対象外科目が登録されている場合，初めて現われる抽選対象科目までは抽選に先だって処理が行われ，初めて現われる抽選対象科目が抽選処理上は第１希望として扱われますので，考慮してください。

・システム抽選対象科目については，抽選の結果，履修が許可されなかった場合のため，予めできるだけ多く登録するようにしてください。

・集中講義やいしかわシティカレッジ・放送大学の授業科目についても履修登録が必要です。

・履修登録のために入力するのは，履修する授業科目の時間割番号です。時間割番号は，別冊「共通教育科目　授業時間割表2017」にある赤い５桁の英数字（同一科目が複数開講される場合は小数点以下の枝番が付く）で，シラバスにも記入されています。なお，しばしば時間割に変更がありますので，常に掲示に注意してください。

### (4) 履修登録補正期間にする事項

システム抽選の結果をインターネットから確認してください。抽選の結果，履修が許可されなかった科目がある場合や，履修登録を間違えた場合は，補正を行います。

この期間には，抽選の結果履修が許可された科目を含め，履修登録の取り消し及び追加をすることができますが，適正人数の範囲内で受理順での登録となりますので，注意してください。

### (5) 授業開始１週間にする事項

**①　科目ガイダンス**

初習言語科目及びGS言語科目（日本語）の第１週目の授業では，授業内容などの説明（授業ガイダンス）や受講者数の調整などが行われます。これを**科目ガイダンス**と呼びます。

科目ガイダンスに出席した結果，**受講を希望する場合は，授業担当教員の指示に従い，学籍番号，氏名などの必要事項を記入の上，受講票を提出**してください（科目ガイダンス開始時に受講票を集める場合もあります）。受理されれば授業担当教員からその授業科目の履修が許可されたことになります。その科目を履修登録していない場合は，履修登録訂正期間終了までに登録してください。ただし，適正人数に基づき，受講者数調整（10ページ）が行われる場合があります。

科目ガイダンスは，通常の授業時間（90分）を，**前半40分，移動10分，後半40分**に分け，前半・後半に同じ説明をくり返すことで行います。（対象学生が限定されている授業では，移動時間をとらずに後半まで連続で講義内容の説明を行う場合もあります。また，前半で受講者が適正人数に達した場合には後半の科目ガイダンスを行わないこともあります。）

総合教育講義棟では，**通常の授業時間の開始・終了のチャイム以外に，第１週目だけ前半の終了時と後半の開始時にチャイムが鳴ります。**

| | | |
|---|---|---|
| 前半 | 40分 | 授業ガイダンスと受講者数調整 |
| 休憩 | 10分 | 移動（抽選に漏れた場合など） |
| 後半 | 40分 | 授業ガイダンスと受講者数調整（実施しない授業もある） |

受講票は，本冊子の最後に付録として綴じ込まれています。不足した場合には，基幹教育学務係に申し出てください。

＊科目ガイダンス前半に受講票を受理した結果は，移動時間にその教室の黒板に明記されます。後半は人数に空きのある別の授業科目の科目ガイダンスに出席してかまいません。

＊集中講義もこの期間にガイダンスを開催します。その日時や場所については，別冊子の「共通教育科目 授業時間割表2017」を参照してください。いしかわシティカレッジの他大学提供科目と放送大学の授業科目については，基幹教育学務係に問い合わせてください。

**② 科目ガイダンスの注意事項**

・受講票の受理は履修登録そのものではありません。
・受講票を提出したあとで受講を取りやめる場合は，必ず担当教員へその旨を申し出てください。
・受講者数調整の結果，受講票が受理されなかった場合，当該履修登録は**自分で**削除してください。
・受講票は，本人が科目ガイダンスに出席して，そのときにその教室で授業担当教員に直接手渡すことになっています。したがって，移動時間・廊下・教員室・講師控室においては受理されませんし，郵送や代理による提出も受け付けられません。
・前半の科目ガイダンスで適正人数または予定数に達した場合は，第１週目から授業が行われる科目があるので，筆記用具・ノート等を持参してください。それ以外のものが必要な場合はシラバスに記載します。
・病気・事故など不測の事態で受講票を提出できない場合は，基幹教育学務係に申し出てください。



### (6) 履修登録訂正期間にする事項

・「授業科目履修許可表」を基幹教育学務係で受け取り，履修が許可された科目や，記載されている注意事項を確認してください。
・「授業科目履修許可表」の履修許可科目がすべて申請どおりならば，その「授業科目履修許可表」をそのまま保管してください。これで履修許可科目が確定し，履修登録は終了です。
・「授業科目履修許可表」の履修許可科目に，もし間違いがあれば（あるいは追加・削除したい授業科目があれば），必ずこの期間中にインターネットで訂正してください。期間を過ぎると訂正はできません。
・履修登録補正期間と同じく，履修登録の取り消し及び追加をすることができますが，適正人数の範囲内で受理順での登録となりますので，注意してください。
・訂正をした場合には，訂正後に再発行される履修許可表を必ず受け取り，再確認してください。再確認の結果，再申請どおりであれば，その履修許可表をそのまま保管してください。これで履修登録は終了です。
・初習言語科目及びGS言語科目（日本語）については，受講票が受理されていない科目の履修登録をした場合，予告なく履修許可を取り消されることがあります。
・履修登録画面上登録できたとしても，科目ごとに設定されている対象学生に該当しない場合や，単位認定に不都合がある場合，予告なく履修許可を取り消されることがあります。
・「授業科目履修許可表」は，次学期・クォーター開始前の成績通知表受領まで大切に保管してください。

## 12. 各科目の履修・単位修得方法

ここでは，各科目の履修や単位修得のルールを解説します。本年度の開講科目と授業内容についてはWeb版シラバスを，学類等ごとの卒業に必要な単位数や履修上の制約などは「13. 学類別の卒業要件（共通教育科目）」（56～75ページ）を見てください。

| 導　　入　　科　　目 |
|---|

**(1) 導入科目**には**「大学・社会生活論」，「初学者ゼミⅠ」，「情報処理基礎」及び「地域概論」があり，いずれも1年**第1クォーターに開講される**必修科目**です。学類によっては，第2クォーター，第3クォーターに開講されますので，100ページ以降の「共通教育科目の時間帯表」または，履修ガイダンスで確認してください。なお，**GS科目「3A　プレゼン・ディベート論（初学者ゼミⅡ）」も必修科目**であり，これらの必修科目はシラバスの「対象学生」の欄に「○○学類1年限定」などとなっていますので，**対象学生を自分が所属する学類に限定している授業を，必ず履修**してください。

**(2)「大学・社会生活論」と「初学者ゼミⅠ」**は，新入生が，できるだけ早く大学のあり方に慣れ，大学生らしい学習態度・学習技術・生活態度及び自己管理力を身につけて，将来を見据えながら充実した大学生活をおくれるようになることを目的とした授業科目です。

**(3)「大学・社会生活論」**はオムニバス形式でさまざまな内容の講義が行われます。主な講義内容は，以下のとおりです。いくつかの項目については，eラーニングを利用して授業が行われます。学類独自の内容が追加される場合もあります。

ガイダンス
大学図書館の利用法
大学の使命・学類の使命
大学における学習方法
ハラスメント
環境論（環境問題の基礎）
人権論
健康論（対面授業とは別に,「タバコの害」「健康診断のよみかた」「熱中症」「食事バランスと健康」「一次救命措置～心肺蘇生とAED～」「男・女のからだのこと」等をeラーニングで配信）
薬物問題を考える
消費者被害に遭わないために
留学と国際交流
日本国憲法
金沢大学の歴史
企業倫理（技術者倫理）
就職・進学論
学問論
大人の交通マナー
医療倫理・生命倫理
新聞から学ぶ

**(4)「初学者ゼミⅠ」**は，クラス分けなどのために第1回の授業が通常の時間割や教室とは異なっていることがあります。シラバスや掲示などを注意して見るようにしてください。

**(5)「情報処理基礎」**は，大学に入学して最初にeラーニングを行う授業です。講義の内容は大きく分けて，“情報倫理とネットワークセキュリティ”，“学術情報検索”，“学類独自のITリテラシー”の３つの内容があり，必携の携帯型パソコンを使って授業が行われます（学類によっては一部の授業内容を総合メディア基盤センター等のパソコンを使って行います)。医学類は前半と後半で実施時間，実施場所が異なるので学類での説明を良く聞いてください。講義内容は以下のとおりです。

ガイダンス（講義の説明，無線LANの使い方，アカンサスポータルの使い方）
情報倫理とネットワークセキュリティ
学術情報検索
学類独自のITリテラシー（学類によって教育内容が違います）

**(6)「地域概論」**は，学類で学ぶ専門分野と地域・社会との繋がりについて理解し，地域・社会に対する関心を高め，自分の将来の目標を意識しつつ，大学でどのように学ぶかを考える授業科目です。

授業に加えてインターネットによるビデオ教材「いしかわで学ぶ未来可能性（地域創生概論)」を使って各自で学びます。

いしかわで学ぶ未来可能性（地域創生概論）
①総論（約90分）
②石川の自然・文化・歴史（約90分）
③石川の産業（約90分）
④「発想がチャレンジを生む」石川の産業に新風を！（約90分）



**(7)** 成績は合・否の２段階評価（人間社会学域の経済学類，地域創造学類および数物科学類以外の理工学域学生対象の「情報処理基礎」を除く）となっています。

**(8) 単位保留制度**について

導入科目には，単位保留制度（81ページ参照）が適用されます。それぞれのルールは次のとおりです。

① 大学・社会生活論
「保留」と評価された学生は，１年後期に課題が与えられ，指導を受けます。指示は後期開始時になされますので，掲示等に注意してください。

② 初学者ゼミⅠ
「保留」と評価された学生は，担当教員から次学期に課題が与えられ，指導を受けます。指示は次学期開始時になされますので，掲示等に注意してください。なお，GS科目「３Aプレゼン・ディベート論（初学者ゼミⅡ)」についても，単位保留制度が適用されます。

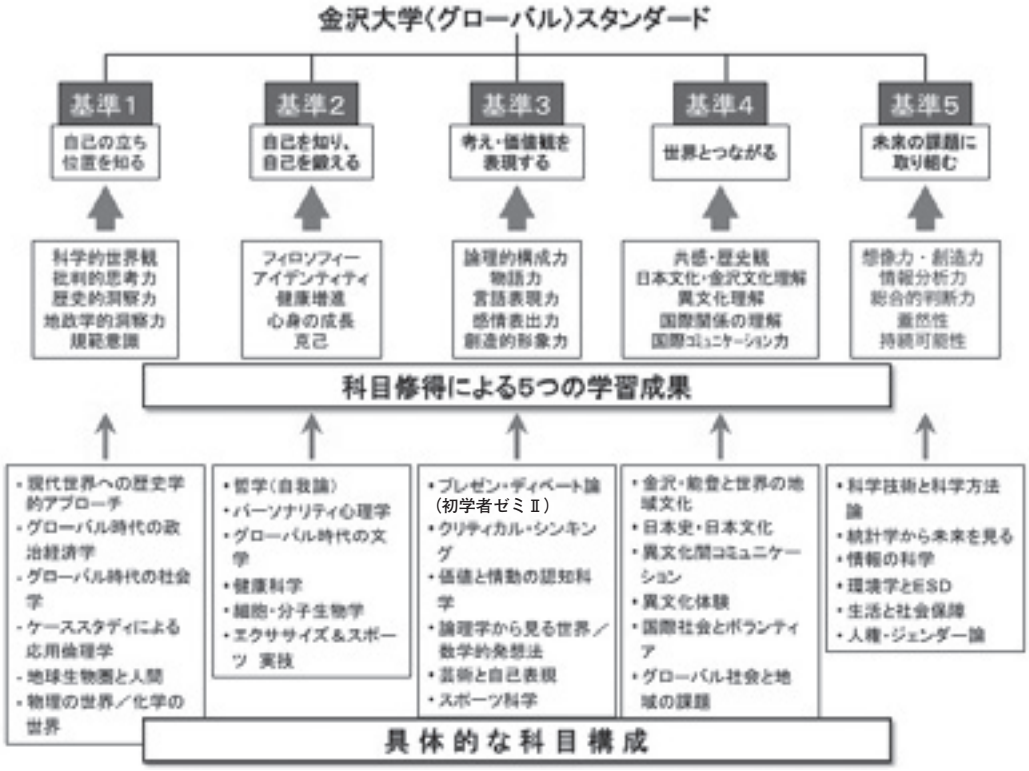
③ 情報処理基礎
「保留」と評価された学生は，夏休みまたは１年後期に指導教員の指定によって補講，課題あるいはレポートの再提出などを行うことになります。補講，課題や再レポートについての指示は，アカンサスポータルのメッセージを使って指導教員から行われますので，メッセージ，掲示等に注意してください。

④ 地域概論
「保留」と評価された学生は，次学期に課題が与えられ，指導を受けます。指示は後期開始時になされますので，掲示等に注意してください。

いずれの科目も，「保留」の期間は半年です。「否」となった場合は，次年度に所属学類に対象が限定されている授業を再履修してください。なお，「大学・社会生活論」に関しては，シティカレッジの機関開講科目で前年度「否」となった２年次以上の学生のみを対象とした授業が開かれます。同科目が「否」の場合，所属学類対象の１年の授業を再履修するか，シティカレッジの機関開講科目を履修するかは，各学類から指示がありますので，それに従ってください。また，「情報処理基礎」の場合は，「否」となった理由の部分について再履修を行います。

# G　S　科　目

GS科目はKUGSの教育目標で示された具体的な能力を獲得するために設定された科目群です。KUGSに基づいて５群より成り，各々に６科目が配置されています。




## (1) GS科目

GS科目の学習成果を示します。各科目の詳細な説明は，93ページおよびシラバスを参照してください。

①　１群　自己の立ち位置を知る（KUGS１）

| 科　目　名 | | 類 | 学習成果（キーワード） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 科学的世界観 | 批判的思考力 | 歴史的洞察力 | 地政学的洞察力 | 規範意識 |
| １A | 現代世界への歴史学的アプローチ | Ⅰ | ○ | ○ | ◎ | ○ | ○ |
| １B | グローバル時代の政治経済学 | | ○ | ○ | ○ | ◎ | ○ |
| １C | グローバル時代の社会学 | | ○ | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| １D | ケーススタディによる応用倫理学 | | ○ | ○ | — | ○ | ◎ |
| １E | 地球生物圏と人間 | Ⅱ | ◎ | ○ | ○ | — | — |
| １F | 物理の世界／化学の世界 | | ◎ | ○ | — | — | — |

②　２群　自己を知り，自己を鍛える（KUGS２）

| 科　目　名 | | 類 | 学習成果（キーワード） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | フィロソフィー | アイデンティティ | 健康増進 | 心身の成長 | 克己 |
| ２A | 哲学（自我論） | Ⅰ | ◎ | ○ | — | ○ | ○ |
| ２B | パーソナリティ心理学 | | ○ | ○ | — | ○ | ◎ |
| ２C | グローバル時代の文学 | | ○ | ◎ | — | ○ | ○ |
| ２D | 健康科学 | Ⅱ | — | ○ | ◎ | ○ | ○ |
| ２E | 細胞・分子生物学 | | ○ | ◎ | ○ | — | — |
| ２F | エクササイズ＆スポーツ　実技 | | — | — | ○ | ◎ | ○ |

③　3群　考え・価値観を表現する（KUGS３）

| 科　目　名 | | 学習成果（キーワード） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 論理的構成力 | 物語力 | 言語表現力 | 感情表出力 | 創造的形象力 |
| 3A | プレゼン･ディベート論（初学者ゼミⅡ）〈必修〉 | ○ | ○ | ◎ | ○ | — |
| 3B | クリティカル・シンキング | ○ | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| 3C | 価値と情動の認知科学 | ○ | — | ○ | — | ◎ |
| 3D | 論理学から見る世界／数学的発想法 | ◎ | — | ○ | — | ○ |
| 3E | 芸術と自己表現 | — | ○ | — | ◎ | ○ |
| 3F | スポーツ科学 | — | ○ | — | ◎ | ○ |

④　4群　世界とつながる（KUGS４）

| 科　目　名 | | 学習成果（キーワード） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 共感・歴史観 | 日本文化・金沢文化理解 | 異文化理解 | 国際関係の理解 | 国際コミュニケーション力 |
| 4A | 金沢・能登と世界の地域文化 | ○ | ◎ | — | — | ○ |
| 4B | 日本史・日本文化 | ◎ | ○ | — | ○ | — |
| 4C | 異文化間コミュニケーション | ○ | ○ | ◎ | — | ○ |
| 4D | 異文化体験 | ○ | — | ○ | ○ | ◎ |
| 4E | 国際社会とボランティア | ○ | ○ | ○ | ◎ | ○ |
| 4F | グローバル社会と地域の課題 | ◎ | ○ | ○ | ○ | — |

⑤　5群　未来の課題に取り組む（KUGS５）

| 科　目　名 | | 類 | 学習成果（キーワード） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 想像力・創造力 | 情報分析力 | 総合的判断力 | 蓋然性 | 持続可能性 |
| 5A | 科学技術と科学方法論 | Ⅰ | ◎ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 5B | 統計学から未来を見る | | — | ○ | ○ | ◎ | — |
| 5C | 情報の科学 | | ○ | ◎ | — | ○ | — |
| 5D | 環境学とESD | Ⅱ | ○ | ○ | ○ | — | ◎ |
| 5E | 生活と社会保障 | | — | ○ | ◎ | — | ○ |
| 5F | 人権・ジェンダー論 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ◎ |

## (2) 履修要件

「3A プレゼン・ディベート論（初学者ゼミⅡ）」は全員必修ですが，それ以外の科目は各群から3単位以上となるように履修する必要があります。3単位を越えた科目は，自由履修科目に含めることができます。その他，下表のとおりです。

GS科目の授業科目及び履修方法

| 1群　自己の立ち位置を知る（KUGS1） | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 科　目　名 | | 類 | 単位数 | 履修方法 |
| 1A | 現代世界への歴史学的アプローチ | Ⅰ | 1 | Ⅰ類から1単位，Ⅱ類から1単位を含む3単位を修得 |
| 1B | グローバル時代の政治経済学 | | 1 | |
| 1C | グローバル時代の社会学 | | 1 | |
| 1D | ケーススタディによる応用倫理学 | | 1 | |
| 1E | 地球生物圏と人間 | Ⅱ | 1 | |
| 1F | 物理の世界 | | 1 | |
| | 化学の世界 | | 1 | |
| 備考 | ※1F「物理の世界」及び「化学の世界」の2科目の単位を修得した場合，1単位はGS科目の修得すべき単位数に算入し，もう1単位は自由履修科目に算入する。 | | | |

| 2群　自己を知り，自己を鍛える（KUGS2） | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 科　目　名 | | 類 | 単位数 | 履修方法 |
| 2A | 哲学（自我論） | Ⅰ | 1 | Ⅰ類から1単位，Ⅱ類から1単位を含む3単位を修得 |
| 2B | パーソナリティ心理学 | | 1 | |
| 2C | グローバル時代の文学 | | 1 | |
| 2D | 健康科学 | Ⅱ | 1 | |
| 2E | 細胞・分子生物学 | | 1 | |
| 2F | エクササイズ＆スポーツ　実技 | | 1<br>又は<br>0.5 | |
| 備考 | ※2F「エクササイズ＆スポーツ　実技」は，1単位までGS科目の修得すべき単位数に算入する。1単位を超える修得単位は，自由履修科目に算入する。 | | | |

| 3群　考え・価値観を表現する（KUGS3） | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 科　目　名 | | 類 | 単位数 | 履修方法 |
| 3A | プレゼン・ディベート論<br>（初学者ゼミⅡ） | | 1 | 「プレゼン・ディベート論（初学者ゼミⅡ）」〈必修〉を含む3単位を修得 |
| 3B | クリティカル・シンキング | | 1 | |
| 3C | 価値と情動の認知科学 | | 1 | |
| 3D | 論理学から見る世界 | | 1 | |
| | 数学的発想法 | | 1 | |
| 3E | 芸術と自己表現 | | 1 | |
| 3F | スポーツ科学 | | 1 | |
| 備考 | ※3D「論理学から見る世界」及び「数学的発想法」の2科目の単位を修得した場合，1単位はGS科目の修得すべき単位数に算入し，もう1単位は自由履修科目に算入する。<br>※3F「スポーツ科学」は，1単位までGS科目の修得すべき単位数に算入する。1単位を超える修得単位は，自由履修科目に算入する。 | | | |

| 4群　世界とつながる（KUGS４） | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 科　目　名 | | 類 | 単位数 | 履修方法 |
| 4A | 金沢・能登と世界の地域文化 | | 1 | 3単位を修得 |
| 4B | 日本史・日本文化 | | 1 | |
| 4C | 異文化間コミュニケーション | | 1 | |
| 4D | 異文化体験 | | 1～8 | |
| 4E | 国際社会とボランティア | | 1 | |
| 4F | グローバル社会と地域の課題 | | 1 | |
| 備考 | ※4D「異文化体験」は，1単位までGS科目の修得すべき単位数に算入する。1単位を超える修得単位は，自由履修科目に算入する。 | | | |

| 5群　未来の課題に取り組む（KUGS５） | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 科　目　名 | | 類 | 単位数 | 履修方法 |
| 5A | 科学技術と科学方法論 | Ⅰ | 1 | Ⅰ類から1単位，Ⅱ類から1単位を含む3単位を修得 |
| 5B | 統計学から未来を見る | | 1 | |
| 5C | 情報の科学 | | 1 | |
| 5D | 環境学とESD | Ⅱ | 1 | |
| 5E | 生活と社会保障 | | 1 | |
| 5F | 人権・ジェンダー論 | | 1 | |



### (3) 重複履修の禁止について

10ページの記載のとおり，重複履修は禁止されていますが,「２Ｆ エクササイズ＆スポーツ　実技」,「３Ｆ スポーツ科学」及び「４Ｄ 異文化体験」については，以下のとおり取り扱います。

① 「２Ｆ エクササイズ＆スポーツ　実技」及び「３Ｆ スポーツ科学」

Web版シラバス等において，科目名の後ろに記載されている種目名やテーマまでを含めて科目名として取り扱います。疑義のある場合は，基幹教育学務係に問い合わせてください。

② 「４Ｄ 異文化体験」

同一の留学プログラム等による重複履修は禁止します。疑義のある場合は，担当教員に問い合わせてください。

### (4) 保健体育関連科目の履修

GS科目の保健体育関連科目は,「２Ｆ エクササイズ＆スポーツ　実技」（0.5単位及び1単位),「３Ｆ スポーツ科学」（１単位）です。クォーター，セメスターのほか，集中講義も開講されます。実技授業は，Web版シラバスのキーワード欄に「身体・スポーツ」と記載されています。シラバスをよく読み，趣旨を理解して履修してください。

① 履修制限

**集中講義をのぞく実技授業は，各クォーター内において，２つの授業科目までしか履修できません。さらに，実技授業は同一曜日に１つしか履修できません。また，GS科目２Ｆ・３Ｆの修得できる単位数は，それぞれ２単位以下に制限されています。**

② 履修の方法

ａ）各クォーターの**第１週目の授業時間は，**授業内容や対象等を十分に確認したうえで，**スポーツに適した服装，体育館用シューズを持参し，体育館に集合**してください。更衣室は体育館にあります。

ｂ）インターネットからの履修登録や履修許可表確認・訂正等の必要な手続きは，他の授業科目と同じです。

③ その他の注意事項

ａ）集合場所や雨天等の授業場所の変更通知は，アカンサスポータルを通じて行います。

b）**貴重品は，各自の責任で管理してください。**盗難事件も発生しています。**希望者は基幹教育学務係に預けられます。**また，**ノートパソコンは，３階のＢ10示範教室，４階のＣ10示範教室および５階のＤ10講義室前にある専用ロッカーに，授業時間の間だけ預けることができます。**（110ページ参照）

c）身体運動やスポーツに適した服装に着替えて，受講してください。

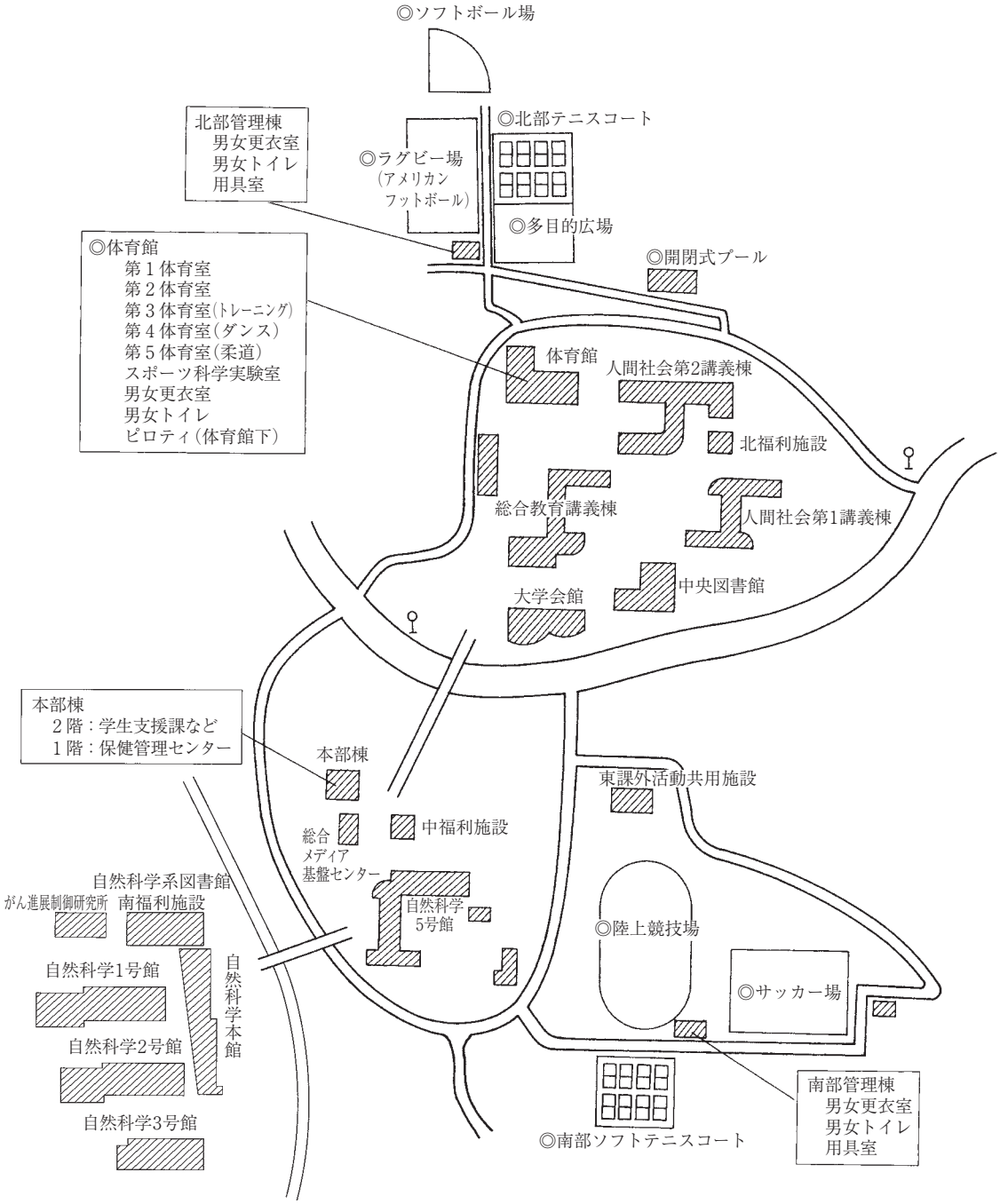
d）体育館では，内履き専用シューズを使用してください。

### (5) 単位保留制度について

GS科目では，「３Ａ　プレゼン・ディベート論（初学者ゼミⅡ）」のみ保留制度（81ページ参照）が適用されます。

「保留」と評価された学生は，担当教員から次学期に課題が与えられ，指導を受けます。指示は次学期開始時になされますので，掲示等に注意してください。

## 保健体育（GS 科目 2F・3F）関連科目の授業場所配置図



# GS言語科目（英語）

共通教育の英語科目は「GS言語科目（英語）」（以下，GS言語科目）と呼ばれます。**GS言語科目は全学類の必修科目**です。所属する学類にかかわらず，**必修単位数（卒業に必要な単位数）は8単位**です。（外国人留学生の必修単位数については，GS言語科目（日本語）の（4）を参照してください。）

以下の説明をよく読んで，授業を履修してください。

## (1) 2つのコースと授業科目の区分

GS言語科目は「TOEIC準備」と「EAP」の2つのコースで構成されています。各コースの目標は，次のとおりです。

・「TOEIC準備」コース

このコースでは，TOEICテストに必要な英語能力の向上を目指します。（TOEICはTest of English for International Communicationの略称で，米国Educational Testing Service（ETS）の登録商標です。）

・「EAP」コース

このコースでは，大学で必要とされる英語能力の向上を目指します。（EAPはEnglish for Academic Purposesの略です。）



「TOEIC準備」と「EAP」の各コースには，それぞれ，IからIVの4つの授業科目があります。**各授業科目は8回の授業（8週間授業）からなり，単位数は各1単位**です。2つのコースの全8科目の単位が認定されると，GS言語科目の単位が計8単位となり，必修単位を満たすことができます。

□ **GS言語科目のコースと授業科目**

| コース名 | 授業科目名 |
|---|---|
| 「TOEIC準備」コース | TOEIC準備Ⅰ |
| | TOEIC準備Ⅱ |
| | TOEIC準備Ⅲ |
| | TOEIC準備Ⅳ |
| 「EAP」コース | EAP Ⅰ |
| | EAP Ⅱ |
| | EAP Ⅲ |
| | EAP Ⅳ |

**それぞれの授業科目は1単位で，8つの授業科目を履修して，8単位となる。**

GS言語科目には，「TOEIC準備」I/II/III/IVと「EAP」I/II/III/IV以外に，再履修者を対象とした授業科目があります。詳細については，**（6）**を参照してください。

## (2) 開講クォーター・開講時間帯と授業の種類

GS言語科目では，クォーターごとに，開講される時間帯と授業の種類が決まっています。また，GS言語科目（全8科目）では，各学生に対して，履修するクラスが事前に割り当てられています。詳細については，以下のとおりです。

### ① 開講クォーターと授業の種類

「TOEIC準備」コースの授業は，各クォーターに1つずつ開講されます。「EAP」コースの授業は，第1・第3・第4クォーターに開講され，第2クォーターには開講されません。（第1クォーターには，「EAP I」と「EAP II」の2つの授業が開講されます。）

GS言語科目の各授業科目の内容，開講クォーター，クラスサイズ（人数）は以下のとおりです。

### □ GS言語科目の内容と開講クォーター

| 授業科目名 | 内容 | 開講クォーター | クラスサイズ（人数） |
|---|---|---|---|
| TOEIC準備Ⅰ | 主にリスニング | 第１クォーター | 30 |
| TOEIC準備Ⅱ | 主にリーディング | 第２クォーター | 30 |
| TOEIC準備Ⅲ | リスニング・リーディングの統合 | 第３クォーター | 30 |
| TOEIC準備Ⅳ | リスニング・リーディングの統合 | 第４クォーター | 30 |
| EAP Ⅰ | アカデミックライティングの導入クラス | 第１クォーター | 30 |
| EAP Ⅱ | パブリック・スピーキングの導入クラス | 第１クォーター | 30 |
| EAP Ⅲ | 統合型アカデミック英語の授業（初級） | 第３クォーター | 20 |
| EAP Ⅳ | 統合型アカデミック英語の授業（中級） | 第４クォーター | 20 |

### ② 開講時間帯と履修ブロック

GS言語科目の開講時間帯は，複数の学類を組み合わせた「履修ブロック」ごとに設定されています。各履修ブロックに対応する学類は，次のとおりです。

人社第１ブロック（人社１）：人文学類，法学類，国際学類
人社第２ブロック（人社２）：経済学類，学校教育学類，地域創造学類
理工第１ブロック（理工１）：数物科学類，物質化学類，自然システム学類
理工第２ブロック（理工２）：機械工学類，電子情報学類，環境デザイン学類
医薬保ブロック　（医薬保）：医学類，薬学類・創薬科学類，保健学類

履修ブロックごとに，各クォーターの開講時間帯と授業の種類を示すと，次のようになります。

### □ 履修ブロックごとの開講時間帯と授業の種類

**第１クォーター**

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | | 人社１ TOEIC準備Ⅰ | 理工２ TOEIC準備Ⅰ | 人社２ TOEIC準備Ⅰ | 医薬保 TOEIC準備Ⅰ |
| 2 | | 人社２ EAP Ⅰ | 理工１ TOEIC準備Ⅰ | 人社１ EAP Ⅱ | 理工１ EAP Ⅱ |
| 3 | 人社１ EAP Ⅰ | 理工２ EAP Ⅰ | | 医薬保 EAP Ⅱ | 理工２ EAP Ⅱ |
| 4 | 医薬保 EAP Ⅰ | 理工１ EAP Ⅰ | 人社２ EAP Ⅱ | | |
| 5 | | | | | |

**第２クォーター**

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | | 人社１ TOEIC準備Ⅱ | 理工２ TOEIC準備Ⅱ | 人社２ TOEIC準備Ⅱ | 医薬保 TOEIC準備Ⅱ |
| 2 | | | 理工１ TOEIC準備Ⅱ | | |
| 3 | | | | | |
| 4 | | | | | |
| 5 | | | | | |

**第３クォーター**

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | | 人社１ TOEIC準備Ⅲ | 理工２ TOEIC準備Ⅲ | 人社２ TOEIC準備Ⅲ | 医薬保 TOEIC準備Ⅲ |
| 2 | | | 理工１ TOEIC準備Ⅲ | 人社１ EAP Ⅲ | 理工１ EAP Ⅲ |
| 3 | | | | 医薬保 EAP Ⅲ | 理工２ EAP Ⅲ |
| 4 | 人社２ EAP Ⅲ | | | | |
| 5 | | | | | |

**第４クォーター**

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | | 人社１ TOEIC準備Ⅳ | 理工２ TOEIC準備Ⅳ | 人社２ TOEIC準備Ⅳ | 医薬保 TOEIC準備Ⅳ |
| 2 | | | 理工１ TOEIC準備Ⅳ | 人社１ EAP Ⅳ | 理工１ EAP Ⅳ |
| 3 | | | | 医薬保 EAP Ⅳ | 理工２ EAP Ⅳ |
| 4 | 人社２ EAP Ⅳ | | | | |
| 5 | | | | | |

例えば，人社第１ブロック（人社１）に属する学生が履修するGS言語科目の種類と時間帯は，次のようになります。

第１クォーター：月曜３限「EAP I」，火曜１限「TOEIC準備 I」，木曜２限「EAP II」
第２クォーター：火曜１限「TOEIC準備 II」
第３クォーター：火曜１限「TOEIC準備 III」，木曜２限「EAP III」
第４クォーター：火曜１限「TOEIC準備 IV」，木曜２限「EAP IV」

## (3) クラス割り当て

「TOEIC準備」Ⅰ～Ⅳ及び「EAP」Ⅰ～Ⅳ（全８科目）は，履修ブロックごとに決められた時間帯に，割り当てられたクラスで履修しなければなりません。各学生が**履修すべきクラスの情報は，「GS言語科目クラス割り当て表」によって，個別に通知されます。必ず，割り当てられたクラスで授業を履修してください。**
クラスの割り当ては，同じ履修ブロック内の学生を，コンピュータシステムによって振り分けます。

・「TOEIC準備」コースのクラス割り当て
同じ履修ブロック内の全学生を，大まかな習熟度別に３つのグループ（上位層，中位層，下位層）に分けて，クラスを編成します。
・「EAP」コースのクラス割り当て
同じ履修ブロック内の全学生をランダムに割り振って，クラスを編成します。

## (4) 履修の準備と第１週の授業

### ① 履修するクラスの確認

各学生が履修すべきGS言語科目のクラスの情報は，「GS言語科目クラス割り当て表」によって，個別に通知されます。必ず，授業開始前に「クラス割り当て表」を受け取り，自分の履修すべきクラスを確認してください。

・第１クォーターと第２クォーターの「クラス割り当て表」は，共通教育履修ガイダンス（４月３日）で配付されます。
・第３クォーターと第４クォーターの「クラス割り当て表」は，第１・第２クォーターの成績交付時（９月末）に配付されます。

### ② シラバスの確認

「クラス割り当て表」に記載された授業科目について，Web版シラバスで授業の概要を確認してください。シラバスで教科書が指定されている場合は，事前に教科書を購入し，第１週の授業に持参してください。

### ③ 第１週の授業

**授業は第１週から始まりますので，必ず，出席してください。**第１週の授業を欠席した場合，その授業を受けられないことがあります。やむを得ない事情で第１週の授業に出席できない場合は，事前に基幹教育学務係に申し出てください。

## (5) 成績評価と単位認定

次の出席回数と合格基準を満たした場合，S/A/B/Cのうちのいずれかの成績評価となり，１単位が認定されます。

・出席回数：授業回数の３分の２以上
・合格基準：学習目標の達成度が60％以上

出席回数または合格基準を満たさなかった場合の評価は次のようになり，当該授業科目の単位は認定されません。（単位が認定されなかった場合は，**（6）**と**（7）**を参照してください。）

a）出席回数が不足している場合
・「TOEIC準備」と「EAP」のいずれの授業でも，評価は「放棄」となります。
（「TOEIC準備」については**（6）**の②，「EAP」については**（6）**の①を参照）

b）出席回数を満たしているが，期末試験を受験しなかった場合
期末試験を受験しなかった場合，期末試験の得点は0点となります。
・「TOEIC準備」コースの授業では，評価は「保留」となります。（**（6）**の③を参照）
・「EAP」コースの授業では，評価項目の合計が合格基準を満たさない場合，評価は「不可」となります。（**（6）**の①を参照）

c）出席回数を満たし，かつ，期末試験を受験して，合格基準に達しなかった場合
・「TOEIC準備」コースの授業では，評価は「保留」となります。（**（6）**の③を参照）
・「EAP」コースの授業では，評価は「不可」となります。（**（6）**の①を参照）

## (6) 単位が認定されなかった場合

1年次に割り当てられたクラスで単位が認定されなかった場合は，次の①から⑤の該当する項目をよく読んで，単位を修得してください。

### ①「EAP」で「不可」または「放棄」となった場合

「EAP」コースには，再履修者対象の授業科目があります。「不可」または「放棄」となった場合は，次クォーター以降に，再履修者対象の「EAP（Retake）」を履修してください。

#### □「EAP（Retake）」を履修する際の注意点

・「EAP（Retake）」には，I/II/III/IVの区分はありません。成績通知表で「不可」または「放棄」が確定している「EAP」I/II/III/IVのいずれかの授業がある場合に，「EAP（Retake）」を履修することができます。
・「EAP」で4単位を修得している場合は，「EAP（Retake）」を履修できません。
・「EAP（Retake）」は1単位で，認定された単位は，「EAP」I/II/III/IVのいずれの単位としても見なすことができます。
・開講クォーターと時間帯は，別冊子の「授業時間割表」で確認してください。
・適正人数は30人です。履修を希望する場合は，必ず，事前にシラバスを読み，システム抽選により履修可能となった授業の第1週に出席してください。
・シラバス内容が同一の授業は，重複して履修できません。

### ②「TOEIC準備」で「放棄」となった場合

「TOEIC準備」コースには，再履修者対象の授業科目はありません。そのため，「放棄」となった授業の単位を再履修によって修得することはできません。

「放棄」となった学生は，原則として，次のいずれかの方法で必修単位を修得してください。

a）「外部試験による単位認定制度」による単位認定を受ける。（**（7）**を参照）
b）2年次以降に開講される「TOEIC準備（演習）」を履修して，単位認定を受ける。

#### □「TOEIC準備（演習）」を履修する際の注意点

・2年次の第1クォーター開始前に，「TOEIC準備（演習）」の履修説明会を開きます。日程等の詳細は，2月上旬頃に掲示等で通知します。
・「TOEIC準備（演習）」の履修を希望する場合は，説明会に出席し，「放棄」となった理由を書面で示

して，履修許可を受けることが必要です。
・「TOEIC準備（演習）」は開講時間帯・開講数が限られ，受け入れ人数にも制限があるため，希望どおりに履修できない場合があります。

**③「TOEIC準備」で「保留」となった場合**

「TOEIC準備」コースには，再履修者対象の授業科目はありません。「TOEIC準備」で「保留」となった場合は，以下の方法で「保留」が解除され，単位が認定されます。「保留」が解除された場合の評価は，「C」となります。

**□「TOEIC準備」の「保留」の解除**

a）「TOEIC準備IV」による解除
・「TOEIC準備」I/II/IIIの「保留」は，「TOEIC準備IV」で「C」以上の評価を得た場合，すべて解除されます。

b）TOEICまたはTOEIC-IPによる解除
・「TOEIC準備」I/II/IIIで「保留」となり，「TOEIC準備IV」でも「保留」となった場合，２年次以降に解除を受ける「持ち越し保留」となります。
・「TOEIC準備」I/II/IIIの単位が認定され，「TOEIC準備IV」で「保留」となった場合，「TOEIC準備IV」のみ，２年次以降に保留の解除を受ける「持ち越し保留」となります。
・「持ち越し保留」は，原則として，２年次以降に，当該学生が受験日から２年以内のTOEICまたはTOEIC-IPのスコアを提示し，そのスコアが，当該学生が履修した「TOEIC準備IV」の合格基準を満たした場合，解除されます。（「TOEIC準備IV」が「放棄」となった学生は，直近に「保留」となった「TOEIC準備」の合格基準を満たした場合に解除されます。）

「TOEIC準備」の授業で「持ち越し保留」となった学生には，２年次の第１クォーター開始前に説明会を開き，履修指導を行います。日程等の詳細は，２月上旬頃に掲示等で通知します。

「持ち越し保留」となった学生は，「保留」解除に向けた学習計画を立てる上でも，２年次に用意されている「サポートクラス」への参加を推奨します。「サポートクラス」については，次の点に注意してください。

**□ 保留者限定の「サポートクラス」に関する注意点**

・「サポートクラス」は「持ち越し保留」となった学生を対象とした，保留者限定のクラスです。
・希望者のみを対象とし，人数の調整を行うことがあります。
・通常の授業科目ではないため，単位の認定はありません。
・その他の詳細については，保留者対象の説明会で確認してください。

**④ 海外語学研修・留学等で「放棄」または「不可」となった場合**

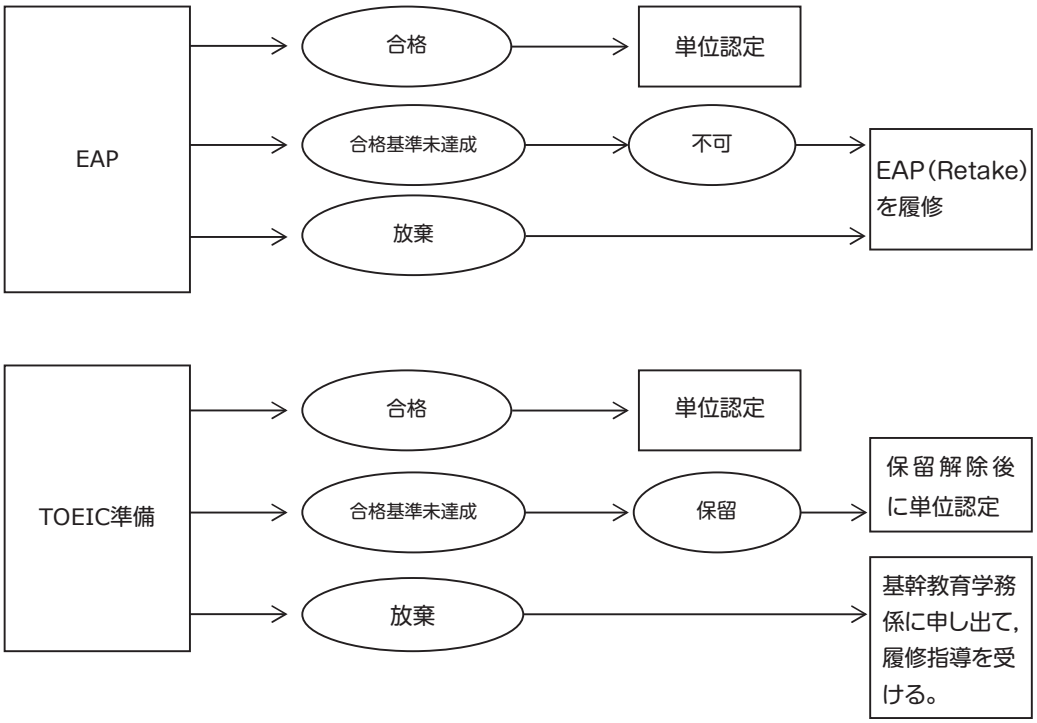
海外語学研修・留学等によって「放棄」または「不可」となった場合は，読み替え等によって単位が認定される場合があります。詳細については，基幹教育学務係で確認してください。

**⑤ その他の場合**

上の①から④以外の理由で単位を修得できなかった場合は，基幹教育学務係に申し出て，教員による履修指導を受けてください。

単位認定への流れを図に示すと，次のようになります。

□ GS言語科目の単位認定への流れ




## (7) 外部試験による単位認定制度

外部試験で所定の成績を得た者は，申請により，GS言語科目の単位認定を受けることができます。

①対象となる外部試験，スコア等の成績，認定される単位数などは，別表１のとおりです。
②別表１に記載された試験のうち，申請日が**受験日から２年以内**であれば，申請できます。
③この制度により単位認定を希望する者は，成績を証明できる書類（スコアレポートや合格証明書など）を添えて，**所属学類の学務係**へ所定の申請書を提出してください。申請の締切日は，**(8)** の⑦に準じます。
④審査に合格すれば，別表１に記載されたコースの科目の単位が認定されます。
⑤この制度により認定される単位は，必修単位数内の未修得分に充当されます。必修単位数内の未修得分が，別表１に記載された単位数より少ない場合，必修単位数を超える分は，修得単位としては反映されません。
⑥認定された場合の成績は「認定」となり，GPA制度から除外されます。
⑦複数回の申請の場合，必修単位数内で増加単位分のみを認定し，重複認定はしません。
⑧別表１の（１）の場合，認定される２単位は，原則として，以下の順で充当されます。（詳細は，基幹教育学務係で確認してください。）

・１年次での申請：
申請時以降のクォーターで開講される授業（申請時に履修中の授業を含む）に，順に充当する。ただし，申請時より前のクォーターに割り当てられた授業の単位が未修得となっている場合は，その授業に優先的に単位を充当する。
・２年次での申請：
１年次で単位が未修得となっている授業について単位認定を行う。

［別表１］

| | 試験名 | スコア等成績 | 認定単位 |
|---|---|---|---|
| (1) | TOEIC（TOEIC Listening & Reading Test） | 600～725 | 「TOEIC準備」コース 2単位 |
| | TOEIC-IP（TOEIC Listening & Reading IP Test） | 600～725 | |
| | TOEFL-iBT | 61～79 | 「EAP」コース 2単位 |
| | TOEFL-ITP | 500～549 | |
| | IELTS | 5.5 | |
| (2) | TOEIC（TOEIC Listening & Reading Test） | 730以上 | 「TOEIC準備」コース 4単位 |
| | TOEIC-IP（TOEIC Listening & Reading IP Test） | 730以上 | |
| | TOEFL-iBT | 80以上 | 「EAP」コース 4単位 |
| | TOEFL-ITP | 550以上 | |
| | IELTS | 6.0以上 | |
| | 実用英語技能検定 | 準１級・１級 | |

## (8) 外部試験による成績評価制度

**１年次の学生を対象とした**，外部試験によってGS言語科目を「S」または「A」で認定する制度があります。**この制度は，（７）の「外部試験による単位認定制度」とは異なります**ので，注意してください。

①**この制度は，１年次の学生が割り当てられたクラスで履修するGS言語科目においてのみ，適用されます。**１年次に履修するこれ以外の授業や２年次以降に履修する授業においては，この制度による成績評価を受けることはできません。
②対象となる外部試験，スコア等の成績，認定される科目と成績評価は，別表２のとおりです。
③別表２に記載された試験のうち，申請日が**受験日から２年以内**であれば，申請できます。
④この制度により成績評価を希望する者は，⑦の締切日までに，成績を証明できる書類（スコアレポートや合格証明書など）を添えて，**所属学類の学務係**へ所定の申請書を提出してください。
⑤審査に合格すれば，別表２に記載された評価で単位が認定されます。認定された科目はGPA制度の対象となります。
⑥**この制度による成績評価は，申請時以降のクォーターに開講される授業のみに適用されます。**申請時にすでに成績評価が確定した授業や申請時よりも前のクォーターに履修した授業については，この制度によって評価を変えることはできません。
⑦申請の締切日と適用されるクォーターについては，以下のとおりです。

４月14日（金）：第１から第４までのすべてのクォーターで適用
６月９日（金）：第２から第４までのすべてのクォーターで適用
10月６日（金）：第３・第４クォーターで適用
12月８日（金）：第４クォーターで適用

⑧成績の確定は，クォーターごとに行います。この制度によって暫定的に「A」で認定された科目については，次のようになります。

・「S」の認定基準を満たし，再申請した場合：
審査に合格すれば，**再申請時以降のクォーターで開講される授業について，「S」の評価で認定を受けることができます。**
・再申請をしなかった場合：
初めの申請時以降のすべてのクォーターで開講される授業について，「A」の成績が確定します。

⑨この制度の申請者は，申請時よりも前のクォーターに割り当てられた授業の単位が未修得となっている場合，当該申請時に提出した外部試験の成績を証明できる書類を用いて，未修得の科目について「外部試験による単位認定制度」を申請することができます。

［別表２］

| 試験名 | スコア等成績 | 認定科目と評価 |
|---|---|---|
| TOEIC（TOEIC Listening & Reading Test） | 860以上 | 「TOEIC準備」コースの科目をSで認定 |
| | 730～855 | 「TOEIC準備」コースの科目をAで認定 |
| TOEFL-iBT | 100以上 | 「EAP」コースの科目をSで認定 |
| | 80～99 | 「EAP」コースの科目をAで認定 |
| IELTS | 7.0以上 | 「EAP」コースの科目をSで認定 |
| | 6.0～6.5 | 「EAP」コースの科目をAで認定 |
| 実用英語技能検定 | １級 | 「EAP」コースの科目をSで認定 |
| | 準１級 | 「EAP」コースの科目をAで認定 |

TOEIC-IP（TOEIC Listening & Reading IP Test）とTOEFL-ITPは，この制度の対象外です。

## (9) 外国人留学生の履修上の特例

母語が英語の場合は，GS言語科目（英語）に代えて，GS言語科目（日本語）の履修が必要です。該当者には個別に履修指導を行いますので，必ず１年次の第１クォーターの授業開始前の指定する日時に，基幹教育学務係に申し出てください。

## (10)「GS言語科目」以外の英語の授業

共通教育では，GS言語科目以外に，「英語セミナー」という名称で自由履修科目として開講される英語の授業があります。「英語セミナー」を履修する場合は，次の点に注意してください。

### □「英語セミナー」を履修する際の注意点

・「英語セミナー」は，１年次の第２クォーター以降に履修することができます。GS言語科目と並行して履修することができ，GS言語科目の単位を満たした後（２年次またはそれ以降）にも履修することができます。
・**「英語セミナー」で修得した単位は「GS言語科目」の単位の中に含めることはできません**が，「自由履修科目」の単位の中に含めることはできます。
・「英語セミナー」には，事前のクラス割り当てはありません。履修を希望する場合は，システム抽選により履修可能となった授業の第１週に出席してください。

# GS言語科目（日本語）

## (1) 対象と目的

本学の学類に所属する「正規生」で「日本語を母語としない学生（留学生）」を対象とし，日本語による大学の講義，演習，研究を遂行するために必要な日本語力を育成します。

## (2) 開講科目の概要

以下の科目を開講します。1クラスの適正人数は15～20名です。

**1）アカデミック基礎日本語**　2単位　※必修科目

大学で学習，研究をするために必要なアカデミック・スキルの基礎を身につけます。

**2）アカデミック・ライティングⅠ**　2単位

レポート・論文を書くために必要な日本語の文章表現を身につけます。

**3）アカデミック・ライティングⅡ**　2単位

レポート・論文を書くために必要な研究方法論について学びます。

**4）講義の聴解**　2単位

大学での講義を聞き取るのに必要な聞き取りストラテジーを学び，いくつかの講義の聞き取り練習問題を通して，大学での学習・研究生活に支障のない聴解能力を身につけます。

**5）口頭発表Ⅰ・Ⅱ**　各2単位

アカデミックな場面での口頭発表をするために必要な日本語の表現や発表のスキルを身につけます。

**6）上級読解Ⅰ・Ⅱ**　各2単位

評論や専門書など，生の日本語の文章を読んで理解する力を身につけます。また，読んだ内容について説明し，意見を述べる練習も行います。

**7）日本事情**　2単位

日本の大学で学習・研究する上で必要な日本社会についての背景知識を深めます。

**8）日本語で学ぶ論理**　2単位

論理トレーニング（論証と演繹）と実際の論文読解を通じて，大学での学習や研究に必要な日本語（アカデミック日本語）力を身につけます。

## (3) カリキュラム

・各科目を以下のように配当してあり，単位数は各1単位です。
・各科目Q1とQ2，Q3とQ4の両方を一緒に履修して「2単位」修得してください。(例，Q1「日本事情A」とQ2「日本事情B」)
・全ての学類の留学生は，「アカデミック基礎日本語」の修得が必修となります。

| | 月 | | | 火 | | | 水 | | | 木 | | | 金 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 開講期 | 授業科目名 | 担当教員名 | 開講期 | 授業科目名 | 担当教員名 | 開講期 | 授業科目名 | 担当教員名 | 開講期 | 授業科目名 | 担当教員名 | 開講期 | 授業科目名 | 担当教員名 |
| 1限 | Q1<br>Q2<br>Q3<br>Q4 | アカデミック・ライティングⅠA<br>アカデミック・ライティングⅠB<br>アカデミック・ライティングⅠA<br>アカデミック・ライティングⅠB | 小島　荘一<br>小島　荘一<br>小島　荘一<br>小島　荘一 | | | | Q1<br>Q2<br>Q3<br>Q4 | 日本事情A<br>日本事情B<br>日本事情A<br>日本事情B | 峯　正志<br>峯　正志<br>峯　正志<br>峯　正志 | Q1<br>Q2<br>Q3<br>Q4 | 講義の聴解A<br>講義の聴解B<br>講義の聴解A<br>講義の聴解B | 太田　亨<br>太田　亨<br>太田　亨<br>太田　亨 | Q3<br>Q4 | □頭発表ⅠA<br>□頭発表ⅠB | 峯　正志<br>峯　正志 |
| | Q3<br>Q4 | アカデミック基礎日本語A (必修)<br>アカデミック基礎日本語B (必修) | 深川　美帆<br>深川　美帆 | | | | | | | | | | | | |
| | Q1<br>Q2 | □頭発表ⅡA<br>□頭発表ⅡB | 松田真希子<br>松田真希子 | | | | | | | | | | | | |
| 2限 | | | | Q1<br>Q2<br>Q3<br>Q4 | アカデミック・ライティングⅡA<br>アカデミック・ライティングⅡB<br>アカデミック・ライティングⅡA<br>アカデミック・ライティングⅡB | 山本　洋<br>山本　洋<br>山本　洋<br>山本　洋 | | | | | | | Q1<br>Q2<br>Q3<br>Q4 | 上級読解ⅠA<br>上級読解ⅠB<br>上級読解ⅡA<br>上級読解ⅡB | 深川　美帆<br>深川　美帆<br>小島　荘一<br>小島　荘一 |
| 3限 | | | | Q3<br>Q4 | 日本語で学ぶ論理A<br>日本語で学ぶ論理B | 太田　亨<br>太田　亨 | | | | | | | | | |
| 4限 | | | | | | | | | | Q1<br>Q2 | アカデミック基礎日本語A (必修)<br>アカデミック基礎日本語B (必修) | 深澤のぞみ<br>深澤のぞみ | | | |
| 5限 | | | | | | | | | | | | | | | |

※時間割は変更になる場合がありますので，Web版シラバス等で確認してください。

## (4) GS言語科目（英語・日本語）および初習言語科目　履修要件

各学類が以下に提示する履修要件にしたがって，科目を履修してください。

| 学 類 | GS言語科目 | 初習言語 | 備　　考 |
|---|---|---|---|
| 人文学類 | ①英語４単位＋日本語４単位<br>②日本語８単位 | ８単位 | ①通常の留学生<br>②英語履修の例外扱いの留学生* |
| 法学類 | ①英語４単位＋日本語４単位<br>②日本語８単位 | ８単位 | ①通常の留学生<br>②英語履修の例外扱いの留学生* |
| 経済学類 | 英語４単位＋日本語４単位 | ８単位 | |
| 学校教育学類 | 英語４単位＋日本語４単位 | － | |
| 地域創造学類 | 英語４単位＋日本語４単位 | ８単位 | |
| 国際学類 | 英語，日本語，初習言語を合わせて16単位 | | 留学生の言語能力により決める<br>※英語による授業のみで卒業可能なプログラムの留学生については別に要件を設ける。 |
| 数物科学類 | ①英語４単位＋日本語４単位<br>②英語外部試験による単位認定４単位＋日本語４単位 | － | ①通常の留学生<br>②英語履修の例外扱いの留学生* |
| 物質化学類 | ①英語４単位＋日本語４単位<br>②英語外部試験による単位認定４単位＋日本語４単位 | － | ①通常の留学生<br>②英語履修の例外扱いの留学生* |
| 機械工学類 | ①英語４単位＋日本語４単位<br>②英語外部試験による単位認定４単位＋日本語４単位 | － | ①通常の留学生<br>②英語履修の例外扱いの留学生* |
| 電子情報学類 | ①英語４単位＋日本語４単位<br>②英語外部試験による単位認定４単位＋日本語４単位 | － | ①通常の留学生<br>②英語履修の例外扱いの留学生* |
| 環境デザイン学類 | ①英語４単位＋日本語４単位<br>②日本語８単位 | － | ①通常の留学生<br>②英語履修の例外扱いの留学生* |
| 自然システム学類 | ①英語４単位＋日本語４単位<br>②英語外部試験による単位認定４単位＋日本語４単位 | － | ①通常の留学生<br>②英語履修の例外扱いの留学生* |
| 医学類 | 日本語８単位 | － | これに加え専門教育科目の「学域GS言語科目」で「医学英語２科目４単位」を修得すること |
| 薬学類・<br>創薬科学類 | ①英語４単位＋日本語４単位<br>②英語外部試験による単位認定４単位＋日本語４単位 | － | ①通常の留学生<br>②英語履修の例外扱いの留学生* |
| 保健学類 | ①英語６単位＋日本語２単位<br>②英語４単位＋日本語４単位<br>③英語２単位＋日本語６単位 | － | 留学生の言語能力により決める |

***「英語履修の例外扱い」について**

英語を母語とする学生，英語で学校教育を受けた学生，または英語母語話者並みの語学力を有する学生については，入学出願時のTOEFLスコア等を参考に，個々の学生の能力を診断した上で決定します。

# 基　　礎　　科　　目

**【基礎科目とは】**

将来の専門にかかわらず，大学教育の最初の段階で共通に身につけなければならない学習課題があります。それらには，基礎的知識や概念の習得，入門として必要な原理や法則の理解，学問体系の概論的学習，実験・実習や演習などの訓練的学習，各分野の相互関係の理解などが含まれます。

数学，物理学，化学，地学の分野ごとに上記の学習課題をまとめ編成したものが基礎科目です。それらの習得がその後の様々な専門分野での学習にとって前提となる性格を持つため，基礎科目は多くの科目が必修の指定を受けています。

**【基礎科目の学習にあたって】**

数学，物理学，化学，地学の各分野の学問としての基礎付けから始め，必要な知識の学習や技術的訓練を経て，一定の基礎学力を習得することを目標にします。理工学域および医薬保健学域の学生にとって，大学では学習量が増えるだけではなく，質が飛躍的に深化します。最先端の研究の前線に向って開かれたものとして，生きた学問像を把握し方法や目的を理解しようとする姿勢が望まれます。

各分野はそれぞれの特色を持っており，学習の進め方もそれぞれの特色を踏まえることが必要です。

基礎科目は上記の意味で，専門教育と連結するように編成されていますが，専門性を通して豊かな教養が身につくように配慮されています。基礎的学習が豊かな応用として結実することを願っています。



**(1)** 主として理工学域および医薬保健学域向けに数学，物理学，化学，地学の分野に属する授業科目が基礎科目として開講されます。かなりの科目が必修とされていますので，履修要件に注意してください。

**(2)** 必要単位数は学習の最低基準を示すために設定されたものです。自然科学各分野について広い視野と基礎学力を習得するために，各自の今後の進路，目標に従って学習計画を立てて，できるだけ必要単位数以上を修得してください。必要単位数を超えた分は自由履修科目または自由履修枠に算入できます。詳細は「13. 学類別卒業要件」で確認してください。

**(3)** 同一科目名の授業は意義，目的などは同じですが，学類によって授業内容などの重点の置き方が異なってくる場合がありますので，自分の所属する学類の授業クラスで履修してください。それ以外の授業クラスの場合は，担当教員と相談し，了承を得ることが必要です。

**(4)** 基礎科目の一部は理工学域での教育職員免許状取得に必要な科目になっています。履修漏れのないように充分注意してください。

基礎科目開講一覧表

| 分野 | 学域名 / 学類名 / 単位数 / 科目名 | | 理工学域 | | | | | | 医薬保健学域 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 数物科学類 | 物質化学類 | 機械工学類 | 電子情報学類 | 環境デザイン学類 | 自然システム学類 | 医学類 | 薬科学類 | 保健学類 | | | | |
| | | | | | | | | | | | 看護 | 放射 | 検査 | 理学 | 作業 |
| 数学 | 微分積分学第一 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| | 線形代数学第一 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | ○ | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| | 微分積分学第二 | 2 | ◎ | ★ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | | | | | | | |
| | 線形代数学第二 | 2 | ◎ | ★ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | | | | | | | |
| | 統計数学 | 2 | | | | | | | ◎ | ◎ | ○ | ☆ | ◎ | ○ | ○ |
| 物理学 | 物理学Ⅰ | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | ○ | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| | 物理学Ⅱ | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ○ | ◎ | | ○ | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| | 物理学実験 | 2 | ※1 ○ | ★ | ◎ | ◎ | ◎ | ★ | ☆ | | ○ | | | | |
| 化学 | 化学Ⅰ | 2 | ○ | ◎ | ○ | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | | ○ | ☆ | ○ | ○ | ○ |
| | 化学Ⅱ | 2 | ○ | ◎ | ○ | ○ | ○ | ○ | ◎ | | ○ | ☆ | ○ | ○ | ○ |
| | 化学実験 | 2 | ○ | ◎ | ○ | ○ | ◎ | ★ | ☆ | ※2 ◎ | ○ | | | | |
| 地学 | 地学Ⅰ | 2 | ○ | ○ | ☆ | ☆ | ☆ | ◎ | | | | | | | |
| | 地学Ⅱ | 2 | ○ | ○ | ☆ | ☆ | ☆ | ○ | | | | | | | |
| 必要単位数 | | | 14 | 16 | 16 | 16 | 16 | 12 | 14 | 5 | 2 | 8 | 8 | 2 | 2 |

**◎印は必修科目**
**★印は選択必修科目**
**○印は選択科目**
**☆印は基礎科目としての修得すべき単位数には入らないが対象クラスが設定されている科目です。**
**※1は計算科学コース計算実験プログラム及び物理学コースの必修科目です。**
**※2はクォーター開講のため1単位です。**

## (5) 基礎科目授業クラス編成

2017年度入学者

| 分野 | 学域 | 理工学域 | | | | | | | | | | | | 医薬保健学域 | | | | | | | | 開講学期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学類 | 数物科学 | 物質化学 | | 機械工学 | | | 電子情報 | | 環境デザイン | 自然システム | | | 医 | | 薬創薬科学 | 保健 | | | | | |
| | 名列番号及び専攻 / 科目名 | 全員 | 別途指示 | | 別途指示 | | | 別途指示 | | 全員 | 別途指示 | | | 別途指示 | | 全員 | 看護 | 放射 | 検査 | 理学 | 作業 | |
| 数学 | 微分積分学第一 | ① | ② | | ③ | ④ | | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | ⑨ | | ⑩ | ⑪ | ⑫ | ⑬ | | | | | 前期 |
| | 線形代数学第一 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 微分積分学第二 | | | | | | | | | | ⑧ | | | | | | | | | | | 後期 |
| | 線形代数学第二 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 統計数学 | | | | | | | | | | | | | ⑩ | ⑪ | ⑫ | ⑬ | | | | | 後期 |
| 物理学 | 物理学Ⅰ | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ | ⑪ | | ⑫ | ⑬ | | ⑭ | ⑮ | | ⑭ | | 前期 |
| | 物理学Ⅱ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 後期 |
| | | | | | | | | | | | ⑩ | | | | | | | | | | | 前期：2年以上限定 |
| | 物理学実験 | | | | | | | | | ④ | ⑤ | | | | | | ⑥ | | | | | 後期 |
| | | ① | ① | | ② | | | ③ | | | | | | | | | | | | | | 前期：2年 |
| 化学 | 化学Ⅰ | ① | ② | | ③ | | | ④ | | ⑤ | ⑥ | | | ⑦ | | | ⑧ | | | | | 前期 |
| | 化学Ⅱ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 後期 |
| | 化学実験 | ◆① | ① | | | | | | | | ② | | | ① | | | ⑤ | | | | | 後期 |
| | | ◆② | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | ③ | | | ③ | | ③ | | | | | | ※④ | | | | | | ③前期：2年<br>④Q1：2年 |
| 地学 | 地学Ⅰ | ① | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 前期 |
| | 地学Ⅱ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 後期 |

**◆印は曜日選択**
**※はクォーター開講のため１単位です。**

**＊名列番号及び専攻欄のクラス分けの番号は別途掲示します。**

## (6) 単位保留制度について

基礎科目の単位保留制度について次のように決められています。

「単位保留とされた者は，担当教員に申し出て，その後の学習の仕方や成績の評価の仕方について十分な指導を受けてください。ただし，この単位保留の期間は最大１年間とします。」

当該学期又はクォーターに合格できなかった場合，そのままでは再履修が必要ですが，その時点で他の科目の開講時間と重なるなどの理由から，再履修が困難となる場合が多くなってきます。そこで速やかに再学習を行い，早い時期に合格水準に達することを重視する観点から，この単位保留制度が実施されています。

ただし，この制度は単位未修得者すべてに適用されるものではありません。一定程度の学習段階に到達し，今後の努力によって合格水準に到達すると思われる者にのみ適用されます。再学習の過程で学習効果が上がらない場合は１年を待つことなく不可の判定がなされます。

## (7) 各分野の概要と履修指針

### ① 数学

数学は人間の知性の一つの結晶であり，すべての学生はこの学問を学ぶことによって自らの知性を磨くよう努力しなければなりません。さらに数学は世界のあらゆる法則を適切に記述するための言葉としても用いられますから，自然系と人文系を問わずすべての学生にとってこれを学ぶことは重要です。特に自然法則は数学的形式を用いて記述され，その応用には数学の各理論の理解と知識が必要です。したがって，特に自然系分野を専攻しようとする学生はそれぞれに関連した数学を学ぶために，強い熱意をもって充分な時間をそれに充てなければなりません。

基礎科目としての数学では「微分積分学第一」,「微分積分学第二」,「線形代数学第一」,「線形代数学第二」,「統計数学」の５科目が開講されます。「微分積分学第一と第二」を通して，問題を数理的に解析するための基本となる微分法と積分法を中心に，その理論と応用を学習します。「線形代数学第一と第二」を通して，線形性（あるいは，重ね合わせ）という普遍的性質に基づく数学的方法を行列の理論を中心に，併せてその応用を学習します。「統計数学」では偶然を伴う問題を理解する基本となる確率の数学的理論を中心に，その統計学への応用を学習します。

これら数学の理解と知識は，大学で自然系の分野を専攻した人々すべてに期待される世界的標準にもなっている，ということを知っていなければなりません。

ａ）微分積分学と線形代数学は応用範囲も広く，すべての理工学域および医薬保健学域にとって基礎として必要なものであり，第一，第二の順に１年を通じて履修することを勧めます。

ｂ）所属する学類によっては，数学の分野に属する専門教育科目が開講されます。それらは基礎科目の学習修了を前提として授業が進められますので，よく承知して学習してください。

### ② 物理学

物理学は古典物理学（主にニュートン力学，熱力学，電磁気学）と現代物理学（主に相対論，原子，量子物理学）から構成され，それらはさらに発展して物性論，素粒子論となり，現代の科学技術や宇宙の理解の基礎となってゆきます。

基礎科目としての物理学は最初に力学を対象にし，時間，空間，質量などの基本量と次元，速度，加速度の解析的表現と運動学，エネルギー，運動量，角運動量などの物理量とそれらの間の基本法則を学習します。力学はさらに質点系の力学や振動・波動へと発展されます。熱力学は第１，第２法則，エントロピーについて基礎概念を明確にする方向に力点が置かれます。電磁気学はマックスウェルの方程式の導出が基本課題となります。

授業で学ぶ物理学の法則は，物質世界の諸法則の最も基本的部分を占め，他の諸科学にとっては物理学的前提や要請として含まれてきます。この特徴により，すべての自然系学生にとって物理学の学習が求められています。これらの内容を基礎的なものから順に編成し物理学Ⅰ（前期），物理学Ⅱ（後期）として開講します。

ａ）物理学Ⅰは入門として必要な教育課題を中心にして構成されていますので，物理学Ⅰ，Ⅱの順に履修してください。

ｂ）所属する学類によっては，物理学の分野に属する専門教育科目が開講されます。それらは基礎科目の学習修了を前提として授業が進められますので，よく承知して学習してください。

ｃ）物理学の理解を深めるためには，講義と実習の他に演習が必要です。各自，演習書などを利用して学習してください。

ｄ）物理学は理論の体系性が著しい科学ですが，実験科学としての側面も持っています。物理学実験は必要な学習課題を配置したコース実験となっています。コース全体の履修を通じて実験の手法や装置の学習を行いますので，詳細はシラバスを参照してください。

### ③ 化学

私たちの身のまわりには，空気や岩石から生体分子まで，数え切れないほどの多様な物質が存在し，

変化しています。しかし物質を構成する基本単位である原子は，わずか100種類程度しかありません。物質の多様性は原子の組み合わせによって生じていると考えられます。化学はさまざまな物質の性質や変化を原子や分子の振る舞いに注目して調べる学問であるといえます。また，原子や分子の性質をうまく活用して新しい有用な物質を作り出すことも，化学の重要な活動のひとつです。

自然界に存在するきわめて多数の物質の構造や性質をひとつひとつ記憶するのは，よほどの記憶力を持った人にしかできないでしょうし，化学を理解し自分の専門分野に活用するために有効な努力だとは考えられません。共通性や規則性にもとづいていろいろな知識を整理し活用するという発想法は，化学でも有効です。また化学では，物質を理解するために役に立つことは，物理学でも数学でも，何でも取り入れて活用しています。科目の区分にとらわれて他の分野のやり方や考え方を拒絶するのは，化学を理解し活用する妨げになります。

このように，化学は物質を理解し活用するための要となる学問分野であり，工学，医学，薬学などの応用科学とも深く関係しています。

a）化学Ⅰ，Ⅱの意義，目的などは共通ですが，授業で取り上げる項目の順番，重点をおく項目，説明のために用いる例などが各学類等で多少異なっています。したがって，自分の所属する学類等が優先される授業クラスで履修してください。

b）所属する学類によっては，化学の分野に属する専門教育科目が開講されます。それらは基礎科目の学習修了を前提として授業が進められますので，よく承知して学習してください。

c）化学実験は，これまでに学習したりこれから学習したりする化学的な現象を実際に体験する機会として，さらに化学実験の手法を学習する機会として，とても重要です。化学関係の分野を専攻しない人たちも履修することを勧めます。

d）自分の所属する学類等が優先される授業クラスが開講されていない場合でも，基礎科目の化学の講義，実験を履修することができます。履修希望者は授業クラスの担当教員と相談し，了承を得てください。履修者が多すぎて講義，実験を円滑に行うことが困難となる場合は了承されないこともありますから，よく相談してください。



**④ 地学**

地学は，地球自体の姿を解明する分野，地球を太陽系や宇宙の中で捉えようとする分野，そして人間を含む生物と地球の関係を明らかにしようとする分野等を含み，各種の観測・観察手法，解析・分析手法により地球の過去・現在・未来を明らかにしようとする総合科学です。地学は，地球科学に関連する分野への展開に繋がる基礎科学であると同時に，現在人類の喫緊の課題である地球環境・資源問題に対応するための基礎科学としての役割も果たしています。従って，地球科学およびそれに関連する分野を専攻しようとする学生には，その基礎と今後の指針を示すことを目的とし，また，他の分野の学生には科学常識としての一般的な地球科学・地球環境学の知識・考え方が習得できるように配慮しています。

内容は，基本的，概説的なものから順次，地球の進化と現状の理解が容易になるように構成されています。また専門的な分野にもつながるように考慮され，前期には地学Ⅰ，後期には地学Ⅱが開講されます。

a）地学の概説的入門科目として理工学域の学生に地学Ⅰ・地学Ⅱが開購されています。

b）理工学域自然システム学類の学生には地学Ⅰは必修科目となっていますので，必ず履修してください。理工学域自然システム学類以外の理工学域の学生は，選択科目として履修できます。

c）理工学域以外の学生も，授業クラスの人数を超えない範囲で受講を認めますので，希望者は担当教員に申し出て了承を得てください。

**⑤ 実験**

自然科学は観測から出発し，それがどのように理論的に体系化されても，最後には実験によって検証されなければなりません。この意味で実験は自然と人間認識の橋渡しをする自然科学の要の位置を占めています。また科学技術の進展によって実験装置や手法が開発され，それによって新たな学問分野が開

かれたり，新しい物質が合成されたりして，自然科学の諸分野をさらに発展させている側面も忘れてはなりません。

基礎科目における実験の学習は以下のような様々の意義をもっています。

⑴ 講義内容と対応した実験によって，法則や理論の理解を深める。
⑵ 自然の多様な現象を体験し，興味を育てる。
⑶ 実験の技術，手法や装置の学習をする。
⑷ データの処理や実験結果のまとめ方について学習する。
⑸ 試行錯誤や教員などとの対話によって科学的思考方法を会得する。

基礎科目の実験としては物理学実験，化学実験が開講されます。

**⑥ 各分野の相互関係と学習の相乗効果**

数学の内容は他の分野にとって言葉として，あるいは手段，道具として日常不断に登場してきます。数学の学習にはより原理的理解をめざす学習と，諸定理，法則の運用の経験を積み応用能力を高めることを目ざす学習とがあります。この二つの立場を柔軟に使い分け学習してゆくことが望ましいと考えられます。

物理学は他分野に基礎的法則として入り込んでいますので，各分野について原理的理解を目ざそうとすると，物理学の学習が重要になってきます。物理学の現象や法則を数学的方法によって記述する場合が多いので，物理学の学習が，数学の法則の応用，適用例として，数学そのものの理解にも通じる側面があります。

化学の内容の一部では数学や物理学のやり方や考え方を活用しています。したがって，数学や物理学の学習は化学の理解を助けます。また，化学で学習した内容は地学に活用できます。逆に，地学を学習することによって化学に対する関心が高まると期待されます。

地学は現代の総合科目としての側面を持ちつつあり，環境問題から，自然観にかかわる多様な知識を得ることができますので他分野の学習に刺激を与えるものとなります。

以上の各科目をバランスをとって学習することにより，その相乗効果により各自が基礎学力を一層高めることが期待されています。

# 初　習　言　語　科　目

目次

(1) 開講科目・区分・単位・成績評価と単位認定
(2) 初習言語科目を必修とする学類と必修単位
(3) 初習言語Aの履修
3.1. 標準的履修
3.2. ２クォーター遅れの履修
3.3. 履修登録，単位修得上のルール
3.4. 再履修のルール
3.5. 選択科目として４単位分を履修する場合の注意
(4) 初習言語B，初習言語Cの履修
(5) ギリシア語・ラテン語（西洋古典語）の履修
5.1. ギリシア語・ラテン語Aの履修
5.2. ギリシア語・ラテン語BおよびCの履修
(6) 履修上の特例
6.1. 外国人留学生
6.2. 帰国子女
6.3. 初習言語を入学以前に学んでいる者
(7) 外部試験による単位認定



## (1) 開講科目・区分・単位・成績評価と単位認定

① 英語・日本語以外の言語を初習言語といいます。
　共通教育科目として開講される初習言語科目は，ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，朝鮮語，ギリシア語・ラテン語，スペイン語です。

② 初習言語はA（初級），B（中級），C（上級）に区分され，Aはさらに A1－1，A1－2，A2－1，A2－2，A3－1，A3－2，A4－1，A4－2に区分されます。
　ドイツ語，フランス語，中国語にはAの区分に充実クラスⅠ－1，充実クラスⅠ－2，充実クラスⅡ－1，充実クラスⅡ－2があります。これは初級の学習を充実させる目的で開講されます。

③ 単位は，週１コマ１クォーターの履修をもって１単位が認定されます。

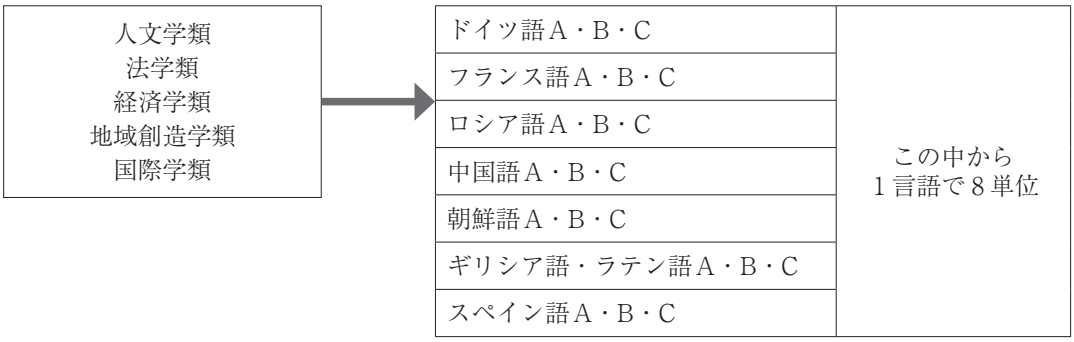
④ 各クォーター，３分の２以上の授業に出席して試験に合格すれば「S，A，B，C」のいずれかの評価で単位が認定されます。試験に不合格の場合は「不可」という評価になります。また欠席が３分の１以上の場合や試験を受けなかった場合は「放棄」という評価になり，単位が認定されません。

**初習言語が必修の学類の履修例：**

| クォーター | Q1 | Q2 | Q3 | Q4 |
|---|---|---|---|---|
| 科　目 | ドイツ語A1－1 | ドイツ語A1－2 | ドイツ語A3－1 | ドイツ語A3－2 |
| | ドイツ語A2－1 | ドイツ語A2－2 | ドイツ語A4－1 | ドイツ語A4－2 |

## (2) 初習言語科目を必修とする学類と必修単位

① 初習言語科目８単位を必修とする学類は，人文学類，法学類，経済学類，地域創造学類，国際学類です。
　学校教育学類，理工学域，医薬保健学域は，初習言語科目は必修ではありませんが，全学生対象の授業時間帯での履修が可能です。




② 初習言語は，A・B・Cのすべての科目を必修単位に含めることができます。ただし，A（初級）から履修を始める場合の必修8単位は，各言語ともA1-1～A4-2の各1単位（計8単位）を修得してください。（ギリシア語・ラテン語については（5）を参照）

**履修例**

| | |
|---|---|
| 朝鮮語A1-1～A4-2　8単位 | フランス語B-1（3科目）　3単位<br>フランス語B-2（3科目）　3単位<br>フランス語C-1（1科目）　1単位<br>フランス語C-2（1科目）　1単位 |

（「(6) 履修上の特例6.3」を参照）

③ Aの区分の充実クラスⅠ-1，充実クラスⅠ-2，充実クラスⅡ-1，充実クラスⅡ-2は，初習言語科目の必修単位に含めることはできませんが，自由履修科目として卒業単位に含めることができます。
④ 外国人留学生は「（6）履修上の特例」を参照してください。
⑤ 必修単位を超える初習言語科目の単位は，卒業要件となる共通教育科目の総単位に含めることができます。

## (3) 初習言語Aの履修（ギリシア語・ラテン語については (5) を参照）

各言語の特色については，『初習言語ガイドブック』を参照してください。

### 3.1. 標準的履修

初習言語Aは，1年次の第1クォーターにA1-1とA2-1，第2クォーターにA1-2とA2-2，第3クォーターにA3-1とA4-1，第4クォーターにA3-2とA4-2を履修するのが標準となります。

**①［ドイツ語・フランス語・中国語］**

・充実クラスを除くA（初級）の授業は学類別に開講されています。シラバスを読み，自分の所属する学類対象に開講されている授業から選択してください。（ただし，適正人数（30人）を超えたクラスでは，抽選により受講者調整を行います。抽選に漏れた場合には，同時間帯の他のクラスに移動してもらう可能性があります。また，所属学類対象の時間帯に開講されているクラスがすべて適正人数を大幅に上回る場合には，他学類対象の授業を履修してもらう可能性もあります。その場合は，授業担当者の指示に従ってください。）

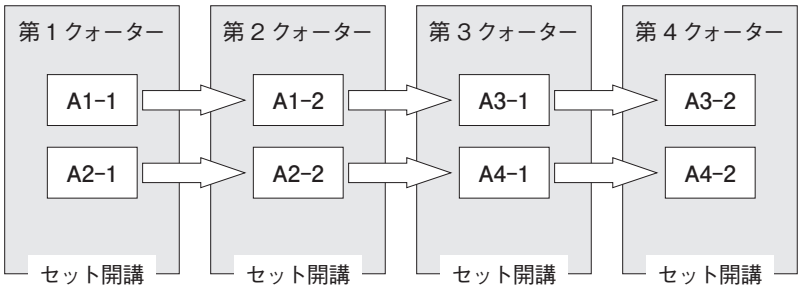
・A1-1とA2-1，A1-2とA2-2，A3-1とA4-1，A3-2とA4-2は通常，セットで開講されています。1週目にA1-1あるいはA2-1の授業が決まれば，セットになっている授業も決まります。ただし，履修登録は各科目ごとに行ってください。セットの授業については，シラバスで確認してください。

・A1-1，A1-2，A3-1，A3-2およびA2-1，A2-2，A4-1，A4-2は内容的に連続しています。第2クォーターには，第1クォーターのA1-1とA2-1に接続する同じ曜日の同じ時限に

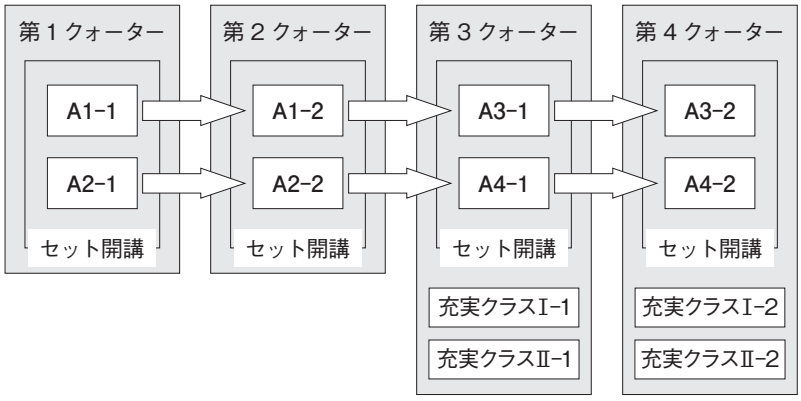
第１クォーターと同じ教員が担当するＡ１−２とＡ２−２を履修することが原則となります。

・言語科目の必修単位の充足とは別に，さらに集中して学習したい学生のために，自由履修科目としてドイツ語・フランス語・中国語には，Ａの区分に充実クラスⅠ−１，充実クラスⅠ−２，充実クラスⅡ−１，充実クラスⅡ−２があります。これは，第１・第２クォーターにＡ１−１，Ａ１−２，Ａ２−１，Ａ２−２の単位を修得した上で，第３クォーターにＡ３−１とＡ４−１，第４クォーターにＡ３−２とＡ４−２を履修する学生を対象として開講されます。「読む・書く」を中心とするクラスと，「聞く・話す」を中心とするクラスが用意されています。２つのクラスはセット開講ではありませんので，一方だけの履修も可能です。

履修例１




履修例２






**②［ロシア語・朝鮮語・スペイン語］**

・Ａ（初級）の授業は，全学類対象に開講されています。シラバスと別冊子の「授業時間割表」を見て，自分が出席できる時間帯の授業を選んでください。

・ロシア語・朝鮮語はセット開講ではありません。Ａ１−１とＡ２−１，Ａ１−２とＡ２−２，Ａ３−１とＡ４−１，Ａ３−２とＡ４−２は個別に時間帯を選択してください。また，クォーターごとに履修する時間帯を変えても構いません。

・スペイン語のＡ１−１とＡ２−１，Ａ１−２とＡ２−２，Ａ３−１とＡ４−１，Ａ３−２とＡ４−２はセット開講です。セットの授業については，シラバスで確認してください。

### 3.2.　２クォーター遅れの履修

標準的な履修学期より２クォーター遅れの授業も少数開講されます（ドイツ語，フランス語，中国語，朝鮮語で開講）。この授業は，新たに学習を始めようとする者，標準的な履修学期に不合格となった者を対象とします。

### 3.3. 履修登録，単位修得上のルール

①　Ａ３−１の履修登録はＡ１−１及びＡ１−２の単位を修得している場合にのみ認められます。評価が不可または放棄の場合は，履修登録ができません。

②　Ａ４−１の履修登録はＡ２−１及びＡ２−２の単位を修得している場合にのみ認められます。評価が不

可または放棄の場合は，履修登録ができません。
③ 同一言語のＡ1－1～Ａ4－2は，各1単位を超えて単位修得することができません。
④ Ａ1－1～Ａ4－2のいずれについても，同一学期に同一言語・同一区分の科目（たとえばフランス語Ａ3－1）を複数履修することはできません。

### 3.4. 再履修のルール

① Ａ1－1～Ａ4－2を履修して不合格となった場合は，不合格となった科目（Ａ1－1が不合格となった場合はＡ1－1，Ａ1－2が不合格となった場合はＡ1－2）を再度履修し，単位を修得してください。
② 再履修の場合，学類による時間帯の指定はありません。受講可能な時間帯の授業を選んでください。ただし，受講したいクラスが適正人数を大幅に上回る場合には，クラスを変更してもらう可能性もあります。

### 3.5. 選択科目として4単位分を履修する場合の注意

選択科目として履修する場合は最低でも4単位の修得を目指してください。

**①［ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語］**

・セットで開講されているＡ1－1とＡ2－1，Ａ1－2とＡ2－2を履修することが標準です。ただし，Ａ1－1・Ａ1－2とＡ3－1・Ａ3－2，またはＡ2－1・Ａ2－2とＡ4－1・Ａ4－2の組み合わせで履修することも可能です。

**②［ロシア語・朝鮮語］**

・Ａ1－1とＡ2－1，Ａ1－2とＡ2－2は同一教科書による連続授業です。必ず，Ａ1－1とＡ2－1，Ａ1－2とＡ2－2を履修してください。ただし，Ａ1－1とＡ2－1，Ａ1－2とＡ2－2はセット開講ではないので，個別に時間帯を選択できます。

## (4) 初習言語Ｂ，初習言語Ｃの履修（ギリシア語・ラテン語については（5）を参照）

**①［標準的履修］**

・原則として，Ｂを履修するにはＡ1－1～Ａ4－2の計8単位，Ｃを履修するにはＢを2単位以上修得していなければなりません。

**②［履修登録上のルール］**

・ＢとＣの授業において，同一の教科書を使用する授業科目の複数履修は，担当教員が許可する場合を除き，原則として認められません。受講票提出時に，必ず担当教員に確認してください。

## (5) ギリシア語・ラテン語（西洋古典語）の履修

### 5.1. ギリシア語・ラテン語Aの履修

**①［標準的履修］**

・ギリシア語･ラテン語は，1年次の第1クォーターにA1-1，第2クォーターにA1-2，第3クォーターにA2-1，第4クォーターにA2-2，2年次の第1クォーターにA3-1，第2クォーターにA3-2，第3クォーターにA4-1，第4クォーターにA4-2を履修するのが標準となります。

・ギリシア語・ラテン語では，A1-1～A4-2は，内容的に連続した授業です。

・標準的な履修クォーター□および履修可能なクォーター□を図示すると，原則的には以下のとおりです。

| 言語名 | 区分 | 単位数 | 開講学期 | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 1年 | | | | 2年 | | | | 3年 | | | | 4年 | | | |
| | | | Q1 | Q2 | Q3 | Q4 | Q1 | Q2 | Q3 | Q4 | Q1 | Q2 | Q3 | Q4 | Q1 | Q2 | Q3 | Q4 |
| ギリシア語 ラテン語 | A1-1 | 1 | ■ | | | | ■ | | | | ■ | | | | ■ | | | |
| | A1-2 | 1 | | ■ | | | | ■ | | | | ■ | | | | ■ | | |
| | A2-1 | 1 | | | ■ | | | | ■ | | | | ■ | | | | ■ | |
| | A2-2 | 1 | | | | ■ | | | | ■ | | | | ■ | | | | ■ |
| | A3-1 | 1 | | | | | ■ | | | | ■ | | | | ■ | | | |
| | A3-2 | 1 | | | | | | ■ | | | | ■ | | | | ■ | | |
| | A4-1 | 1 | | | | | | | ■ | | | | ■ | | | | ■ | |
| | A4-2 | 1 | | | | | | | | ■ | | | | ■ | | | | ■ |

**②［履修登録．単位修得上のルール］**

・原則的にA2-1の履修登録は，A1-1及びA1-2の単位を修得している場合にのみ認められます。

・原則的にA4-1の履修登録は，A3-1及びA3-2の単位を修得している場合にのみ認められます。

・同一言語によるAは，A1-1～A4-2の各1単位（計8単位）を超えて単位修得することはできません。

・A1-1～A4-2のいずれについても，同一学期に同一言語・同一区分の科目（たとえばラテン語A1-1）を複数履修することはできません。

**③［必修単位修得上のルール］**

・ギリシア語Aの8単位，またはラテン語Aの8単位を必修の1言語8単位とすることができます。また，ギリシア語A1-1～A2-2（計4単位）とラテン語A1-1～A2-2（計4単位）を履修し，これを合わせて「西洋古典語」として必修の8単位とすることもできます。

**④［再履修のルール］**

・A1-1～A4-2を履修して不合格となった場合は，不合格となった科目（A1-1が不合格となった場合はA1-1，A1-2が不合格となった場合はA1-2）を再度履修し，単位を修得してください。

### 5.2. ギリシア語・ラテン語ＢおよびＣの履修

ギリシア語・ラテン語のＢとＣを履修できるクォーターを図示すると，原則的には以下のとおりです。

| 言語名 | 区分 | 単位数 | 開講学期 | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | １年 | | | | ２年 | | | | ３年 | | | | ４年 | | | |
| | | | Ｑ１ | Ｑ２ | Ｑ３ | Ｑ４ | Ｑ１ | Ｑ２ | Ｑ３ | Ｑ４ | Ｑ１ | Ｑ２ | Ｑ３ | Ｑ４ | Ｑ１ | Ｑ２ | Ｑ３ | Ｑ４ |
| ギリシア語 | Ｂ－１ | 1 | | | | | | | | | ■ | | | | ■ | | | |
| ラテン語 | Ｂ－２ | 1 | | | | | | | | | | ■ | | | | ■ | | |
| ギリシア語 | Ｃ－１ | 1 | | | | | | | | | | | ■ | | | | ■ | |
| ラテン語 | Ｃ－２ | 1 | | | | | | | | | | | | ■ | | | | ■ |

## (6) 履修上の特例

### 6.1. 外国人留学生

① 母語の判定も含めて，個別に履修指導を行います。履修ガイダンス時の指示に従ってください。

②［履修上の原則］

・初習言語科目として母語である言語を履修することはできません。

### 6.2. 帰国子女

一般入試・帰国子女入試の別にかかわらず，個別に履修指導を行います。必ず１年次の第１クォーターの履修登録前に基幹教育学務係に申し出てください。

### 6.3. 初習言語を入学以前に学んでいる者

１年次の第１クォーターに初習言語Ａ３－１・Ａ４－１，初習言語Ｂ・Ｃの履修を希望する者については，個別に履修指導を行います。必ず第１クォーターの履修登録前に基幹教育学務係に申し出てください。各科目担当者による履修可否の判定が行われます。

## (7) 外部試験による単位認定

① 本学入学後，外部試験に合格した（あるいは所定のスコアを得た）者は，言語科目の単位認定を受けることができます。

② 対象となる外部試験，認定される単位数などは，以下の別表のとおりです。

③ 単位認定を希望する者は，合格証並びにスコアレポートを添えて所属学類の学務係に単位認定申請書を提出してください。審査に合格すれば，単位が認定されます（審査に時間を要するため，学期末に申請した場合，学期内に認定できないことがあります）。

④ 成績は「認定」となり，履修単位数制限およびGPA制度から除外されます。

⑤ 履修中の初習言語Ａの単位認定を希望する者は，合格証を受け取り次第速やかに所属学類の学務係に単位認定申請書を提出してください。

⑥ 複数回の申請の場合，増加単位分のみを認定し，重複認定はしません。

［別表］外部試験と単位認定数

**ドイツ語**

| 試　験　名 | 認　定　単　位 |
|---|---|
| ドイツ語技能検定試験４級 | ドイツ語Ａ１−１，Ａ１−２，Ａ２−１，Ａ２−２<br>計４単位 |
| ゲーテ・インスティトゥート検定試験<br>Goethe-Zertifikat A 1 : Start Deutsch 1 | ドイツ語Ａ１−１，Ａ１−２，Ａ２−１，Ａ２−２，Ａ３−１，<br>Ａ３−２，Ａ４−１，Ａ４−２<br>計８単位 |
| ドイツ語技能検定試験３級 | ドイツ語Ａ１−１，Ａ１−２，Ａ２−１，Ａ２−２，Ａ３−１，<br>Ａ３−２，Ａ４−１，Ａ４−２，Ｂ−１，Ｂ−２<br>計10単位 |
| ドイツ語技能検定試験２級 | ドイツ語Ａ１−１，Ａ１−２，Ａ２−１，Ａ２−２，Ａ３−１，<br>Ａ３−２，Ａ４−１，Ａ４−２　８単位<br>Ｂ−１　２科目，Ｂ−２　２科目　４単位<br>計12単位 |
| ゲーテ・インスティトゥート検定試験<br>Goethe-Zertifikat A 2 | ドイツ語Ａ１−１，Ａ１−２，Ａ２−１，Ａ２−２，Ａ３−１，<br>Ａ３−２，Ａ４−１，Ａ４−２　８単位<br>Ｂ−１　２科目，Ｂ−２　２科目　４単位<br>Ｃ−１　２科目，Ｃ−２　２科目　４単位<br>計16単位 |
| ドイツ語技能検定試験準１級 | |



**フランス語**

| 試　験　名 | 認　定　単　位 |
|---|---|
| 実用フランス語技能検定試験５級 | フランス語Ａ１−１，Ａ１−２，Ａ２−１，Ａ２−２<br>計４単位 |
| 実用フランス語技能検定試験４級 | フランス語Ａ１−１，Ａ１−２，Ａ２−１，Ａ２−２，Ａ３−１，<br>Ａ３−２，Ａ４−１，Ａ４−２<br>計８単位 |
| 実用フランス語技能検定試験３級 | フランス語Ａ１−１，Ａ１−２，Ａ２−１，Ａ２−２，Ａ３−１，<br>Ａ３−２，Ａ４−１，Ａ４−２，Ｂ−１，Ｂ−２<br>計10単位 |
| 実用フランス語技能検定試験準２級 | フランス語Ａ１−１，Ａ１−２，Ａ２−１，Ａ２−２，Ａ３−１，<br>Ａ３−２，Ａ４−１，Ａ４−２　８単位<br>Ｂ−１　２科目，Ｂ−２　２科目 ４単位<br>計12単位 |
| 実用フランス語技能検定試験２級 | フランス語Ａ１−１，Ａ１−２，Ａ２−１，Ａ２−２，Ａ３−１，<br>Ａ３−２，Ａ４−１，Ａ４−２　８単位<br>Ｂ−１　２科目，Ｂ−２　２科目 ４単位<br>Ｃ−１　２科目，Ｃ−２　２科目 ４単位<br>計16単位 |
| 実用フランス語技能検定試験準１級 | フランス語Ａ１−１，Ａ１−２，Ａ２−１，Ａ２−２，Ａ３−１，<br>Ａ３−２，Ａ４−１，Ａ４−２　８単位<br>Ｂ−１　２科目，Ｂ−２　２科目 ４単位<br>Ｃ−１　３科目，Ｃ−２　３科目 ６単位<br>計18単位 |
| 実用フランス語技能検定試験１級 | フランス語Ａ１−１，Ａ１−２，Ａ２−１，Ａ２−２，Ａ３−１，<br>Ａ３−２，Ａ４−１，Ａ４−２　８単位<br>Ｂ−１　２科目，Ｂ−２　２科目 ４単位<br>Ｃ−１　４科目，Ｃ−２　４科目 ８単位<br>計20単位 |

**中国語**

| 試　験　名 | 認　定　単　位 |
|---|---|
| 中国語検定試験準４級 | 中国語Ａ１－１，Ａ１－２，Ａ２－１，Ａ２－２<br>計４単位 |
| 中国語検定試験４級 | 中国語Ａ１－１，Ａ１－２，Ａ２－１，Ａ２－２，Ａ３－１，Ａ３－２，Ａ４－１，Ａ４－２<br>計８単位 |
| 中国語検定試験３級 | 中国語Ａ１－１，Ａ１－２，Ａ２－１，Ａ２－２，Ａ３－１，Ａ３－２，Ａ４－１，Ａ４－２　８単位<br>Ｂ－１　２科目，Ｂ－２　２科目　４単位<br>計12単位 |
| 中国語検定試験２級 | 中国語Ａ１－１，Ａ１－２，Ａ２－１，Ａ２－２，Ａ３－１，Ａ３－２，Ａ４－１，Ａ４－２　８単位<br>Ｂ－１　２科目，Ｂ－２　２科目　４単位<br>Ｃ－１　３科目，Ｃ－２　３科目　６単位<br>計18単位 |
| 中国語検定試験準１級・１級 | 中国語Ａ１－１，Ａ１－２，Ａ２－１，Ａ２－２，Ａ３－１，Ａ３－２，Ａ４－１，Ａ４－２　８単位<br>Ｂ－１　２科目，Ｂ－２　２科目　４単位<br>Ｃ－１　４科目，Ｃ－２　４科目　８単位<br>計20単位 |

**朝鮮語**

| 試　験　名 | 認　定　単　位 |
|---|---|
| ハングル能力検定試験５級<br>韓国語能力試験（ＴＯＰＩＫ）１級 | 朝鮮語Ａ１－１，Ａ１－２，Ａ２－１，Ａ２－２<br>計４単位 |
| ハングル能力検定試験４級<br>韓国語能力試験（ＴＯＰＩＫ）２級 | 朝鮮語Ａ１－１，Ａ１－２，Ａ２－１，Ａ２－２，Ａ３－１，Ａ３－２，Ａ４－１，Ａ４－２<br>計８単位 |
| ハングル能力検定試験３級<br>韓国語能力試験（ＴＯＰＩＫ）３級 | 朝鮮語Ａ１－１，Ａ１－２，Ａ２－１，Ａ２－２，Ａ３－１，Ａ３－２，Ａ４－１，Ａ４－２　８単位<br>Ｂ－１　２科目，Ｂ－２　２科目　４単位<br>計12単位 |
| ハングル能力検定試験準２級<br>韓国語能力試験（ＴＯＰＩＫ）４級 | 朝鮮語Ａ１－１，Ａ１－２，Ａ２－１，Ａ２－２，Ａ３－１，Ａ３－２，Ａ４－１，Ａ４－２　８単位<br>Ｂ－１　２科目，Ｂ－２　２科目　４単位<br>Ｃ－１　２科目，Ｃ－２　２科目　４単位<br>計16単位 |
| ハングル能力検定試験２級<br>韓国語能力試験（ＴＯＰＩＫ）５級 | 朝鮮語Ａ１－１，Ａ１－２，Ａ２－１，Ａ２－２，Ａ３－１，Ａ３－２，Ａ４－１，Ａ４－２　８単位<br>Ｂ－１　２科目，Ｂ－２　２科目　４単位<br>Ｃ－１　３科目，Ｃ－２　３科目　６単位<br>計18単位 |
| ハングル能力検定試験１級<br>韓国語能力試験（ＴＯＰＩＫ）６級 | 朝鮮語Ａ１－１，Ａ１－２，Ａ２－１，Ａ２－２，Ａ３－１，Ａ３－２，Ａ４－１，Ａ４－２　８単位<br>Ｂ－１　２科目，Ｂ－２　２科目　４単位<br>Ｃ－１　４科目，Ｃ－２　４科目　８単位<br>計20単位 |

**ロシア語**

| 試　験　名 | 認　定　単　位 |
|---|---|
| ロシア語能力検定試験４級 | ロシア語Ａ１－１，Ａ１－２，Ａ２－１，Ａ２－２，Ａ３－１，<br>Ａ３－２，Ａ４－１，Ａ４－２，Ｂ－１，Ｂ－２<br>計10単位 |
| ロシア語能力検定試験３級 | ロシア語Ａ１－１，Ａ１－２，Ａ２－１，Ａ２－２，Ａ３－１，<br>Ａ３－２，Ａ４－１，Ａ４－２　８単位<br>Ｂ－１　２科目，Ｂ－２　２科目　４単位<br>Ｃ－１，Ｃ－２　２単位<br>計14単位 |
| ロシア語能力検定試験２級 | ロシア語Ａ１－１，Ａ１－２，Ａ２－１，Ａ２－２，Ａ３－１，<br>Ａ３－２，Ａ４－１，Ａ４－２　８単位<br>Ｂ－１　２科目，Ｂ－２　２科目　４単位<br>Ｃ－１　３科目，Ｃ－２　３科目　６単位<br>計18単位 |

**スペイン語**

| 試　験　名 | 認　定　単　位 |
|---|---|
| スペイン語技能検定６級 | スペイン語Ａ１－１，Ａ１－２，Ａ２－１，Ａ２－２<br>計４単位 |
| スペイン語技能検定５級 | スペイン語Ａ１－１，Ａ１－２，Ａ２－１，Ａ２－２，Ａ３－１，<br>Ａ３－２，Ａ４－１，Ａ４－２<br>計８単位 |
| スペイン語技能検定４級 | スペイン語Ａ１－１，Ａ１－２，Ａ２－１，Ａ２－２，Ａ３－１，<br>Ａ３－２，Ａ４－１，Ａ４－２　８単位<br>Ｂ－１　２科目，Ｂ－２　２科目　４単位<br>Ｃ－１，Ｃ－２　２単位<br>計14単位 |
| スペイン語技能検定３級 | スペイン語Ａ１－１，Ａ１－２，Ａ２－１，Ａ２－２，Ａ３－１，<br>Ａ３－２，Ａ４－１，Ａ４－２　８単位<br>Ｂ－１　２科目，Ｂ－２　２科目　４単位<br>Ｃ－１　３科目，Ｃ－２　３科目　６単位<br>計18単位 |

## 自　由　履　修　科　目

自由履修科目は，GS科目，基礎科目および初習言語科目の最低修得要件を超えて修得した科目，並びにその他の共通教育科目（導入科目及びGS言語科目を除く）を指します。

環境デザイン学類など，学類によっては，自由履修科目の指定がある場合がありますので，次ページからの「13. 学類別の卒業要件（共通教育科目）」をよく読んで履修してください。

○GS科目の修得すべき単位数及び条件は，「各群から３単位　計15単位」等ですが，それ以上GS科目を修得した場合は，自由履修科目として卒業要件（共通教育科目）に含めることができます。

○基礎科目および初習言語科目で単位修得要件として指定されていない科目を履修して，単位を修得した場合は，自由履修科目として卒業要件（共通教育科目）に含めることができます。

○その他の共通教育科目とは，例えば，以下のような科目があります。

・「地域「超」体験プログラム」
・教職科目（「日本国憲法概説」「生物学実験」「地学実験」など）
・シティカレッジ（「金沢の歴史と文化」「石川県の市町」など）

その他の授業については，別冊子の「共通教育科目　授業時間割表2017」で確認してください。

# 13. 学類別の卒業要件（共通教育科目）

平成29年度入学者用（平成28年度以前の入学者は，当該入学年度の「履修案内」を参照してください。）

## 人　　文　　学　　類

### (1) 単位修得要件

共通教育科目の開講科目等は，金沢大学共通教育科目に関する規程の定めるところによる。

<table>
<tr><th colspan="2">区　　分</th><th colspan="3">修得すべき単位数及び条件</th></tr>
<tr><td rowspan="8">共通教育科目</td><td rowspan="4">導入科目</td><td rowspan="8">38単位以上</td><td>大学・社会生活論　　1単位</td><td rowspan="5">30単位以上</td></tr>
<tr><td>初学者ゼミⅠ　　1単位</td></tr>
<tr><td>情報処理基礎　　1単位</td></tr>
<tr><td>地域概論　　1単位</td></tr>
<tr><td>GS科目（5群）</td><td>各群から3単位　　計15単位<br>※GS科目3A プレゼン・ディベート論（初学者ゼミⅡ）は必修</td></tr>
<tr><td>GS言語科目</td><td colspan="2">TOEIC準備コース4単位，EAPコース4単位</td></tr>
<tr><td>自由履修科目　※</td><td colspan="2">3単位以上</td></tr>
<tr><td>基礎科目</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>初習言語科目</td><td colspan="2">1言語8単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="4">専門教育科目</td><td>学域GS科目</td><td rowspan="4">86単位以上</td><td colspan="2">2科目2単位</td></tr>
<tr><td>学域GS言語科目</td><td colspan="2">2科目2単位</td></tr>
<tr><td>専門基礎科目</td><td colspan="2">「学類共通英語A・B」2単位，「人文学序説A・B・C・D」4単位の合計6単位を必ず履修すること。</td></tr>
<tr><td>専門科目</td><td colspan="2">「卒業論文演習A」2単位，「卒業論文演習B」2単位，「卒業論文」6単位を必ず履修すること。また，各コース・プログラムごとに指定する専門科目あわせて66単位以上の履修が必要。</td></tr>
<tr><td colspan="2">卒業に必要な単位数</td><td colspan="3">124単位以上</td></tr>
</table>

※　共通教育科目における自由履修科目は，GS科目，基礎科目及び初習言語科目の最低修得要件を超えて修得した科目，並びにその他の共通教育科目（導入科目及びGS言語科目を除く）を指します。

### (2) 共通教育科目の履修について

① 外国人留学生の言語科目については，GS言語科目（日本語）を参照してください。

② 各コースにおいて履修することが望ましい科目は以下のとおりです。

人間科学コース

【哲学・人間学主履修分野】

○ドイツ語A，フランス語A，ギリシア語A，ラテン語Aのうち，少なくとも1つを履修することが望ましい。

歴史文化学コース

【日本史学主履修分野】

○GS科目「4B 日本史・日本文化」を履修していることが望ましい。

【東洋史学主履修分野】

○中国語Aを履修することが望ましい。

【西洋史学主履修分野】

○研究したいテーマに関連するヨーロッパ諸言語を1つ以上履修することが望ましい。
（例えば，ドイツ語A，フランス語A。ただし，ラテン語，ギリシア語の場合はさらに他のヨーロッパ諸言語を履修することが望ましい。）

言語文化学コース

【中国語学中国文学主履修分野】

○中国語Ａを履修することが望ましい。

【英語学英米文学主履修分野】

○フランス語Ａかドイツ語Ａのうち，いずれか一方を履修することが望ましい。

【ドイツ語学ドイツ文学主履修分野】

○ドイツ語Ａを履修することが望ましい。

【フランス語学フランス文学主履修分野】

○フランス語Ａを履修することが望ましい。

【言語学主履修分野】

○大学院受験の可能性のある人は，英語以外にドイツ語Ａまたはフランス語Ａを履修することが望ましい。ギリシア語Ａまたはラテン語Ａなど，広く言語科目を履修することも勧めます。

**(3)** 専門教育科目の履修について

木曜日・金曜日に１年生を主な対象とする専門教育科目が開講されます。その他，一部の専門教育科目も履修できます。

**(4)** 教育職員免許状については，「15. 教育職員免許状」を参照してください。

## 法　　学　　類

### (1) 単位修得要件

共通教育科目の開講科目等は，金沢大学共通教育科目に関する規程の定めるところによる。

| 区　　分 | | 修得すべき単位数及び条件 | | |
|---|---|---|---|---|
| 共通教育科目 | 導入科目 | 38単位以上 | 大学・社会生活論　1単位 | 30単位以上 |
| | | | 初学者ゼミⅠ　1単位 | |
| | | | 情報処理基礎　1単位 | |
| | | | 地域概論　1単位 | |
| | GS科目(5群) | | 各群から3単位　計15単位<br>※GS科目3A プレゼン・ディベート論（初学者ゼミⅡ）は必修 | |
| | GS言語科目 | | TOEIC準備コース4単位，EAPコース4単位 | |
| | 自由履修科目　※ | | 3単位以上 | |
| | 基礎科目 | | | |
| | 初習言語科目 | | 1言語8単位 | |
| 専門教育科目 | 学域GS科目 | 90単位以上 | 2単位 | |
| | 学域GS言語科目 | | 2科目2単位 | |
| | 専門基礎科目 | | 4単位以上 | |
| | 専門科目 | | | |
| 卒業に必要な単位数 | | 128単位以上 | | |

※　共通教育科目における自由履修科目は，GS科目，基礎科目及び初習言語科目の最低修得要件を超えて修得した科目，並びにその他の共通教育科目（導入科目及びGS言語科目を除く）を指します。

### (2) 共通教育科目の履修について

GS言語科目及び初習言語科目

(ア)　法学類の専門科目の勉強を深める前提として，言語科目を履修することにどのような意味があるかについては，「法学類ハンドブック」第1章「大学における履修のための基礎知識(入門編)」のうち，「5．授業科目あれこれ」の部分に説明がありますから，よく読んでください。

また，授業科目「大学・社会生活論」の中で，共通教育科目の履修ガイダンスに引き続いて，法学類の専門科目と外国語との関係についても説明があります。なお，「初習言語ガイドブック」には，各言語を効果的に履修するためのアドバイスが掲載されていますから，ぜひ参照してください。

(イ)　外国人留学生の言語科目履修については，GS言語科目（日本語）を参照してください。

### (3) 演習（専門科目・必修）について

3年次以降の演習を履修するためには，次の単位をすべて修得していることが必要です（ただし，編入学生は，この限りではありません)。

(ア)　共通教育科目のうち，導入科目4単位及びGS科目「3A プレゼン・ディベート論(初学者ゼミⅡ)」

(イ)　1年次から開講される専門基礎科目「法学概論」2単位，「政治学」2単位，「民事法入門」4単位の合計8単位のうちから4単位

# 経　　済　　学　　類

## (1) 単位修得要件

共通教育科目の開講科目等は，金沢大学共通教育科目に関する規程の定めるところによる。

<table>
<tr><th colspan="2">区　　分</th><th colspan="3">修得すべき単位数及び条件</th></tr>
<tr><td rowspan="8">共通教育科目</td><td rowspan="4">導入科目</td><td rowspan="8">38単位以上</td><td>大学・社会生活論　　1単位</td><td rowspan="6">30単位以上</td></tr>
<tr><td>初学者ゼミⅠ　　1単位</td></tr>
<tr><td>情報処理基礎　　1単位</td></tr>
<tr><td>地域概論　　1単位</td></tr>
<tr><td>GS科目(5群)</td><td>各群から3単位　　計15単位<br>※GS科目3A プレゼン・ディベート論（初学者ゼミⅡ）は必修</td></tr>
<tr><td>GS言語科目</td><td colspan="2">TOEIC準備コース4単位，EAPコース4単位</td></tr>
<tr><td>自由履修科目　※</td><td colspan="2">3単位以上</td></tr>
<tr><td>基礎科目</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>初習言語科目</td><td colspan="3">1言語8単位</td></tr>
<tr><td rowspan="4">専門教育科目</td><td>学域GS科目</td><td rowspan="4">92単位以上</td><td colspan="3">2単位</td></tr>
<tr><td>学域GS言語科目</td><td colspan="3">2科目2単位</td></tr>
<tr><td>専門基礎科目</td><td colspan="3">12単位以上</td></tr>
<tr><td>専門科目</td><td colspan="3">コース選択必修16単位，演習8単位を含む</td></tr>
<tr><td colspan="2">卒業に必要な単位数</td><td colspan="3">130単位以上</td></tr>
</table>

※　共通教育科目における自由履修科目は，GS科目，基礎科目及び初習言語科目の最低修得要件を超えて修得した科目，並びにその他の共通教育科目（導入科目及びGS言語科目を除く）を指します。

注1.　2単位を超えて修得した学域GS科目の単位は，専門教育科目の単位に含めない。
注2.　演習配属要件は，共通教育科目から24単位（大学・社会生活論，初学者ゼミⅠ，情報処理基礎，地域概論の4科目4単位，およびGS科目「3A プレゼン・ディベート論（初学者ゼミⅡ）」の1科目1単位を含む）以上，専門教育科目から専門基礎科目4単位以上を修得することである。



## (2) 共通教育科目の履修について

次の事項に留意するほか，『経済学類ハンドブック』に記載されている『人間社会学域規程』『経済学類細則』等をよく読んでください。

① 共通教育科目はどの年次でも履修できます。また，高学年次での履修も可能ですが，**演習（専門科目・必修）を履修するためには，2年次後期終了時までに一定の共通教育科目の単位を修得しなければなりません。**（上記表の注2を参照してください。）

② 外国人留学生の言語科目については，GS言語科目（日本語）を参照してください。

## 学　校　教　育　学　類

### (1) 単位修得要件

共通教育科目の開講科目等は，金沢大学共通教育科目に関する規程の定めるところによる。

<table>
<tr><th colspan="2">区　　分</th><th colspan="3">修得すべき単位数及び条件</th></tr>
<tr><td rowspan="8">共通教育科目</td><td rowspan="4">導入科目</td><td rowspan="8">30単位以上</td><td>大学・社会生活論　　1単位</td><td rowspan="5">30単位以上</td></tr>
<tr><td>初学者ゼミⅠ　　1単位</td></tr>
<tr><td>情報処理基礎　　1単位</td></tr>
<tr><td>地域概論　　1単位</td></tr>
<tr><td>GS科目(5群)</td><td>各群から3単位　　計15単位<br>※GS科目3A プレゼン・ディベート論（初学者ゼミⅡ）は必修</td></tr>
<tr><td>GS言語科目</td><td colspan="2">TOEIC準備コース4単位，EAPコース4単位</td></tr>
<tr><td>自由履修科目　※</td><td colspan="2">3単位以上</td></tr>
<tr><td>基礎科目</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>初習言語科目</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="4">専門教育科目</td><td>学域GS科目</td><td>2単位</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>学域GS言語科目</td><td>2単位</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>専門基礎科目</td><td>63～66単位以上</td><td colspan="2">教育科学コース・教育基礎専修　66単位<br>教育科学コース・特別支援教育専修　63単位<br>教科教育学コース　66単位</td></tr>
<tr><td>専門科目</td><td>40～43単位以上</td><td colspan="2">教育科学コース・教育基礎専修　40単位<br>教育科学コース・特別支援教育専修　43単位<br>教科教育学コース　40単位</td></tr>
<tr><td colspan="2">卒業に必要な単位数</td><td colspan="3">140単位以上</td></tr>
</table>

※　共通教育科目における自由履修科目は，GS科目，基礎科目及び初習言語科目の最低修得要件を超えて修得した科目，並びにその他の共通教育科目（導入科目及びGS言語科目を除く）を指します。



### (2) 共通教育科目の履修について

① 教育職員免許状取得のため，次の科目を必ず修得してください。

日本国憲法に関する科目…日本国憲法概説（2単位）（自由履修科目に算入）

体育に関する科目…GS科目「2F エクササイズ＆スポーツ　実技」及びGS科目「3F スポーツ科学」から計2単位

情報機器の操作に関する科目…GS科目「5C 情報の科学」（1単位）

詳細については「15. 教育職員免許状」を参照してください。

② 外国人留学生の言語科目については，GS言語科目（日本語）を参照してください。

# 地　域　創　造　学　類

## (1) 単位修得要件

共通教育科目の開講科目等は，金沢大学共通教育科目に関する規程の定めるところによる。

<table>
<tr><th colspan="2">区　　分</th><th colspan="3">修得すべき単位数及び条件</th></tr>
<tr><td rowspan="8">共通教育科目</td><td rowspan="4">導入科目</td><td rowspan="8">38単位以上</td><td>大学・社会生活論　　1単位</td><td rowspan="6">30単位以上</td></tr>
<tr><td>初学者ゼミⅠ　　1単位</td></tr>
<tr><td>情報処理基礎　　1単位</td></tr>
<tr><td>地域概論　　1単位</td></tr>
<tr><td>GS科目(5群)</td><td>各群から3単位　　計15単位<br>※GS科目3A プレゼン・ディベート論（初学者ゼミⅡ）は必修</td></tr>
<tr><td>GS言語科目</td><td colspan="2">TOEIC準備コース4単位，EAPコース4単位</td></tr>
<tr><td>自由履修科目　※</td><td colspan="2">3単位以上</td></tr>
<tr><td>基礎科目</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>初習言語科目</td><td colspan="3">1言語8単位</td></tr>
<tr><td rowspan="4">専門教育科目</td><td>学域GS科目</td><td rowspan="4">86単位以上</td><td colspan="2">2科目2単位以上</td></tr>
<tr><td>学域GS言語科目</td><td colspan="2">2科目2単位</td></tr>
<tr><td>専門基礎科目</td><td colspan="2">学類共通科目14単位以上</td></tr>
<tr><td>専門科目</td><td colspan="2">68単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">卒業に必要な単位数</td><td colspan="3">124単位以上</td></tr>
</table>

※　共通教育科目における自由履修科目は，GS科目，基礎科目及び初習言語科目の最低修得要件を超えて修得した科目，並びにその他の共通教育科目（導入科目及びGS言語科目を除く）を指します。

## (2) 共通教育科目の履修について

① 教育職員免許状については，「15. 教育職員免許状」を参照してください。

② 外国人留学生の言語科目については，GS言語科目（日本語）を参照してください。

# 国　際　学　類

## (1) 単位修得要件

共通教育科目の開講科目等は，金沢大学共通教育科目に関する規程の定めるところによる。

<table>
<tr><th colspan="2">区　分</th><th colspan="3">修得すべき単位数及び条件</th></tr>
<tr><td rowspan="8">共通教育科目</td><td rowspan="4">導入科目</td><td rowspan="8">38単位以上</td><td>大学・社会生活論　1単位</td><td rowspan="6">30単位以上</td></tr>
<tr><td>初学者ゼミⅠ　1単位</td></tr>
<tr><td>情報処理基礎　1単位</td></tr>
<tr><td>地域概論　1単位</td></tr>
<tr><td>GS科目(5群)</td><td>各群から3単位　計15単位<br>※GS科目3A プレゼン・ディベート論（初学者ゼミⅡ）は必修</td></tr>
<tr><td>GS言語科目</td><td colspan="2">TOEIC準備コース4単位，EAPコース4単位</td></tr>
<tr><td>自由履修科目　※</td><td colspan="2">3単位以上</td></tr>
<tr><td>基礎科目</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>初習言語科目</td><td colspan="3">1言語8単位</td></tr>
<tr><td rowspan="4">専門教育科目</td><td>学域GS科目</td><td rowspan="4">86単位以上</td><td colspan="3">2単位</td></tr>
<tr><td>学域GS言語科目</td><td colspan="3">2科目2単位以上</td></tr>
<tr><td>専門基礎科目</td><td colspan="3">学類共通科目20単位以上（注）</td></tr>
<tr><td>専門科目</td><td colspan="3">卒業論文（6単位），研究演習（ABから4単位）を含む</td></tr>
<tr><td colspan="2">卒業に必要な単位数</td><td colspan="3">124単位以上</td></tr>
</table>

※　共通教育科目における自由履修科目は，GS科目，基礎科目及び初習言語科目の最低修得要件を超えて修得した科目，並びにその他の共通教育科目（導入科目及びGS言語科目を除く）を指します。

注　必修科目「国際学入門1」「国際学入門2」「日本文化1」「日本文化2」（各1単位）を含む。



## (2) 共通教育科目の履修について

① 言語科目

(ア) 初習言語については，国際社会コースは，どの言語でもよいですが，第2志望のコースが薦める言語を学んでおく方がよいでしょう。日本・日本語教育コースは，どの言語でもよいです。アジアコースは，どの言語でもよいですが，中国・台湾・朝鮮を研究しようとする者は，中国語・朝鮮語のいずれかを薦めます。米英コースは，どの言語でもよいです。ヨーロッパコースは，ドイツ語・フランス語・スペイン語・ロシア語のいずれかを薦めます。

(イ) 外国人留学生の言語科目については，GS言語科目（日本語）を参照してください。

② 教職課程

教職課程を履修する人は，本履修案内「教育職員免許状」の項目や『国際学類ハンドブック』及び『教育職員免許状ハンドブック』の指示に従ってください。

# 数　物　科　学　類

## (1) 単位修得要件

共通教育科目の開講科目等は，金沢大学共通教育科目に関する規程の定めるところによる。

| 区　分 | | 修得すべき単位数及び条件 | | |
|---|---|---|---|---|
| 共通教育科目 | 導入科目 | 44単位以上 | 大学・社会生活論　1単位 | 30単位以上 |
| | | | 初学者ゼミⅠ　1単位 | |
| | | | 情報処理基礎　1単位 | |
| | | | 地域概論　1単位 | |
| | GS科目（5群） | | 各群から3単位　計15単位<br>※GS科目3A プレゼン・ディベート論（初学者ゼミⅡ）は必修 | |
| | GS言語科目 | | TOEIC準備コース4単位，EAPコース4単位 | |
| | 自由履修科目 ※ | | 3単位以上 | |
| | 基礎科目 | | 14単位以上 | |
| | 初習言語科目 | | | |
| | 自由履修枠 | 2単位以下 | 共通教育科目又は専門教育科目から自由に選択 | |
| 専門教育科目 | 学域GS科目 | 78単位以上 | 2科目2単位 | |
| | 学域GS言語科目 | | 2科目2単位 | |
| | 専門基礎科目 | | | |
| | 専門科目 | | | |
| 卒業に必要な単位数 | | 124単位以上 | | |

※　共通教育科目における自由履修科目は，GS科目，基礎科目及び初習言語科目の最低修得要件を超えて修得した科目，並びにその他の共通教育科目（導入科目及びGS言語科目を除く）を指します。

注．共通教育科目における基礎科目の履修方法は，理工学域規程別表第2のとおりとする。
卒業に必要な単位数等及び単位修得に関する要件は，理工学域規程別表第7のとおりとする。
＊　自由履修枠の説明については9ページ参照。



理工学域規程別表第2（抜粋）

| 学類 | 授業科目 | 学年 | 毎週授業時間数 | | 区分 | 単位数 | 修得要件 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 前期 | 後期 | | | |
| 数物科学類 | 微分積分学第一 | 1 | 2 | | 必修 | 2 | 必修のすべてと，選択から2単位以上を含む，14単位以上を修得すること。ただし，物理学コース及び計算科学コース計算実験プログラムにおいては，物理学実験を修得することが必要である。 |
| | 線形代数学第一 | 1 | 2 | | 必修 | 2 | |
| | 物理学Ⅰ | 1 | 2 | | 必修 | 2 | |
| | 化学Ⅰ | 1 | 2 | | 選択 | 2 | |
| | 地学Ⅰ | 1 | 2 | | 選択 | 2 | |
| | 微分積分学第二 | 1 | | 2 | 必修 | 2 | |
| | 線形代数学第二 | 1 | | 2 | 必修 | 2 | |
| | 物理学Ⅱ | 1 | | 2 | 必修 | 2 | |
| | 化学Ⅱ | 1 | | 2 | 選択 | 2 | |
| | 地学Ⅱ | 1 | | 2 | 選択 | 2 | |
| | 物理学実験 | 2 | 6 | | 選択 | 2 | |
| | 化学実験 | 1 | | 6 | 選択 | 2 | |

**(2)** 共通教育科目の履修について

・課題研究の着手

３年後期末までに，共通教育科目に関し，卒業に必要な修得すべき単位数44単位以上のうち，数学コース及び計算科学コース計算数理プログラムにおいては40単位以上，物理学コース及び計算科学コース計算実験プログラムにおいては42単位以上を修得していなければ課題研究に着手できません。高学年になるほど共通教育科目を履修する時間帯が制限されますので，計画的に単位を修得してください。

**(3)** 教育職員免許状について

教育職員免許状の取得を希望する学生は，教育職員免許法および同施行規則に定められた単位を修得しなければなりません。

数物科学類で取得できる教育職員免許状の種類や免許状の取得に必要な単位の修得方法については，『理工学域履修案内』に記載されていますので，ここでは省略しますが，共通教育科目については「15. 教育職員免許状」を参照してください。また，理科の教育職員免許状を取得するためには，以下の共通教育科目の履修が必要です。

| 教育職員免許法施行規則に定める科目区分 | 左記に対応して開設されている共通教育科目及び単位数 | | 理科の教育職員免許状取得のための要件 |
|---|---|---|---|
| | 授業科目 | 単位数 | |
| 物理学 | ◎物理学Ⅰ | 2 | １科目２単位以上 |
| | ◎物理学Ⅱ | 2 | |
| 化学実験（コンピュータ活用を含む） | 化学実験 | 2 | ※ |
| 生物学実験（コンピュータ活用を含む） | 生物学実験 | 2 | ※ |
| 地学実験（コンピュータ活用を含む） | 地学実験 | 2 | ※ |

注１　◎印の科目は卒業に必要な必修科目のため，必ず修得しなければなりません。

注２　中学校１種免許状（理科）を取得する場合は，※印の化学実験，生物学実験及び地学実験の３科目全てを修得しなければなりません。高等学校１種免許状（理科）を取得する場合は，※印の化学実験，生物学実験，地学実験及び専門科目の物理実験Ⅰの４科目から，４単位以上を修得しなければなりません。



**(4)** 外国人留学生の言語科目については，GS言語科目（日本語）を参照してください。

## 物　質　化　学　類

### (1) 単位修得要件

共通教育科目の開講科目等は，金沢大学共通教育科目に関する規程の定めるところによる。

| 区　分 | | 修得すべき単位数及び条件 | | |
|---|---|---|---|---|
| 共通教育科目 | 導入科目 | 46単位以上 | 大学・社会生活論　1単位 | 30単位以上 |
| | | | 初学者ゼミⅠ　1単位 | |
| | | | 情報処理基礎　1単位 | |
| | | | 地域概論　1単位 | |
| | GS科目（5群） | | 各群から3単位　計15単位<br>※GS科目3A プレゼン・ディベート論（初学者ゼミⅡ）は必修 | |
| | GS言語科目 | | TOEIC準備コース4単位，EAPコース4単位 | |
| | 自由履修科目　※ | | 3単位以上 | |
| | 基礎科目 | | 16単位以上 | |
| | 初習言語科目 | | | |
| | 自由履修枠 | 4単位以下 | 共通教育科目又は専門教育科目から自由に選択 | |
| 専門教育科目 | 学域GS科目 | 83単位以上 | 2科目2単位 | |
| | 学域GS言語科目 | | 2科目2単位 | |
| | 専門基礎科目 | | | |
| | 専門科目 | | | |
| 卒業に必要な単位数 | | 133単位以上 | | |

※　共通教育科目における自由履修科目は，GS科目，基礎科目及び初習言語科目の最低修得要件を超えて修得した科目，並びにその他の共通教育科目（導入科目及びGS言語科目を除く）を指します。

注．共通教育科目における基礎科目の履修方法は，理工学域規程別表第2のとおりとする。
卒業に必要な単位数等及び単位修得に関する要件は，理工学域規程別表第7のとおりとする。
＊　自由履修枠の説明については9ページ参照。



理工学域規程別表第2（抜粋）

| 学類 | 授業科目 | 学年 | 毎週授業時間数 | | 区分 | 単位数 | 修得要件 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 前期 | 後期 | | | |
| 物質化学類 | 微分積分学第一 | 1 | 2 | | 必修 | 2 | 必修のすべてと，選択必修から2単位以上を含む，16単位以上を修得すること。 |
| | 線形代数学第一 | 1 | 2 | | 必修 | 2 | |
| | 物理学Ⅰ | 1 | 2 | | 必修 | 2 | |
| | 化学Ⅰ | 1 | 2 | | 必修 | 2 | |
| | 地学Ⅰ | 1 | 2 | | 選択 | 2 | |
| | 微分積分学第二 | 1 | | 2 | 選択必修 | 2 | |
| | 線形代数学第二 | 1 | | 2 | 選択必修 | 2 | |
| | 物理学Ⅱ | 1 | | 2 | 必修 | 2 | |
| | 化学Ⅱ | 1 | | 2 | 必修 | 2 | |
| | 地学Ⅱ | 1 | | 2 | 選択 | 2 | |
| | 物理学実験 | 2 | 6 | | 選択必修 | 2 | |
| | 化学実験 | 1 | | 6 | 必修 | 2 | |

**(2)** 共通教育科目の履修について

① 必修（化学Ⅰ，Ⅱ，物理学Ⅰ，Ⅱ，化学実験，線形代数Ⅰ，微分積分Ⅰ）のすべてと，選択必修（線形代数Ⅱ，微分積分Ⅱ，物理学実験）２単位以上を含む16単位を履修すること。

② 課題研究の着手

３年後期末までに，共通教育科目に関し，卒業に必要な修得すべき単位数46単位以上を修得していなければ課題研究に着手できません。高学年になるほど共通教育科目を履修する時間帯が制限されますので，計画的に単位を修得してください。

**(3)** 教育職員免許状について

教育職員免許状の取得を希望する学生は，教育職員免許法および同施行規則に定められた単位を修得しなければなりません。

物質化学類で取得できる教育職員免許状の種類や免許状の取得に必要な単位の修得方法については，『理工学域履修案内』に記載されていますので，ここでは省略しますが，共通教育科目については「15. 教育職員免許状」を参照してください。また，理科の教育職員免許状を取得するためには，以下の共通教育科目の履修が必要です。

| 教育職員免許法施行規則に定める科目区分 | 左記に対応して開設されている共通教育科目及び単位数 | | 理科の教育職員免許状取得のための要件 |
|---|---|---|---|
| | 授業科目 | 単位数 | |
| 化学 | ◎化学Ⅰ | 2 | １科目２単位以上 |
| | ◎化学Ⅱ | 2 | |
| 物理学実験（コンピュータ活用を含む） | 物理学実験 | 2 | ※ |
| 化学実験（コンピュータ活用を含む） | ◎化学実験 | 2 | ※ |
| 生物学実験（コンピュータ活用を含む） | 生物学実験 | 2 | ※ |
| 地学実験（コンピュータ活用を含む） | 地学実験 | 2 | ※ |

注１　◎印の科目は卒業に必要な必修科目のため，必ず修得しなければなりません。

注２　中学校１種免許状（理科）を取得する場合は，※印の物理学実験，生物学実験及び地学実験の３科目全てを修得しなければなりません。高等学校１種免許状（理科）を取得する場合は，※印の物理学実験，化学実験，生物学実験及び地学実験の４科目から，２科目４単位以上を修得しなければなりません。

**(4)** 外国人留学生の言語科目については，GS言語科目（日本語）を参照してください。

# 機　械　工　学　類

## (1) 単位修得要件

共通教育科目の開講科目等は，金沢大学共通教育科目に関する規程の定めるところによる。

| 区　分 | | 修得すべき単位数及び条件 | | |
|---|---|---|---|---|
| 共通教育科目 | 導入科目 | 46単位以上 | 大学・社会生活論　1単位 | 30単位以上 |
| | | | 初学者ゼミⅠ　1単位 | |
| | | | 情報処理基礎　1単位 | |
| | | | 地域概論　1単位 | |
| | GS科目（5群） | | 各群から3単位　計15単位<br>※GS科目3A プレゼン・ディベート論（初学者ゼミⅡ）は必修 | |
| | GS言語科目 | | TOEIC準備コース4単位，EAPコース4単位 | |
| | 自由履修科目　※ | | 3単位以上 | |
| | 基礎科目 | | 16単位以上 | |
| | 初習言語科目 | | | |
| 専門教育科目 | 学域GS科目 | 84単位以上 | 2科目2単位 | |
| | 学域GS言語科目 | | 2科目2単位 | |
| | 専門基礎科目 | | | |
| | 専門科目 | | | |
| 卒業に必要な単位数 | | 130単位以上 | | |

※　共通教育科目における自由履修科目は，GS科目，基礎科目及び初習言語科目の最低修得要件を超えて修得した科目，並びにその他の共通教育科目（導入科目及びGS言語科目を除く）を指します。

注．共通教育科目における基礎科目の履修方法は，理工学域規程別表第2のとおりとする。
卒業に必要な単位数等及び単位修得に関する要件は，理工学域規程別表第7のとおりとする。

理工学域規程別表第2（抜粋）

| 学類 | 授業科目 | 学年 | 毎週授業時間数 | | 区分 | 単位数 | 修得要件 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 前期 | 後期 | | | |
| 機械工学類 | 微分積分学第一 | 1 | 2 | | 必修 | 2 | 必修のすべてと，選択から2単位以上を含む，16単位以上を修得すること。 |
| | 線形代数学第一 | 1 | 2 | | 必修 | 2 | |
| | 物理学Ⅰ | 1 | 2 | | 必修 | 2 | |
| | 化学Ⅰ | 1 | 2 | | 選択 | 2 | |
| | 微分積分学第二 | 1 | | 2 | 必修 | 2 | |
| | 線形代数学第二 | 1 | | 2 | 必修 | 2 | |
| | 物理学Ⅱ | 1 | | 2 | 必修 | 2 | |
| | 化学Ⅱ | 1 | | 2 | 選択 | 2 | |
| | 物理学実験 | 2 | 6 | | 必修 | 2 | |
| | 化学実験 | 2 | 6 | | 選択 | 2 | |

## (2) 共通教育科目の履修について

・卒業研究の着手

3年後期末までに，共通教育科目に関し，卒業に必要な修得すべき単位数46単位以上を修得していなければ卒業研究に着手できません。高学年になるほど共通教育科目を履修する時間帯が制限されますので，計画的に単位を修得してください。

**(3)** 教育職員免許状について

教育職員免許状の取得を希望する学生は，教育職員免許法および同施行規則に定められた単位を修得しなければなりません。

機械工学類で取得できる教育職員免許状の種類や免許状の取得に必要な単位の修得方法については,『理工学域履修案内』に記載されていますので，ここでは省略しますが，共通教育科目については「15. 教育職員免許状」を参照してください。

**(4)** 外国人留学生の言語科目については，GS言語科目（日本語）を参照してください。

## 電　子　情　報　学　類

**(1)** 単位修得要件

共通教育科目の開講科目等は，金沢大学共通教育科目に関する規程の定めるところによる。

<table>
<tr><th colspan="2">区　　分</th><th colspan="3">修得すべき単位数及び条件</th></tr>
<tr><td rowspan="9">共通教育科目</td><td rowspan="2">導入科目</td><td rowspan="8">46単位以上</td><td>大学・社会生活論　1単位</td><td rowspan="6">30単位以上</td></tr>
<tr><td>初学者ゼミⅠ　1単位<br>情報処理基礎　1単位<br>地域概論　1単位</td></tr>
<tr><td>GS科目（5群）</td><td>各群から3単位　計15単位<br>※GS科目3A プレゼン・ディベート論（初学者ゼミⅡ）は必修</td></tr>
<tr><td>GS言語科目</td><td colspan="2">TOEIC準備コース4単位，EAPコース4単位</td></tr>
<tr><td>自由履修科目　※</td><td colspan="2">3単位以上</td></tr>
<tr><td>基礎科目</td><td colspan="2">16単位以上</td></tr>
<tr><td>初習言語科目</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="4">専門教育科目</td><td>学域GS科目</td><td rowspan="4">86単位以上</td><td colspan="2">2科目2単位</td></tr>
<tr><td>学域GS言語科目</td><td colspan="2">2科目2単位</td></tr>
<tr><td>専門基礎科目</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>専門科目</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">卒業に必要な単位数</td><td colspan="3">132単位以上</td></tr>
</table>

※　共通教育科目における自由履修科目は，GS科目，基礎科目及び初習言語科目の最低修得要件を超えて修得した科目，並びにその他の共通教育科目（導入科目及びGS言語科目を除く）を指します。

注．共通教育科目における基礎科目の履修方法は，理工学域規程別表第2のとおりとする。
卒業に必要な単位数等及び単位修得に関する要件は，理工学域規程別表第7のとおりとする。

理工学域規程別表第２（抜粋）

| 学類 | 授業科目 | 学　年 | 毎週授業時間数 | | 区　分 | 単位数 | 修得要件 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 前　期 | 後　期 | | | |
| 電子情報学類 | 微分積分学第一 | 1 | 2 | | 必修 | 2 | 必修のすべてと，選択から２単位以上を含む，16単位以上を修得すること。 |
| | 線形代数学第一 | 1 | 2 | | 必修 | 2 | |
| | 物理学Ⅰ | 1 | 2 | | 必修 | 2 | |
| | 化学Ⅰ | 1 | 2 | | 選択 | 2 | |
| | 微分積分学第二 | 1 | | 2 | 必修 | 2 | |
| | 線形代数学第二 | 1 | | 2 | 必修 | 2 | |
| | 物理学Ⅱ | 1 | | 2 | 必修 | 2 | |
| | 化学Ⅱ | 1 | | 2 | 選択 | 2 | |
| | 物理学実験 | 2 | 6 | | 必修 | 2 | |
| | 化学実験 | 2 | 6 | | 選択 | 2 | |

**(2)** 共通教育科目の履修について

・卒業研究の着手

３年後期末までに，共通教育科目に関し，卒業に必要な修得すべき単位数46単位以上を修得していなければ卒業研究に着手できません。高学年になるほど共通教育科目を履修する時間帯が制限されますので，計画的に単位を修得してください。

**(3)** 教育職員免許状について

教育職員免許状の取得を希望する学生は，教育職員免許法および同施行規則に定められた単位を修得しなければなりません。

電子情報学類で取得できる教育職員免許状の種類や免許状の取得に必要な単位の修得方法については，『理工学域履修案内』に記載されていますので，ここでは省略しますが，共通教育科目については「15. 教育職員免許状」を参照してください。

**(4)** 外国人留学生の言語科目については，GS言語科目（日本語）を参照してください。

## 環　境　デ　ザ　イ　ン　学　類

### (1) 単位修得要件

共通教育科目の開講科目等は，金沢大学共通教育科目に関する規程の定めるところによる。

| 区　分 | | 修得すべき単位数及び条件 | | |
|---|---|---|---|---|
| 共通教育科目 | 導入科目 | 46単位以上 | 大学・社会生活論　1単位 | 30単位以上 |
| | | | 初学者ゼミⅠ　1単位 | |
| | | | 情報処理基礎　1単位 | |
| | | | 地域概論　1単位 | |
| | GS科目（5群） | | 各群から3単位　計15単位<br>※GS科目3A プレゼン・ディベート論（初学者ゼミⅡ）は必修 | |
| | GS言語科目 | | TOEIC準備コース4単位，EAPコース4単位 | |
| | 自由履修科目　※ | | 3単位以上　左記の単位に基礎科目の選択から修得した単位を含めることができる。 | |
| | 基礎科目 | | 必修16単位。必修16単位以外に基礎科目の選択から2単位以上修得すること。なお，基礎科目の選択から修得した単位は自由履修科目に含めることができる。 | |
| | 初習言語科目 | | | |
| 専門教育科目 | 学域GS科目 | 87単位以上 | 2科目2単位 | |
| | 学域GS言語科目 | | 2科目2単位 | |
| | 専門基礎科目 | | 10単位 | |
| | 専門科目 | | 73単位以上 | |
| 卒業に必要な単位数 | | 133単位以上 | | |

※　共通教育科目における自由履修科目は，GS科目，基礎科目及び初習言語科目の最低修得要件を超えて修得した科目，並びにその他の共通教育科目（導入科目及びGS言語科目を除く）を指します。
　基礎科目の選択から2単位以上修得すること。なお，その単位は自由履修科目に含めてもよい。

注．共通教育科目における基礎科目の履修方法は，理工学域規程別表第2のとおりとする。
　卒業に必要な単位数等及び単位修得に関する要件は，理工学域規程別表第7のとおりとする。



理工学域規程別表第2（抜粋）

| 学類 | 授業科目 | 学年 | 毎週授業時間数 | | 区分 | 単位数 | 修得要件 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 前期 | 後期 | | | |
| 環境デザイン学類 | 微分積分学第一 | 1 | 2 | | 必修 | 2 | 必修の16単位すべてと，選択から2単位以上を修得すること。なお，選択で修得した単位は自由履修科目に含めることができる。 |
| | 線形代数学第一 | 1 | 2 | | 必修 | 2 | |
| | 物理学Ⅰ | 1 | 2 | | 必修 | 2 | |
| | 化学Ⅰ | 1 | 2 | | 必修 | 2 | |
| | 微分積分学第二 | 1 | | 2 | 必修 | 2 | |
| | 線形代数学第二 | 1 | | 2 | 必修 | 2 | |
| | 物理学Ⅱ | 1 | | 2 | 選択 | 2 | |
| | 化学Ⅱ | 1 | | 2 | 選択 | 2 | |
| | 物理学実験 | 1 | | 6 | 必修 | 2 | |
| | 化学実験 | 2 | 6 | | 必修 | 2 | |

**(2)** 共通教育科目の履修について

・卒業研究・設計の着手

３年後期末までに，共通教育科目に関し，卒業に必要な修得すべき単位数46単位以上を修得していなければ卒業研究に着手できません。高学年になるほど共通教育科目を履修する時間帯が制限されますので，計画的に単位を修得してください。

**(3)** 教育職員免許状について

教育職員免許状の取得を希望する学生は，教育職員免許法および同施行規則に定められた単位を修得しなければなりません。

環境デザイン学類で取得できる教育職員免許状の種類や免許状の取得に必要な単位の修得方法については，『理工学域履修案内』に記載されていますので，ここでは省略しますが，共通教育科目については「15. 教育職員免許状」を参照してください。

**(4)** 外国人留学生の言語科目については，GS言語科目（日本語）を参照してください。

## 自　然　シ　ス　テ　ム　学　類

**(1)** 単位修得要件

共通教育科目の開講科目等は，金沢大学共通教育科目に関する規程の定めるところによる。

<table>
<tr><th colspan="2">区　　分</th><th colspan="3">修得すべき単位数及び条件</th></tr>
<tr><td rowspan="8">共通教育科目</td><td rowspan="4">導入科目</td><td rowspan="8">42単位以上</td><td>大学・社会生活論　　1単位</td><td rowspan="5">30単位以上</td></tr>
<tr><td>初学者ゼミⅠ　　1単位</td></tr>
<tr><td>情報処理基礎　　1単位</td></tr>
<tr><td>地域概論　　1単位</td></tr>
<tr><td>GS科目（5群）</td><td>各群から3単位　　計15単位<br>※GS科目3A プレゼン・ディベート論（初学者ゼミⅡ）は必修</td></tr>
<tr><td>GS言語科目</td><td colspan="2">TOEIC準備コース4単位，EAPコース4単位</td></tr>
<tr><td>自由履修科目　※</td><td colspan="2">3単位以上</td></tr>
<tr><td>基礎科目</td><td colspan="2">12単位以上</td></tr>
<tr><td>初習言語科目</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="4">専門教育科目</td><td>学域GS科目</td><td rowspan="4">88単位以上</td><td colspan="2">2科目2単位</td></tr>
<tr><td>学域GS言語科目</td><td colspan="2">2科目2単位</td></tr>
<tr><td>専門基礎科目</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>専門科目</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">卒業に必要な単位数</td><td colspan="3">130単位以上</td></tr>
</table>

※　共通教育科目における自由履修科目は，GS科目，基礎科目及び初習言語科目の最低修得要件を超えて修得した科目，並びにその他の共通教育科目（導入科目及びGS言語科目を除く）を指します。

注．共通教育科目における基礎科目の履修方法は，理工学域規程別表第2のとおりとする。
卒業に必要な単位数等及び単位修得に関する要件は，理工学域規程別表第7のとおりとする。

理工学域規程別表第２（抜粋）

| 学類 | 授業科目 | 学　年 | 毎週授業時間数 | | 区　分 | 単位数 | 修得要件 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 前　期 | 後　期 | | | |
| 自然システム学類 | 微分積分学第一 | 1 | 2 | | 必修 | 2 | 必修のすべてと，物理学実験若しくは化学実験のいずれかを含む，12単位以上を修得すること。 |
| | 線形代数学第一 | 1 | 2 | | 必修 | 2 | |
| | 物理学Ⅰ | 1 | 2 | | 必修 | 2 | |
| | 化学Ⅰ | 1 | 2 | | 必修 | 2 | |
| | 地学Ⅰ | 1 | 2 | | 必修 | 2 | |
| | 微分積分学第二 | 1 | | 2 | 選択 | 2 | |
| | 線形代数学第二 | 1 | | 2 | 選択 | 2 | |
| | 物理学Ⅱ | 2 | 2 | | 選択 | 2 | |
| | 化学Ⅱ | 1 | | 2 | 選択 | 2 | |
| | 地学Ⅱ | 1 | | 2 | 選択 | 2 | |
| | 物理学実験 | 1 | | 6 | 選択必修 | 2 | |
| | 化学実験 | 1 | | 6 | 選択必修 | 2 | |

**(2)** 共通教育科目の履修について

① 導入科目について

初年度は自然システム学類指定の「大学・社会生活論」，「初学者ゼミⅠ」，GS科目「３A プレゼン・ディベート論（初学者ゼミⅡ）」，「情報処理基礎」，「地域概論」を必ず修得してください。また，本学類生はGS科目「２E 細胞・分子生物学」を履修する事が望まれます。

② 課題研究の着手

３年後期末までに，共通教育科目に関し，卒業に必要な修得すべき単位数42単位以上を修得していなければ課題研究に着手できません。高学年になるほど共通教育科目を履修する時間帯が制限されますので，計画的に単位を修得してください。



**(3)** 教育職員免許状について

教育職員免許状の取得を希望する学生は，教育職員免許法および同施行規則に定められた単位を修得しなければなりません。

自然システム学類で取得できる教育職員免許状の種類や免許状の取得に必要な単位の修得方法については，『理工学域履修案内』に記載されていますので，ここでは省略しますが，共通教育科目については「15. 教育職員免許状」を参照してください。また，理科の教育職員免許状を取得するためには，以下の共通教育科目の履修が必要です。

| 教育職員免許法施行規則に定める科目区分 | 左記に対応して開設されている共通教育科目及び単位数 | | 理科の教育職員免許状取得のための要件 |
|---|---|---|---|
| | 授業科目 | 単位数 | |
| 物理学実験（コンピュータ活用を含む） | ○物理学実験 | 2 | |
| 化学実験（コンピュータ活用を含む） | ○化学実験 | 2 | |
| 生物学実験（コンピュータ活用を含む） | 生物学実験 | 2 | ※ |
| 地学実験（コンピュータ活用を含む） | 地学実験 | 2 | ※ |

注１　○印の科目は卒業に必要な選択必修科目のため，１科目以上必ず修得しなければなりません。

注２　中学校１種免許状（理科）を取得する場合は，物理学実験，化学実験，生物学実験および地学実験のすべての科目を修得しなければなりません。ただし，※印の科目のうち一つは配属された各コースの専門実験科目を以て対応する実験科目に代えることができます。高等学校１種免許状（理科）を取得する場合は，物理学実験，化学実験，生物学実験および地学実験から１

科目２単位以上修得しなければなりません。

**(4)** 外国人留学生の言語科目については，GS言語科目（日本語）を参照してください。

## 医　　学　　類

**(1)** 単位修得要件

共通教育科目の開講科目等は，金沢大学共通教育科目に関する規程の定めるところによる。

<table>
<tr><th colspan="2">区　　分</th><th colspan="3">修得すべき単位数及び条件</th></tr>
<tr><td rowspan="8">共通教育科目</td><td rowspan="4">導入科目</td><td rowspan="8">44単位以上</td><td>大学・社会生活論　　１単位</td><td rowspan="5">30単位以上</td></tr>
<tr><td>初学者ゼミⅠ　　１単位</td></tr>
<tr><td>情報処理基礎　　１単位</td></tr>
<tr><td>地域概論　　１単位</td></tr>
<tr><td>GS科目（５群）</td><td>各群から３単位　　計15単位<br>※GS科目３A プレゼン・ディベート論（初学者ゼミⅡ）は必修</td></tr>
<tr><td>GS言語科目</td><td colspan="2">TOEIC準備コース４単位，EAPコース４単位</td></tr>
<tr><td>自由履修科目　※１</td><td colspan="2">３単位以上</td></tr>
<tr><td>基礎科目</td><td colspan="3">14単位</td></tr>
<tr><td>初習言語科目</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td rowspan="4">専門教育科目</td><td>学域GS科目</td><td rowspan="4">225単位以上</td><td colspan="2">１科目２単位　医薬保健学基礎</td></tr>
<tr><td>学域GS言語科目</td><td colspan="2">２科目４単位　医学英語</td></tr>
<tr><td>学類専門基礎科目</td><td colspan="2">医学入門　　0.5単位<br>早期医療体験　　1.2単位<br>医師の使命とキャリア　0.8単位</td></tr>
<tr><td>専門科目　※２</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">卒業に必要な単位数</td><td colspan="3">269単位以上</td></tr>
</table>

※１　共通教育科目における自由履修科目は，GS科目，基礎科目及び初習言語科目の最低修得要件を超えて修得した科目，並びにその他の共通教育科目（導入科目及びGS言語科目を除く）を指します。

※２　専門科目は基礎医学，臨床医学基礎，臨床実習，総括講義，医学研究特設プログラムを含む

**(2)** 共通教育科目の履修について

① 導入科目について

医学類指定の「大学・社会生活論」１単位，「初学者ゼミⅠ」１単位，「情報処理基礎」１単位，「地域概論」１単位を必ず修得してください。

② GS科目（５群）について

GS科目「３A プレゼン・ディベート論（初学者ゼミⅡ）」１単位は医学類指定のものが宝町キャンパスで開講されますので，必ず修得してください。

③ 基礎科目は，数学（微分積分学第一，線形代数学第一，統計数学）を６単位，物理学（物理学Ⅰ，物理学Ⅱ）を４単位，化学（化学Ⅰ，化学Ⅱ）を４単位の計14単位以上を修得してください。

④ GS言語科目は全て英語になります。

英語以外の言語科目は，自由履修科目とします。

外国人留学生の言語科目については，GS言語科目（日本語）を参照してください。

⑤ 共通教育科目の履修期間について

医学類専門教育科目は，医学研究特設プログラムを除いて全科目が必修であるため，共通教育科目の44単位は，１年次でほぼ修得し終えることが強く望まれます。

２年次で共通教育科目を履修できるのは，水曜日の午前のみです。

２年次終了までに，共通教育科目は44単位を修得しなければ，３年次の講義・実習を履修することが

できません。

詳細は，入学時に配付の「医学類履修・学生生活の手引」の「医薬保健学域医学類進級内規」で確認してください。

## 薬　学　類　・　創　薬　科　学　類

### (1) 単位修得要件

共通教育科目の開講科目等は，金沢大学共通教育科目に関する規程の定めるところによる。

<table>
<tr><th colspan="3">区　　分</th><th colspan="3">修得すべき単位数及び条件</th></tr>
<tr><td rowspan="8">共通教育科目</td><td rowspan="4">導入科目</td><td rowspan="8">35単位以上</td><td>大学・社会生活論　　1単位</td><td rowspan="6">30単位以上</td></tr>
<tr><td>初学者ゼミⅠ　　1単位</td></tr>
<tr><td>情報処理基礎　　1単位</td></tr>
<tr><td>地域概論　　1単位</td></tr>
<tr><td>GS科目（5群）</td><td>各群から3単位　　計15単位<br>※GS科目3A プレゼン・ディベート論（初学者ゼミⅡ）は必修</td></tr>
<tr><td>GS言語科目</td><td>TOEIC準備コース4単位，EAPコース4単位</td></tr>
<tr><td>自由履修科目　※</td><td>3単位以上</td></tr>
<tr><td>基礎科目</td><td colspan="2">微分積分学第一（2単位），統計数学（2単位），<br>化学実験（1単位）合計5単位</td></tr>
<tr><td>初習言語科目</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="5">専門教育科目</td><td colspan="2">学域GS科目</td><td colspan="3">2科目2単位</td></tr>
<tr><td colspan="2">学域GS言語科目</td><td colspan="3">2科目2単位</td></tr>
<tr><td colspan="2">専門基礎科目</td><td colspan="3">4単位</td></tr>
<tr><td rowspan="2">専門科目</td><td>薬学類</td><td colspan="3">146.5単位以上</td></tr>
<tr><td>創薬科学類</td><td colspan="3">92.5単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">卒業に必要な単位数</td><td>薬学類</td><td colspan="3">189.5単位以上</td></tr>
<tr><td>創薬科学類</td><td colspan="3">135.5単位以上</td></tr>
</table>

※　共通教育科目における自由履修科目は，GS科目，基礎科目及び初習言語科目の最低修得要件を超えて修得した科目，並びにその他の共通教育科目（導入科目及びGS言語科目を除く）を指します。

### (2) 共通教育科目の履修について

次の事項に留意して履修してください。

① 導入科目について，薬学類・創薬科学類指定の科目を必ず修得してください。

② (1) 単位修得要件をよく理解した上で，必要な単位をもれなく修得してください。不明な点がある場合にはアドバイス教員に相談してください。なお，外国人留学生の言語科目については，GS言語科目（日本語）を参照してください。

③ 共通教育科目の35単位は，GS科目「3A プレゼン・ディベート論（初学者ゼミⅡ）」を除き2年次Q1までにほぼ修得し終えることが望まれます。2年次Q2後半は海外渡航を推奨し，Q3以降は，専門教育科目の履修が主となりますので，共通教育科目を履修できる時間は限られてきます。

④ その他共通教育科目の履修については，薬学類・創薬科学類シラバスにも記載されていますのでよく読んで理解してください。

⑤ GS科目「1F 化学の世界」及び「2E 細胞・分子生物学」の履修を強く推奨し，「5B 統計学から未来を見る」の履修を推奨します。

## 保　　健　　学　　類

### (1) 単位修得要件

共通教育科目の開講科目等は，金沢大学共通教育科目に関する規程の定めるところによる。

<table>
<tr><th colspan="2">区　　分</th><th colspan="3">修得すべき単位数及び条件</th></tr>
<tr><td rowspan="10">共通教育科目</td><td rowspan="4">導入科目</td><td rowspan="8">32～38単位以上</td><td>大学・社会生活論　　1単位</td><td rowspan="6">30単位以上</td></tr>
<tr><td>初学者ゼミⅠ　　1単位</td></tr>
<tr><td>情報処理基礎　　1単位</td></tr>
<tr><td>地域概論　　1単位</td></tr>
<tr><td>GS科目（5群）</td><td>各群から3単位　　計15単位<br>※GS科目3A プレゼン・ディベート論（初学者ゼミⅡ）は必修</td></tr>
<tr><td>GS言語科目</td><td>TOEIC準備コース4単位，EAPコース4単位</td></tr>
<tr><td>自由履修科目※</td><td>3単位以上</td><td></td></tr>
<tr><td>基礎科目</td><td colspan="2">看護，理学，作業　　2単位以上<br>放射，検査　　8単位以上</td></tr>
<tr><td>初習言語科目</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>自由履修枠</td><td>0～2単位以下</td><td colspan="2">共通教育科目又は専門教育科目から自由に選択<br>看護，放射，検査　　なし<br>理学，作業　　2単位以下</td></tr>
<tr><td rowspan="4">専門教育科目</td><td>学域GS科目</td><td rowspan="3">90～97単位以上</td><td colspan="2">2科目2単位以上</td></tr>
<tr><td>学域GS言語科目</td><td colspan="2">2科目2単位</td></tr>
<tr><td>専門基礎科目</td><td colspan="2">看護　　11単位<br>放射　　5単位<br>検査　　17単位<br>理学，作業　　12単位</td></tr>
<tr><td>専門科目</td><td colspan="2">看護　　82単位以上<br>放射　　88単位以上<br>検査　　69単位以上<br>理学，作業　　78単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">卒業に必要な単位数</td><td colspan="3">128～135単位以上</td></tr>
</table>

看護（看護学専攻），放射（放射線技術科学専攻），検査（検査技術科学専攻），理学（理学療法学専攻），作業（作業療法学専攻）

※　共通教育科目における自由履修科目は，GS科目，基礎科目及び初習言語科目の最低修得要件を超えて修得した科目，並びにその他の共通教育科目（導入科目及びGS言語科目を除く）を指します。

＊　自由履修枠の説明については9ページ参照。

### (2) 共通教育科目の履修について

① 導入科目について

保健学類指定の「大学・社会生活論」及び「初学者ゼミⅠ」，「情報処理基礎」，「地域概論」を必ず修得してください。

② GS科目について

単位修得要件に従って，各群から3単位計15単位を修得してください。

③ GS言語科目について

単位修得要件に従って，TOEIC準備コース4単位，EAPコース4単位を修得してください。

④ 自由履修枠について

「保健学類学生の手引」の履修内規の項に示す専攻別の履修要件をよく読んでください。

⑤ 養護教諭二種免許状について（看護学専攻）

保健師免許を有する者が，養護教諭二種免許状を申請する場合，教育職員免許法及び同施行規則に定められた単位を修得しておかなければなりません。共通教育科目については「15. 教育職員免許状」を参照してください。

# 14. 基幹教育特設プログラム

（平成28年度以降入学者対象）

## （1）「基幹教育特設プログラム」とは

「基幹教育特設プログラム」とは，学問的に束ねられる共通教育科目及び専門教育科目を，目的意識を持って修得して金沢大学＜グローバル＞スタンダード（KUGS）に基づいた「金沢大学ブランド人材」を育成するために開設しているプログラムです。学域・学類の目指す人材養成像よりも的を絞ったテーマを修得するプログラムと言い換えることができます。

## （2）「基幹教育特設プログラム」の概要

「基幹教育特設プログラム」として「総合地域論」のプログラムを用意しています。

平成28年度以降の入学者が対象となり，修了に必要な単位を修得又は修得見込みの上で申請すれば，卒業資格とは別に修了認定証が授与されます。「修了認定証」は，自ら学習成果を確認できるとともに，就職活動に活用することもできます。

## （3）プログラムの修了要件と卒業に必要な単位

プログラムに含まれる授業科目の単位は，プログラムの修了要件の充足とともに，卒業のための単位修得要件の充足にも用いることができます。

## （4）「修了認定証」交付の申請

7月・12月下旬に申請方法・期間を掲示等でお知らせしますので，「基幹教育特設プログラム修了認定申請書」を，基幹教育学務係に提出してください。

## （5）プログラム「総合地域論」の概要・学習目標・修了要件等

【概要】

「総合地域論」は，金沢大学が文部科学省「地（知）の拠点整備事業（ＣＯＣ事業）」の採択を受けて実施するものです。ＣＯＣ事業とは，Center of Communityの略称で，大学が地域発展の拠点となることを目指すものです。本学では，地域を総合的に学ぶ「総合地域論」を基幹教育特設プログラムに位置づけて開設しています。「総合地域論」は，金沢大学＜グローバル＞スタンダードに基づいたプログラムであり，「地域の感性」を育成し，「知識と社会」を結びつけ，自らの力で地域課題を見いだし，地域の未来を切り開くことができる行動力ある人材の育成を目指しています。

【学習目標】

基幹教育特設プログラム「総合地域論」を受講する学生の学習目標は，次のとおりです。

・高い関心と意欲を持って，地域・社会・生活について学べること
・自己の使命を感じ，地域での体験に主体的に取り組めること
・自分の価値観を相対化し，地域という立場から思考・判断できること
・大学での学修を活かして地域課題を発見し，その課題解決を通じて地域に貢献できること
・すなわち，ＫＵＧＳの精神を持って，地域の課題に取り組めること

【修了要件】

「総合地域論」は，共通教育科目と学域・学類科目の専門教育科目から構成されており，修了要件が定められています。

・Ａ群は大学での学修と地域との関係を理解する必修の導入科目「地域概論」を修得
・Ｂ群は地域とのつながりを理解する選択必修の共通教育ＧＳ科目から２単位以上を修得
・Ｃ群は共通教育領域から広く地域を学ぶ地域志向科目で，自由履修科目を活用した選択必修科目を３単位以上を修得
・Ｄ群は学域学類領域から専門的に地域を学ぶ地域志向科目で，学域ＧＳ科目などの科目で構成され，３単位以上を修得

表中のＡ，Ｂ，Ｃ，Ｄ群から修了要件内訳に従って科目を選択・履修し，合計12単位以上を修得してください。

「総合地域論」修了要件

| 区分 | | 科目名 | | 単位数 | 修了要件内訳 | 科目区分 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 必修 | A群 | 地域概論 | | 1 | 1単位 | 共通教育科目 | 導入科目 | |
| 選択 | B群 | 4A | 金沢・能登と世界の地域文化 | 1 | 2単位以上 | 共通教育科目 | GS科目 | |
| | | 4E | 国際社会とボランティア | 1 | | | | |
| | | 4F | グローバル社会と地域の課題 | 1 | | | | |
| | | 5D | 環境学とESD | 1 | | | | |
| | | 5E | 生活と社会保障 | 1 | | | | |
| | | 5F | 人権・ジェンダー論 | 1 | | | | |
| 選択 | C群 | 地域「超」体験プログラム | | 1 | 3単位以上 | 共通教育科目 | 自由履修科目 | 人間力強化プログラム |
| | | いしかわ新情報書府学 | | 1 | | | | |
| | | 地元学A（地域資源調査） | | 1 | | | | |
| | | 地元学B（聞き書き） | | 1 | | | | |
| | | ゼミ／角間の里山づくり 春編 | | 1 | | | | |
| | | ゼミ／角間の里山づくり 秋編 | | 1 | | | | |
| | | 金沢の歴史と文化 | | 2 | | | | シティカレッジ |
| | | 石川県の行政 | | 2 | | | | シティカレッジ |
| | | 石川県の市町 | | 2 | | | | シティカレッジ |
| | | 能登の世界農業遺産を学ぶスタディ・ツアー | | 1 | | | | シティカレッジ<br>平成28年度開講「いしかわ新情報書府学in能登」で読替え可 |
| 選択 | D群 | データで考える日本の未来（データサイエンス） | | 1 | 3単位以上 | 専門教育科目 | 学域GS科目（GS科目発展系科目群） | |
| | | 地域考古学A1 | | 1 | | | 人文学類 | |
| | | 地域考古学A2 | | 1 | | | | |
| | | 日本近世近代史概説A1 | | 1 | | | | |
| | | 日本近世近代史概説A2 | | 1 | | | | |
| | | 地理学概論B | | 2 | | | | |
| | | 地誌学 | | 2 | | | 学校教育学類 | |
| | | 農村地理学 | | 2 | | | | |
| | | 都市地理学 | | 2 | | | | |
| | | 学習指導論演習Ⅱ | | 2 | | | | |
| | | 環境と教育 | | 2 | | | | |
| | | 生活科専門研究 | | 2 | | | | |
| | | 地域創造学Ⅰ | | 1 | | | 地域創造学類 | |
| | | 自然環境と社会Ⅰ | | 1 | | | | |
| | | 地域学概論Ⅰ | | 1 | | | | |
| | | 地域文化論Ⅰ | | 1 | | | | |
| | | 地域地理学Ⅰ | | 1 | | | | |
| | | 農村地理学Ⅰ | | 1 | | | | |
| | | 機械工作実習 | | 1 | | | 機械工学類 | |
| | | エネルギー変換工学A | | 1 | | | | |
| | | エネルギー変換工学B | | 1 | | | | |
| | | エネルギー・環境工学A | | 1 | | | | |
| | | エネルギー・環境工学B | | 1 | | | | |
| | | 企業開放講義 | | 1 | | | | |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 選択 | D群 | 医薬保健学基礎Ⅰ（共通） | 1 | | 専門教育科目 | 保健学類 | |
| | | 医薬保健学基礎Ⅱ（共通） | 1 | | | | |
| | | 保健医療福祉概論（看護） | 1 | | | | 自専攻の学生のみ |
| | | 公衆衛生学（45207，放射） | 1 | | | | 自専攻の学生のみ |
| | | 公衆衛生学（23304，検査） | 2 | | | | 自専攻の学生のみ |
| | | 公衆衛生学（45448，理学・作業） | 2 | | | | 自専攻の学生のみ |
| | | 障害者環境論（理学） | 1 | | | | 自専攻の学生のみ |
| | | 地域リハビリテーション論（理学） | 1 | | | | 自専攻の学生のみ |
| | | 福祉行政経営演習（理学） | 1 | | | | 自専攻の学生のみ |
| | | 理学療法管理論（理学） | 1 | | | | 自専攻の学生のみ |
| | | 社会貢献論演習（理学） | 1 | | | | 自専攻の学生のみ |
| | | 医療福祉オペレーションズリサーチ演習（理学） | 1 | | | | 自専攻の学生のみ |
| | | 地域作業療法学（作業） | 1 | | | | |
| | | 社会関連活動学（作業） | 2 | | | | 自専攻の学生のみ |

## 15. 教育職員免許状

教育職員免許状取得希望者は，教育職員免許法および同施行規則に定められた単位を修得しなければなりません。

共通教育科目で，所属や免許種別等に関係なく修得しなければならないものは，「日本国憲法概説２単位」，「保健体育関連科目から２単位」，「外国語コミュニケーション関連科目から２単位」，「情報処理基礎１単位」，「情報の科学１単位」の計８単位です。授業科目の詳細は，次の表を参照してください。

なお，放送大学で修得した「事例から学ぶ日本国憲法」の単位も，教員免許取得に必要な単位とすることができます。詳細は基幹教育学務係で確認してください。

専門教育科目，教職関係科目で単位修得が必要な科目もありますが，要件等が所属や免許種別等によって異なるので，所属学類からの印刷物を熟読し，その指示に従ってください。





教育職員免許法施行規則に定める科目および単位数（平成29年度入学者から適用）

| 教育職員免許法施行規則に定める科目及び単位数 | | 左記に対応して開設されている共通教育科目及び単位数 | | 備　考 |
|---|---|---|---|---|
| 科　目 | 単位数 | 授業科目名 | 単位数 | |
| 日本国憲法 | 2 | 日本国憲法概説 | 2 | 必修 |
| 体　育 | 2 | エクササイズ＆スポーツ　実技 | 0.5 | ２単位以上選択必修 |
| | | エクササイズ＆スポーツ　実技 | 1 | |
| | | スポーツ科学／スポーツ生理学入門 | 1 | |
| | | スポーツ科学／メンタルトレーニングⅠ | 1 | |
| | | スポーツ科学／メンタルトレーニングⅡ | 1 | |
| | | スポーツ科学／スポーツの歴史（日本） | 1 | |
| | | スポーツ科学／スポーツの歴史（西洋） | 1 | |
| | | スポーツ科学／身体運動心理学Ⅰ | 1 | |
| | | スポーツ科学／身体運動心理学Ⅱ | 1 | |
| | | スポーツ科学／健康教育入門Ⅰ | 1 | |
| | | スポーツ科学／健康教育入門Ⅱ | 1 | |
| | | スポーツ科学／スポーツ健康科学入門Ⅰ | 1 | |
| | | スポーツ科学／スポーツ健康科学入門Ⅱ | 1 | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 外国語コミュニケーション | 2 | TOEIC準備Ⅰ | 1 | 2単位以上選択必修 |
| | | TOEIC準備Ⅱ | 1 | |
| | | TOEIC準備Ⅲ | 1 | |
| | | TOEIC準備Ⅳ | 1 | |
| | | English for Academic Purposes（EAP）Ⅰ | 1 | |
| | | English for Academic Purposes（EAP）Ⅱ | 1 | |
| | | English for Academic Purposes（EAP）Ⅲ | 1 | |
| | | English for Academic Purposes（EAP）Ⅳ | 1 | |
| | | ドイツ語Ａ１－１ | 1 | |
| | | ドイツ語Ａ１－２ | 1 | |
| | | ドイツ語Ａ２－１ | 1 | |
| | | ドイツ語Ａ２－２ | 1 | |
| | | ドイツ語Ａ３－１ | 1 | |
| | | ドイツ語Ａ３－２ | 1 | |
| | | ドイツ語Ａ４－１ | 1 | |
| | | ドイツ語Ａ４－２ | 1 | |
| | | ドイツ語B－１ | 1 | |
| | | ドイツ語B－２ | 1 | |
| | | ドイツ語C－１ | 1 | |
| | | ドイツ語C－２ | 1 | |
| | | フランス語Ａ１－１ | 1 | |
| | | フランス語Ａ１－２ | 1 | |
| | | フランス語Ａ２－１ | 1 | |
| | | フランス語Ａ２－２ | 1 | |
| | | フランス語Ａ３－１ | 1 | |
| | | フランス語Ａ３－２ | 1 | |
| | | フランス語Ａ４－１ | 1 | |
| | | フランス語Ａ４－２ | 1 | |
| | | フランス語B－１ | 1 | |
| | | フランス語B－２ | 1 | |
| | | フランス語C－１ | 1 | |
| | | フランス語C－２ | 1 | |
| | | ロシア語Ａ１－１ | 1 | |
| | | ロシア語Ａ１－２ | 1 | |
| | | ロシア語Ａ２－１ | 1 | |
| | | ロシア語Ａ２－２ | 1 | |
| | | ロシア語Ａ３－１ | 1 | |
| | | ロシア語Ａ３－２ | 1 | |
| | | ロシア語Ａ４－１ | 1 | |
| | | ロシア語Ａ４－２ | 1 | |
| | | ロシア語B－１ | 1 | |
| | | ロシア語B－２ | 1 | |
| | | ロシア語C－１ | 1 | |
| | | ロシア語C－２ | 1 | |
| | | 中国語Ａ１－１ | 1 | |
| | | 中国語Ａ１－２ | 1 | |
| | | 中国語Ａ２－１ | 1 | |
| | | 中国語Ａ２－２ | 1 | |
| | | 中国語Ａ３－１ | 1 | |
| | | 中国語Ａ３－２ | 1 | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 中国語Ａ４－１ | 1 | |
| | | 中国語Ａ４－２ | 1 | |
| | | 中国語B－１ | 1 | |
| | | 中国語B－２ | 1 | |
| | | 中国語C－１ | 1 | |
| | | 中国語C－２ | 1 | |
| | | 朝鮮語Ａ１－１ | 1 | |
| | | 朝鮮語Ａ１－２ | 1 | |
| | | 朝鮮語Ａ２－１ | 1 | |
| | | 朝鮮語Ａ２－２ | 1 | |
| | | 朝鮮語Ａ３－１ | 1 | |
| | | 朝鮮語Ａ３－２ | 1 | |
| | | 朝鮮語Ａ４－１ | 1 | |
| | | 朝鮮語Ａ４－２ | 1 | |
| | | 朝鮮語B－１ | 1 | |
| | | 朝鮮語B－２ | 1 | |
| | | 朝鮮語C－１ | 1 | |
| | | 朝鮮語C－２ | 1 | |
| 情報機器の操作 | 2 | 情報処理基礎 | 1 | 必修 |
| | | 情報の科学 | 1 | |

＊平成28年度以前入学者は，入学年度の『履修案内』に掲載された表に従います。

## 16. 社会教育主事および学校図書館司書教諭資格

社会教育主事は，都道府県および市町村の教育委員会の事務局に置かれる専門的職員で社会教育を行う者に対する専門的技術的な助言・指導に当たる役割を担います。

学校図書館司書教諭とは，小学校・中学校・高等学校の図書館で専門的職務に従事する教員のことをいい，すべての小中高の図書館に司書教諭の配置が義務づけられています。

現在金沢大学では，夏季休暇期間中に，地域連携推進センターで，これらの資格を取得するための講習会が開催されています。説明会等については，掲示等で明示しますので確認してください。

受講資格はともに，３年生以上で，62単位以上修得した者のみが対象となります。ただし，３年生以上であっても，大学在籍年数が２年未満の者は該当しません。詳しくは，地域連携推進センターのWebサイト及び『学生便覧』を参照してください。

地域連携推進センターのWebサイト　http://www.crc.kanazawa-u.ac.jp/

## 17. 成績評価（単位認定）

成績評価は，試験，出席状況，小テスト，レポート提出などにより判定されます。各授業科目がどのような成績評価をおこなうかは，シラバスに明記されています。

### (1) 試験の注意事項

成績評価の方法で最も多いのが試験です。試験を受ける際は，各担当教員の指示に従うほか，以下の事項に注意してください。

・**学生証を必ず携帯**してください。受験に際して学生証の提示を求められることがあります。
・試験開始後30分間は退室を認めません。また，20分以上の遅刻者は受験を認めません。
・出席日数が授業時間数の３分の２に達していない場合は，受験資格が認められません。
・**不正行為があった場合は，懲戒処分が科されたうえ，当該学期の全履修科目の単位がすべて無効となり**

ます。（レポートにおける剽窃・盗用も上記の不正行為に該当します。特にインターネットを利用してレポートを書く場合には，出所を明記せずにその記事などをコピーして自分の文章として提出すると，剽窃・盗用と見なされることがあるので，注意してください。）

・不正行為と紛らわしい行為があった場合には，当該試験を途中で中断させられて事情聴取を受けることがあります。これによる不利益は自己の責任であり，救済措置は講じられません。

・試験答案が返却された場合，後日それを回収する場合がありますので，答案を消して書き直すことは絶対にしないでください。元の答案を消した場合には，答案改竄という不正行為と見なされる場合があります。

・病気や突発事故などの理由により期末試験が受けられない場合，すみやかに基幹教育学務係に申し出てください。申し出の内容により，追試験などの救済措置を受けられる場合があります。申し出る際には，診断書や遅延証明書などの第三者が発行した証明書が必要です。

ただし，必ず救済措置を受けられるというものではありません。健康管理に十分気を付け，いつもより早めに試験室に到着するようにしてください。

○　申請期間　試験当日，又はその翌日に申し出てください。
やむを得ない場合に限り，標準学年暦の試験期間の間も受付けます（試験が試験期間最終日の場合はその翌日まで）。

○　救済措置が認められる場合がある事項

| 理　　由 | 必要な証明書類 |
|---|---|
| 病気，けが | 医師が作成した診断書（欠席がいつまで必要かが明記されていること。） |
| 電車，バスの遅延 | 交通機関が発行する遅延証明書 |
| 二親等以内の親族の葬儀出席（移動日は含まない。） | 会葬礼状等 |
| 災害 | 被災証明書 |

○　その他の注意

サークル活動（大会参加，合宿等），自家用車・バイク・タクシー等による通学時の交通渋滞，自動車の故障，アルバイト，自動車学校の修了試験，就職活動など個人的な都合によるものは認められません。また，教員からの指示の聞き漏らしや個人的な不注意は理由になりません。

中間試験などの試験もこれに準じますが，科目担当教員や基幹教育学務係に相談してください。

### (2) 単位保留制度

① 学修未達成の者に対し，担当教員が当該学期の成績を**「保留」**と評価することがあります。これを「単位保留制度」といいます。「保留」と評価された場合には，授業担当教員が課題等を指示し，その達成度によって次学期の期末に再度成績評価がおこなわれます。

② 単位保留制度が適用される授業科目は以下のとおりです。それぞれに保留のルール等の詳細が異なりますので，それぞれの説明を熟読してください。

- **「大学・社会生活論」，「初学者ゼミⅠ」，「情報処理基礎」，「地域概論」**（24ページ参照）
- **GS科目「３A プレゼン・ディベート論（初学者ゼミⅡ）」**（29ページ参照）（平成29年度のカリキュラム適用者のみ）
- **TOEIC準備コース**（34ページ参照）
- **基礎科目**（42ページ参照）

### (3) 成績の通知

① 成績通知表の交付

成績の通知は**「成績通知表」**を交付することでおこないます。通知時期・場所等は，掲示により案内

します。次学期の授業時間割表の交付や，変更事項の連絡も合わせておこないますので，全員必ず出席してください。

② 成績通知上の評語

・単位が認定される場合（合格）の成績は，通常**S・A・B・Cの4段階**の評語で評価されます。
・単位が認定されない場合（不合格）の成績評語には，**不可・保留・放棄**があります。
・一部の授業科目（導入科目など）では，上記とは別に**合・否**で成績評価をおこないます。
・入学前の既修得単位の認定や外部試験による単位認定，もしくは一部の海外短期留学をおこなう授業科目，および放送大学の授業科目などでは，**認定・不可**（既修得単位の認定や外部試験の単位認定には不可はない）という評語が使われます。ただし，外部試験であっても申請によりS又はAで認定する場合があります。

③ 注意事項

・保留と評価された場合には，授業担当教員から課される課題等をおこなって，次学期の期末に再度成績評価を受けますので，次学期の当初に必ず担当教員に連絡してその指示を受けてください。この場合は，**保留となった授業科目はその学期の開講科目ではありませんので，履修登録の必要はありません。**
・保留となった授業科目の再度の単位認定結果は，次回の成績通知の際に知らされます。学期途中に成績が通知されることはありません。
・成績通知表受領前に，教員に成績を尋ねてはいけません。
・**成績通知表は，次学期分の受領まで大切に保管してください。**

### (4) 成績評価にかかる疑義申し出について

成績通知表を見て，評価に不審な点がある場合は，該当の科目の担当教員に直接申し出てください。又は，基幹教育学務係が掲示する内容をよく読んで，指定された期間内に申請してください。

### (5) GPA制度

本学では，GPA制度（グレード・ポイント・アベレージ制度）を導入しています。これは，**成績評価を数値化したGP（グレード・ポイント）の平均値（GPA）**を算出して，学生指導や履修登録上限の緩和・進路決定（早期卒業・飛び入学・研究室配属等）などに反映させる制度です。制度の詳細は，学類によって異なりますので，各学類のシラバスや履修の手引きなどを参照してください。

GPの数値とGPAの計算方法は以下のとおりです。

**GP ：S＝4点，A＝3点，B＝2点，C＝1点，不可・保留・放棄＝0点**

**GPA：（4×Sの合計単位数＋3×Aの合計単位数＋2×Bの合計単位数＋1×Cの合計単位数）÷履修したGPA対象科目の総単位数**

なお，成績評価が合・否もしくは認定・不可で示される授業科目はGPAの対象になりません。このほかに，学類によってGPAの対象外となる授業科目が指定されていますので，各学類のシラバスや履修の手引きを参照してください。

## 18. 入学前の既修得単位の認定

本学入学前に大学・短大等で修得した単位は，入学直後の学期の所定の時期に審査を受けて認められた場合に限り，本学入学後の修得単位として認定されます。

この審査を受けたい者は，4月7日（金）までに基幹教育学務係に詳細を尋ねたうえ，4月14日（金）までに所定の申請書を所属学類の学務係に提出し，指示を受けてください。

## 19. 授業改善のための学生アンケート

クォーター末に「授業改善のための学生アンケート」を実施しています。詳細はアカンサスポータル等でお知らせします。

なお,「授業改善のための学生アンケート」の集計結果等は, 国際基幹教育院のWebサイトに掲載されます。

## 20.「いしかわシティカレッジ」の授業科目の履修

本学では，いしかわシティカレッジ事業に参加する他大学等との単位互換制度により，他大学等の授業科目を履修し修得した単位は，本学が定める条件下で卒業要件単位に算入することができます。（ただし，履修途中の休学，退学，卒業および除籍の場合は単位認定されません。）

**(1)** 履修できる授業科目

別冊子の時間割表及び『シティカレッジ受講生募集ガイド』（基幹教育学務係およびエントランスホールに置いてある）のとおりです。

**(2) いしかわシティカレッジ（しいのき迎賓館または石川四高記念文化交流館で開講）において履修する科目の単位数は，履修登録単位数の上限単位に含まれません。ただし，本学で履修する科目は，いしかわシティカレッジ科目であっても，上限単位に含まれますので，注意してください。**

**また，学年暦や授業開始終了時刻が本学と異なりますので，併せて注意してください。**

**(3)** 履修する学期が本学における卒業学期の場合は，本制度の修得単位は卒業単位に算入できません。

**(4)** 履修登録について

授業は原則，いしかわシティカレッジの講義室で行われます。（一部各大学等で実施。）授業開始第１週目に，授業に出席し，担当教員の許可を得たら，下記のとおり，履修手続きを取ります。ただし，本学で履修する科目は，通常の履修登録方法（17ページ参照）です。

本学の提供科目の場合

履修登録期間中にアカンサスポータルより履修登録，履修許可表の確認と訂正を行う。

他大学の提供科目の場合

**「シティカレッジ特別聴講学生出願票」**を基幹教育学務係に提出，履修登録期間中にインターネットから履修登録，履修許可表の確認と訂正を行う。

ｅラーニング授業の場合

ｅラーニング授業は，いしかわシティカレッジの学年暦における第１週もしくは第２週にガイダンスが開かれます。まずこれに出席して視聴方法等の説明を受けてから，履修登録期間中にインターネットから登録，履修許可表の確認と訂正を行ってください。（ガイダンスが履修登録可能期間外の場合は基幹教育学務係に申し出てください。）

他大学提供のｅラーニング授業の場合は，ガイダンス出席後に「シティカレッジ特別聴講学生出願票」を基幹教育学務係に提出してください。

ガイダンスに出席できなかった場合は，大学コンソーシアム石川事務局に行って説明を受け，指示に従って視聴のための手続きをしたうえで，履修登録期間中にアカンサスポータルより登録，履修許可表の確認と訂正を行ってください。

**(5)** 成績について

他大学の提供科目の場合，成績は認定・不可となり，GPA対象除外科目です。

**(6)** 学都いしかわグローカル人材育成プログラムについて

平成26年度より大学コンソーシアム石川が主催する「学都いしかわグローカル人材育成プログラム」があります。シティカレッジの授業科目と本学の通常の授業科目，正課外の教育プログラムを組み合わせて，

「課題解決型グローカル人材」に必要な能力（発見力・分析力・展開力・行動力・国際力）を無理なく養成するプログラムです。一定レベルに達するごとに修了証を出し，その能力を証明します。詳細は，当該プログラムのパンフレット及び大学コンソーシアム石川のホームページで確認してください。

## 21. 放送大学の授業科目の履修

本学では放送大学との単位互換協定により，本学学生が放送大学の特別聴講学生となり，指定した科目について修得した単位は，本学が定める条件下で卒業要件単位に算入することができます。

**(1)** 出願できる者

**本学に在学の学生（前期は新入生を除く）**

**ただし，履修学期途中に休学，退学，卒業および除籍の場合は，同時に特別聴講学生の身分を失い，単位認定されません。**

**(2)** 本制度による履修

放送大学の授業は，印刷教材（テキスト）と放送教材（DVDまたはCD）により行われます。8週目の放送教材の視聴が終わった段階で通信指導（レポート）を提出し合格した者は，15週分の視聴終了後に「放送大学石川学習センター」で単位認定試験を受験することになります。

特別聴講学生は，放送大学と本学から履修登録許可された科目について，基幹教育学務係でテレビ科目はDVDを，ラジオ科目はCDを借り，講義室等で視聴して学習することになります。放送教材の使用可能時間は，土曜日・日曜日および祝日を除く，9時から16時30分までです。

なお，放送大学石川学習センターに通学し，本学と同様の学習を行うことも可能です。（これを理由としての本学駐車許可証の申請は認めません。）放送大学石川学習センターでの再視聴・学習は，火曜日から日曜日の9時30分から17時45分まで利用でき，18時に閉館します。必ず事務室で説明を受けてください。月曜日及び祝日・年末年始は休館です。

**(3)** 履修できる単位数

本学学則の第55条（他の大学又は短期大学における授業科目の履修等），第56条（大学以外の教育施設等における学修），第57条（入学前の既修得単位等の認定）等で定める学修での修得単位数を合わせて60単位以下です。

**(4)** 履修できる授業科目および認定単位

別表（放送大学との単位互換協定に係る単位認定対象科目）のとおり。

**(5)** 履修期間

第1学期（前期）：4月～9月（6か月間）

第2学期（後期）：10月～3月（6か月間）

**(6)** 成績評価および単位認定

・放送大学の成績評価によって，C以上の評語の科目に対しては下表に従い本学が単位認定し，本学の成績通知表や成績証明書に記載します。

| 放送大学評語 | Ⓐ | A | B | C | D | E |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 金沢大学評語 | 認定 | | | | 不可 | |

・放送大学で履修した授業科目の成績評価がDまたはEの場合で，放送大学の再試験を利用し，合格した場合の当該授業科目の単位は認定しません。

・単位認定は，履修学期の末日付で本学が行うため，この日に本学での在学身分を有していなければなりません。

・履修する学期が本学における卒業学期の場合は，本制度の修得単位は，卒業単位に算入できません。

・本人への成績通知は本学からと放送大学からの両方行われますが，本学の成績通知表が正式のものとな

ります。また，本制度の修得単位は本学のものであり，放送大学は単位認定も証明書の発行も一切行いません。

**(7)** 入学料
特別聴講学生のため不要

**(8)** 授業料
１科目（２単位）当り　11,000円

**(9)** 出願手続についての掲示と受付
基幹教育学務係
１学期（前期）：前年度の12月頃
２学期（後期）：当該年度の６月頃

**(10)** その他の注意
- **必ず当該学期の本学履修登録期間（履修登録補正・訂正期間を含む）に本学の履修登録をして，履修許可表の確認も行わなければなりません。履修登録上限単位数には含まれません。放送大学の手続きが完了していても本学の履修許可表に記載がない場合は，単位認定しません。**
- 本学在学中に，個人的に放送大学の単位を修得しても，本学では単位認定しません。
- 放送大学からの連絡事項は，個人宅と大学に届くものの両方があるので，通常の履修と同様に，**常に掲示に注意**していてください。
- 詳細については，基幹教育学務係の窓口で照会してください。

（別表）　放送大学との単位互換協定に係る単位認定対象科目（平成29年度）
自由履修科目／総合科目・テーマ別科目・一般科目

| 放送大学での履修科目 | | | | 本学での単位認定科目 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 区　分 | | 授業科目名 | 履修単位 | 授業科目名 | 認定単位 | 区　分 | | | |
| | | | | | | 平成28年度以降入学者 | 平成27年度以前入学者 | | |
| | | | | | | | 大テーマ | 中テーマ | |
| コース科目 | 導入科目 | 人体の構造と機能（'12） | 2 | 人体の構造と機能 | 2 | 自由履修科目 | 自分を知る・他者を知る | 医療と健康 | 総合科目 |
| | 導入科目 | 生物環境の科学（'16） | 2 | 生物環境の科学 | 2 | | 自然に触れる・科学に触れる | 生活と科学 | |
| | 専門科目 | 認知神経科学（'12） | 2 | 認知神経科学 | 2 | | | 心の哲学と科学 | |
| | 導入科目 | 西洋哲学の起源（'16） | 2 | 西洋哲学の起源 | 2 | | 人間 | | 一般科目 |
| | 導入科目 | 心理学概論（'12） | 2 | 心理学概論 | 2 | | | | |
| | 専門科目 | フィールドワークと民族誌（'17） | 2 | フィールドワークと民族誌 | 2 | | | | |
| | 導入科目 | 社会学入門（'16） | 2 | 社会学入門 | 2 | | 社会 | | |
| | 導入科目 | 社会福祉への招待（'16） | 2 | 社会福祉への招待 | 2 | | | | |
| | 導入科目 | 貧困と社会（'15） | 2 | 貧困と社会 | 2 | | | | |
| | 専門科目 | 国際経営（'13） | 2 | 国際経営 | 2 | | | | |
| | 導入科目 | 事例から学ぶ日本国憲法（'13） | 2 | 日本国憲法 | 2 | | | | |
| | 導入科目 | 生活経済学（'16） | 2 | 生活経済学 | 2 | | | | |
| | 専門科目 | 宇宙とその進化（'15） | 2 | 宇宙とその進化 | 2 | | 自然 | | |

言語科目

【平成29年度入学者】

| 放送大学での履修科目 | | | 本学での単位認定科目 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 区分 | 授業科目名 | 履修単位 | 平成29年度入学者 | | |
| | | | 授業科目名 | 認定単位 | 区　分 |
| 基盤科目（外国語） | 英語の軌跡をたどる旅（'13） | 2 | EAP * | 1 | |
| | 英語で描いた日本（'15） | 2 | EAP * | 1 | |
| | ドイツ語Ⅰ（'15） | 2 | ドイツ語Ａ１−１ | 1 | A（初級） |
| | | | ドイツ語Ａ１−２ | 1 | |
| | ドイツ語Ⅱ（'15） | 2 | ドイツ語Ａ３−１ | 1 | |
| | | | ドイツ語Ａ３−２ | 1 | |
| | フランス語入門Ⅰ（'12） | 2 | フランス語Ａ１−１ | 1 | |
| | | | フランス語Ａ１−２ | 1 | |
| | フランス語入門Ⅱ（'12） | 2 | フランス語Ａ３−１ | 1 | |
| | | | フランス語Ａ３−２ | 1 | |
| | 中国語Ⅰ（'14） | 2 | 中国語Ａ１−１ | 1 | |
| | | | 中国語Ａ１−２ | 1 | |
| | 中国語Ⅱ（'14） | 2 | 中国語Ａ３−１ | 1 | |
| | | | 中国語Ａ３−２ | 1 | |
| | 韓国語Ⅰ（'16） | 2 | 朝鮮語Ａ１−１ | 1 | |
| | | | 朝鮮語Ａ１−２ | 1 | |
| | 韓国語Ⅱ（'16） | 2 | 朝鮮語Ａ２−１ | 1 | |
| | | | 朝鮮語Ａ２−２ | 1 | |
| | 初歩のスペイン語（'17） | 2 | スペイン語Ａ１−１ | 1 | |
| | | | スペイン語Ａ１−２ | 1 | |

＊授業科目名は，別途，掲示により通知します。

【平成28年度入学者】

| 放送大学での履修科目 | | | 本学での単位認定科目 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 区分 | 授業科目名 | 履修単位 | 平成28年度入学者 | | |
| | | | 授業科目名 | 認定単位 | 区　分 |
| 基盤科目（外国語） | 英語の軌跡をたどる旅（'13） | 2 | EAP * | 1 | |
| | 英語で描いた日本（'15） | 2 | EAP * | 1 | |
| | ドイツ語Ⅰ（'15） | 2 | ドイツ語Ａ１ | 2 | A（初級） |
| | ドイツ語Ⅱ（'15） | 2 | ドイツ語Ａ３ | 2 | |
| | フランス語入門Ⅰ（'12） | 2 | フランス語Ａ１ | 2 | |
| | フランス語入門Ⅱ（'12） | 2 | フランス語Ａ３ | 2 | |
| | 中国語Ⅰ（'14） | 2 | 中国語Ａ１ | 2 | |
| | 中国語Ⅱ（'14） | 2 | 中国語Ａ３ | 2 | |
| | 韓国語Ⅰ（'16） | 2 | 朝鮮語Ａ１ | 2 | |
| | 韓国語Ⅱ（'16） | 2 | 朝鮮語Ａ２ | 2 | |
| | 初歩のスペイン語（'17） | 2 | スペイン語Ａ１ | 2 | |

＊授業科目名は，別途，掲示により通知します。

【平成27年度以前入学者】

| 放送大学での履修科目 | | | 本学での単位認定科目 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 区分 | 授業科目名 | 履修単位 | 平成18年度～平成27年度入学者 | | | |
| | | | 授業科目名 | 認定単位 | 区　分 | |
| 基盤科目（外国語） | 英語の軌跡をたどる旅（'13） | 2 | 英語Ⅰ（リーディング） | 2 | 英Ⅰ | 言語科目 |
| | 英語で描いた日本（'15） | 2 | 英語Ⅰ（リーディング） | 2 | | |
| | 英語で読む科学（'15） | 2 | 英語Ⅱ（アカデミックスキル） | 2 | 英Ⅱ | |
| | Walking with Writers（'16） | 2 | 英語Ⅲ | 2 | 英Ⅲ | |
| | ドイツ語Ⅰ（'15） | 2 | ドイツ語Ａ１ | 2 | A（初級） | |
| | ドイツ語Ⅱ（'15） | 2 | ドイツ語Ａ３ | 2 | | |
| | フランス語入門Ⅰ（'12） | 2 | フランス語Ａ１ | 2 | | |
| | フランス語入門Ⅱ（'12） | 2 | フランス語Ａ３ | 2 | | |
| | 中国語Ⅰ（'14） | 2 | 中国語Ａ１ | 2 | | |
| | 中国語Ⅱ（'14） | 2 | 中国語Ａ３ | 2 | | |
| | 韓国語Ⅰ（'16） | 2 | 朝鮮語Ａ１ | 2 | | |
| | 韓国語Ⅱ（'16） | 2 | 朝鮮語Ａ２ | 2 | | |
| | 初歩のスペイン語（'17） | 2 | スペイン語Ａ１ | 2 | | |

## 22. アカンサスポータル

アカンサスポータルとは，学生個々人のさまざまな情報にアクセスするための入口となるwebページです。金沢大学では，全学生に金沢大学IDが与えられ，アカンサスポータルを利用できるようになっています。学務情報等の大学からの連絡や授業担当教員からの情報などはアカンサスポータルに送られてきますので，**１日１度はアカンサスポータルを見るように**してください。

アカンサスポータルの利用のために必要な金沢大学IDと仮パスワードは，**履修ガイダンスで配付され，情報処理基礎の授業でアカンサスポータルの使用法について指導しますので，**新入生は休まずにこの授業に出席して使い方をマスターしてください。

## 23. 金沢大学共通教育科目に関する規程

（趣旨）

第１条　この規程は，金沢大学における共通教育科目に関し必要な事項を定める。

（共通教育科目の区分）

第２条　共通教育科目として開講する授業科目（以下「授業科目」という。）の区分は，次のとおりとする。

導入科目

GS科目

GS言語科目

基礎科目

初習言語科目

自由履修科目

（授業科目，単位数及び履修要件）

第３条　授業科目及び単位数は，学年の始めに公示する。

２　共通教育科目の履修要件は，別表第１，別表第２及び別表第３のとおりとする。ただし，基礎科目及び初習言語科目の履修要件は，学域において別に定めるものとする。

（開放科目）
第４条　授業科目のうち，開放科目として別に指定する科目は，専門教育科目として履修することができる。
２　開放科目は，共通教育科目又は専門教育科目のいずれか一方としてのみ履修することができる。
（履修登録の制限）
第５条　各学期又は各クォーターにおいて履修登録できる上限単位数は，金沢大学履修規程（以下「履修規程」という。）第９条の定めるところによる。
２　前項の規定に関わらず，次の各号に掲げる授業科目は，履修登録の上限に算入しない。
⑴　集中講義として開講する授業科目
⑵　いしかわシティカレッジにおいて開講する授業科目
⑶　放送大学において開講する授業科目
（単位認定対象資格）
第６条　履修規程第11条第２号により，国際基幹教育院において定めることとされている出席すべき授業回数は，全授業回数の３分の２とする。ただし，実験，実習及び実技については，５分の４とする。
（成績の評価）
第７条　授業科目の成績の評価基準等は，履修規程第14条の定めるところによる。
２　成績評価のうち，「合」及び「認定」と評価する授業科目は，別に定める。
３　単位認定を保留とすることができる授業科目は，次のとおりとする。
導入科目
GS科目（プレゼン・ディベート論（初学者ゼミⅡ））
GS言語科目（TOEIC準備）
基礎科目
４　単位認定を保留とする基準及び保留後の成績評価については，別に定める。
（総合成績評価）
第８条　授業科目の総合成績評価は，履修規程第15条の定めるところによる。
２　GPAにおける保留及び再履修となる授業科目の取扱いについては，別に定める。
（成績評価の疑義申立て）
第９条　学生は，成績評価が成績評価基準に照らして不相当と考えるときは，履修規程第16条の定めるところにより，疑義を申立てることができる。
２　疑義申立てに係る取扱いについては，別に定める。
（雑則）
第10条　この規程に定めるもののほか必要な事項は，別に定める。



附　則
この規程は，平成16年４月１日から施行する。
附　則
この規程は，平成18年４月１日から施行し，平成18年度入学者から適用する。
附　則
この規程は，平成20年４月１日から施行し，平成20年度入学者から適用する。
附　則
この規程は，平成21年４月１日から施行し，平成21年度入学者から適用する。
附　則
この規程は，平成23年４月１日から施行する。
附　則
この規程は，平成28年４月１日から施行し，平成28年度入学者から適用する。
附　則
この規程は，平成28年６月７日から施行し，平成28年度入学者から適用する。

附　則

この規程は，平成29年４月１日から施行し，平成29年度入学者から適用する。

別表第１　単位修得要件

| 区分 | 修得すべき単位数 | | |
|---|---|---|---|
| 導入科目 | 大学・社会生活論　１単位<br>初学者ゼミⅠ　１単位<br>情報処理基礎　１単位<br>地域概論　１単位 | 27単位 | 30単位以上 |
| GS科目（５群） | 各群から３単位<br>計15単位 | | |
| GS言語科目 | 各コースから４単位<br>計８単位 | | |
| 自由履修科目 | すべての共通教育科目から３単位以上 | | |

別表第２　GS科目の授業科目及び履修方法

| １群　自己の立ち位置を知る（KUGS１） | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 科　目　名 | | 類 | 単位数 | 履修方法 |
| １A | 現代世界への歴史学的アプローチ | Ⅰ | 1 | Ⅰ類から１単位，Ⅱ類から１単位を含む３単位を修得 |
| １B | グローバル時代の政治経済学 | | 1 | |
| １C | グローバル時代の社会学 | | 1 | |
| １D | ケーススタディによる応用倫理学 | | 1 | |
| １E | 地球生物圏と人間 | Ⅱ | 1 | |
| １F | 物理の世界 | | 1 | |
| | 化学の世界 | | 1 | |
| 備考 | ※１F「物理の世界」及び「化学の世界」の２科目の単位を修得した場合，１単位はGS科目の修得すべき単位数に算入し，もう１単位は自由履修科目に算入する。 | | | |

| ２群　自己を知り，自己を鍛える（KUGS２） | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 科　目　名 | | 類 | 単位数 | 履修方法 |
| ２A | 哲学（自我論） | Ⅰ | 1 | Ⅰ類から１単位，Ⅱ類から１単位を含む３単位を修得 |
| ２B | パーソナリティ心理学 | | 1 | |
| ２C | グローバル時代の文学 | | 1 | |
| ２D | 健康科学 | Ⅱ | 1 | |
| ２E | 細胞・分子生物学 | | 1 | |
| ２F | エクササイズ＆スポーツ　実技 | | １又は0.5 | |
| 備考 | ※２F「エクササイズ＆スポーツ　実技」は，１単位までGS科目の修得すべき単位数に算入する。１単位を超える修得単位は，自由履修科目に算入する。 | | | |

| 3群　考え・価値観を表現する（KUGS３） | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 科　目　名 | | 類 | 単位数 | 履修方法 |
| 3A | プレゼン・ディベート論（初学者ゼミⅡ） | | 1 | 「プレゼン・ディベート論（初学者ゼミⅡ）」＜必修＞を含む３単位を修得 |
| 3B | クリティカル・シンキング | | 1 | |
| 3C | 価値と情動の認知科学 | | 1 | |
| 3D | 論理学から見る世界 | | 1 | |
| | 数学的発想法 | | 1 | |
| 3E | 芸術と自己表現 | | 1 | |
| 3F | スポーツ科学 | | 1 | |
| 備考 | ※３D「論理学から見る世界」及び「数学的発想法」の２科目の単位を修得した場合，１単位はGS科目の修得すべき単位数に算入し，もう１単位は自由履修科目に算入する。<br>※３F「スポーツ科学」は，１単位までGS科目の修得すべき単位数に算入する。１単位を超える修得単位は，自由履修科目に算入する。 | | | |

| 4群　世界とつながる（KUGS４） | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 科　目　名 | | 類 | 単位数 | 履修方法 |
| 4A | 金沢・能登と世界の地域文化 | | 1 | ３単位を修得 |
| 4B | 日本史・日本文化 | | 1 | |
| 4C | 異文化間コミュニケーション | | 1 | |
| 4D | 異文化体験 | | 1～8 | |
| 4E | 国際社会とボランティア | | 1 | |
| 4F | グローバル社会と地域の課題 | | 1 | |
| 備考 | ※４D「異文化体験」は，１単位までGS科目の修得すべき単位数に算入する。１単位を超える修得単位は，自由履修科目に算入する。 | | | |

| 5群　未来の課題に取り組む（KUGS ５） | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 科　目　名 | | 類 | 単位数 | 履修方法 |
| 5A | 科学技術と科学方法論 | Ⅰ | 1 | Ⅰ類から１単位，Ⅱ類から１単位を含む３単位を修得 |
| 5B | 統計学から未来を見る | | 1 | |
| 5C | 情報の科学 | | 1 | |
| 5D | 環境学とＥＳＤ | Ⅱ | 1 | |
| 5E | 生活と社会保障 | | 1 | |
| 5F | 人権・ジェンダー論 | | 1 | |

別表第３　GS言語科目の授業科目及び履修方

| 科　目　名 | | | 単位数 | 履修方法 |
|---|---|---|---|---|
| 英語 | 「TOEIC準備」コース | TOEIC準備Ⅰ | 1 | ４単位を修得 |
| | | TOEIC準備Ⅱ | 1 | |
| | | TOEIC準備Ⅲ | 1 | |
| | | TOEIC準備Ⅳ | 1 | |
| | | TOEIC準備（演習） | 1 | |
| | 「EAP」コース | English for Academic Purposes（EAP）Ⅰ | 1 | ４単位を修得 |
| | | English for Academic Purposes（EAP）Ⅱ | 1 | |
| | | English for Academic Purposes（EAP）Ⅲ | 1 | |
| | | English for Academic Purposes（EAP）Ⅳ | 1 | |
| | | EAP（Retake） | 1 | |
| 日本語 | | アカデミック基礎日本語Ａ | 1 | 日本語を母語としない者を対象とし，履修方法は，学類が定めるところによる。 |
| | | アカデミック基礎日本語Ｂ | 1 | |
| | | アカデミック・ライティングⅠＡ | 1 | |
| | | アカデミック・ライティングⅠＢ | 1 | |
| | | アカデミック・ライティングⅡＡ | 1 | |
| | | アカデミック・ライティングⅡＢ | 1 | |
| | | 講義の聴解Ａ | 1 | |
| | | 講義の聴解Ｂ | 1 | |
| | | 口頭発表Ⅰ Ａ | 1 | |
| | | 口頭発表Ⅰ Ｂ | 1 | |
| | | 口頭発表Ⅱ Ａ | 1 | |
| | | 口頭発表Ⅱ Ｂ | 1 | |
| | | 上級読解Ⅰ Ａ | 1 | |
| | | 上級読解Ⅰ Ｂ | 1 | |
| | | 上級読解Ⅱ Ａ | 1 | |
| | | 上級読解Ⅱ Ｂ | 1 | |
| | | 日本事情Ａ | 1 | |
| | | 日本事情Ｂ | 1 | |
| | | 日本語で学ぶ論理Ａ | 1 | |
| | | 日本語で学ぶ論理Ｂ | 1 | |

注　日本語を母語としない者（留学生）及び英語を母語とする者等の履修方法は，上表によらず学類が定めるところに基づき，入学年度の履修案内に示す。

## 24. 金沢大学＜グローバル＞スタンダード（KUGS）の解説

金沢大学＜グローバル＞スタンダード，すなわちKUGSは５つのスタンダードから構成されており，各スタンダードは相互に独立したものではあるが，過去から未来へ，外在性から内在性へ，また自己から他者へと緩やかに配列されている。

**スタンダード１．自己の立ち位置を知る：**

鋭い倫理感と科学的知見をもって，人類の歴史学的時間と地政学的空間の中に立つ自己の位置，自己の使命を主体的に把握する能力

スタンダード１が述べているのは，自分が置かれている状況をできるだけ正確にとらえることによって，自分が何をすべきかを自ら進んでつかみ取る能力のことである。ここで言う状況とは，巨視的な時間のスケールで言えば，今生きている現在から，生物としてのヒトが進化した地球の時間，そして，そ

れに先立つ宇宙の時間にまで拡がり，空間的なスケールで言えば，現在の地点から，地域コミュニティ，地方，都市，国家，国際社会，そして地球全体にまで広がっている。

このような状況の中心には，文化的，政治的，経済的なさまざまな問題が存在している。しかし，これらの問題を事実として正しく知ったとしても，そこからどのような行動を起こすべきかを導き出すには，何らかの倫理的判断が必要である。それは，人類がこれまでに培ってきた倫理的な態度や感性にもとづいている。例えば，個人的な自由や欲求を求めることと，正義や公平を社会に実現することとを両立させるには，人類社会の倫理的規範に従うことが必要である。したがってここでは，さまざまな角度から自己の立ち位置を知るとともに，倫理的な態度や感性を養うことが求められる。

スタンダード１は，学士レベルの理解度において，学生が自分の置かれている状況を正しくとらえ，将来の自分の行動を導き出すようになることを意味する。

**スタンダード２．自己を知り，自己を鍛える：**

自己を知り，その限界に挑戦し，知的冒険と心身の鍛錬を通して常に自己の人間力を磨き高めていく能力

スタンダード２が述べているのは，まず自己の限界を知ることによって自己を知る能力，つまり心と身体の両面における自己のアイデンティティを知る能力のことである。しかし，この能力は直ちに，自己の限界を乗り越えるための人間力を常に高めていくことも要請する。自己が何であるかは，自己の内面をただ見つめるだけでは知ることはできない。スタンダード１で言う「状況」を含めて，自分の具体的なあり方を通してしか，自己が何であるかはとらえられない。

自己の具体的な姿は自らの限界をも示す。多様な知的・身体的能力がそれぞれに限界づけられた結果として出現する「形」が，その人の個性（アイデンティティ）であるとも言えよう。したがって，自己を知ることは自分の限界を知ることに他ならず，それゆえここから，「自分の限界内に留まり，現状に安住しようとする」者と「自分の限界に挑戦し，自分を高めていこうとする」者の違いが出てくる。

スタンダード２は，各人各様の状態に応じて「常に自己を高みへと引き上げていこう」とする人間力を，学士レベルの到達度において学生が培っていくことを意味する。

**スタンダード３．考え・価値観を表現する：**

論理的構成力や言語表現力を駆使して概念やアイデアを明確に表現し，かつ自己の感性や価値観を的確に他者に伝える能力

スタンダード３が述べているのは，言葉や図表によって思考やアイデアなどの自分の考えを明確にする能力と，さらにそのような思考や表現行為の背後にある自分の感性や感情，価値観，ものの見方などを他者に的確に伝える能力のことである。

思考やアイデアは，たんに頭に思い浮かべているだけでは明確ではない。日本語や英語などの特定の文法に従って思考やアイデアを言葉にし，さらにそれを論理的に組み立てることで，はじめて明晰な説明や論証になる。さらに，説明や論証は，それを行う人の感性や価値観という，より広い文脈においてのみ，正確に理解される。そもそも思考やアイデアを表現することは，自己の奥にある感性や価値観を何とかして他者に伝えようとすることに他ならないからである。

スタンダード３は，学士レベルの技能程度において，学生が自分の考えを明確に表現し，その考えの背後にある感情やものの見方を他者に的確に伝えるようになることを意味する。

**スタンダード４．世界とつながる：**

他者への深い共感に基づいて異文化と共生し，各人にとっての自国と郷土への自覚と誇りをもって，世界と積極的につながっていく能力

スタンダード４が述べているのは，他者と共生する能力のことである。同じ文化に属するものどうしでさえ，他人は考えや，感じ方，行動パターンの点で自分とは異なり，その意味で理解しがたい存在である。これまで多くの共同体や社会は，他者を慣習や法制度によってできるだけ均一的な存在へと同化しようとしてきた。しかし，いまや求められるのは同化ではなく，歴史的にも文化的にも自分たちとは大きく異なる「多様な他者たち」との共存・共生である。

他者との実り豊かな共生のためには，自分たちの国の歴史や文化はもちろん，自らを育んできた郷土に対する知識と自覚が必要である。他者との実際の共生は，普遍的なコスモポリタン同士の関係ではありえない。世界の中における自分たちの「特殊性」を自覚することこそ，「他者の異質性」と共に生きるための前提となる。

しかしまた，他者との「共生の作法」を身につけることは，たんなる心構えの問題ではない。国際関係に対する理解や，個人と国家・民族・宗教などとの入り組んだ関係に対する認識も必要となる。法の下での平等，性別や障害や人種などから生ずるあらゆる偏見・差別の撤廃，いかなる個人にも保障されるべき人権，様々な形態での移民の受け入れや難民に対する保護など，互いの存在の根源性を受け入れながら他者とつながるためには，どの国も今後，数多くのハードルを超えていかなければならない。

スタンダード４は，自分たちの文化を自覚し，他者との文化的差異を率直に認めながら，徹底して寛容な態度で積極的に「他者の異質性」と交わっていこうとする意欲を，学士レベルの到達度において，学生がもつようになることを意味する。

**スタンダード５．未来の課題に取り組む：**

科学技術の動向，自然環境変動，持続可能性などの多角的視座から，地球と人類，国際社会と日本の未来を総合的に予測し，未来の課題に取り組んでいく能力

スタンダード５が述べているのは，現在から未来にいたる状況認識に基づいて，未来の課題に積極的に取り組んでいく能力のことである。現在の世界では，地球温暖化による自然環境の激変やボーダレスな新型感染症の発生など，地球規模でしか解決しえない課題が深刻さを増している。その一方で，国際社会においては，アジアやアフリカ諸国の相対的な比重の高まりや新興国の台頭など，これまでのヨーロッパやアメリカを中心とした世界秩序が変容しつつある。また日本においても，急激な少子高齢化や経済競争力の低下など，10年先の姿を見通すことさえ困難になっている。

しかし，このように予測困難な時代であるからこそ，科学の叡智を結集して，大災害や貧困層の拡大，軍事的衝突や経済的危機を回避しなければならない。そのためには，客観的な現状分析から未来を予測しようとする諸科学の方法論と成果を身につけなければならない。もちろん，未来予測は容易ではない。しかし，困難がたとえ大きくとも，最新の技術と発想をもって人類が取り組むべき重要な課題なのである。

スタンダード５は，学士レベルの理解度において学生が，地球と人類の未来像をできるだけ総合的に描き，それをもとに未来の課題に進んで取り組むことを意味する。

## 25. GS科目の説明

### (1)「自己の立ち位置を知る」

① 1A 現代世界への歴史学的アプローチ

現代世界で発生しているさまざまな問題の多くは，そこに至る歴史的な経緯が大きく関係しており，それを正しく把握できなければ，問題も正しく理解できない。したがって，現代世界の理解のためには，世界史の基本的な知識と歴史学的な発想法・分析視角の獲得が必須である。本授業では前提となる知識

を再確認しつつ，歴史学的発想法・分析視角を学ぶ。これを通して学生は，自己の置かれた状況を正しく認識し，現代世界を読み解く手段の一つを得ることができるようになる。

② 1B グローバル時代の政治経済学

グローバル化が不可避的に進行する現代社会において，政治や経済の仕組みも大きく変容しつつある。そうしたなかにあって，学生は具体的な紛争や貧困などの事例に則しながら，いかにして人類の平和や福利を増進していけばいいのかを自ら深く考えるようになる。

③ 1C グローバル時代の社会学

グローバル化が不可避的に進行する現代社会において，家族，地域社会，学校，職場など，人びとを取りまく社会の仕組みも大きく変容しつつある。そうしたなかにあって，学生は，たとえば国際的な人びとの移動性の高まりが社会に及ぼす影響を具体的事例に則しながら考察し，グローバル化する社会の中で協同しつつ生きていくことの意味を理解できるようになる。

④ 1D ケーススタディによる応用倫理学

国家間の対立と市民の基本的権利，宗教的対立と信仰の自由，人口爆発と生む権利など，現代社会の具体的場面で倫理と規範を考察する。覚えるべき解答があらかじめ存在しているわけではない。「何が根拠となりうるのか」までも問いながら，学生は，道徳的規範とは何かに関する初歩的な理解を得ることができるようになる。

⑤ 1E 地球生物圏と人間

地球はその内部，表層から気圏に至るまで常に動的であり，私たちを含む生物は，その変動する地球の上に暮らしている。学生は，本授業を通して，地球の一員としてのヒトの立ち位置を理解するのに必要な，地球・生物の成り立ちや生物と地球環境との関わりについての知識を得るようになる。

⑥ 1F 物理の世界／化学の世界 ※1

【物理の世界】

自然は私たちを取り巻いて厳に存在しており，その自然界の背後には普遍的な物理法則が存在している。学生は，典型的な物理現象の理解を通して，見かけの相違にとらわれることなく法則の普遍性を捉え，物事の本質を見抜く科学的思考ができるようになる。

【化学の世界】

物質の構成要素となる元素を対象とした化学の世界は，その構造，性質及び反応を究明することで目覚ましい進歩を遂げてきた。では，人類の物質に関する理解はどの様に進歩して，現代化学における物質観につながってきたのか。学生は，化学の世界に関するこうした理解を通して，多種多様な世界観が存在する現代において，客観的かつ科学的な視点で物事を捉えることができるようになる。

※1 「物理の世界／化学の世界」も他の科目と同様1単位科目であるが，「物理の世界」のクラスと「化学の世界」のクラスに分かれており，両方のクラスを受講することはできるが，GS科目としては，1単位しか認定されない。

### (2)「自己を知り，自己を鍛える」

① 2A 哲学（自我論）

自己とは何であろうか？自己とは自分を意識する自己意識のことだろうか？どの＜私＞も持っている＜自己＞は，すべてみな同じなのか？＜自己＞がみな同じなら，私と他者の本質的違いはどこにあるのか？

こうした問いを経て，学生は，＜自己＞の形而上学的，存在論的，認識論的な問いの意味を理解できるようになる。

② 2B パーソナリティ心理学

われわれの自己は，心理学的および社会学的な存在である。そこにおいてわれわれは，自己および他者を，それぞれ特定の「性格」を有するものとして認識する。

学生は，「性格」の捉え方として現代の心理学が提唱する＜類型論＞や＜特性論＞に触れることを通して，自己という存在の多様性を認識するようになる。

③　2C グローバル時代の文学

グローバル時代においては，様々な文学体験をすることで，自己を知り，自己を鍛えることが可能となる。学生は，現代の世界文学を通して，世界の様々な人々の心と未来の人類のあり方を理解し，自己変革へと向かうことができるようになる。

④　2D 健康科学

われわれを取り巻く環境，生活習慣は健康にとって危険な要素を含んでいる。健康に生活するためには，これらの危険な要素と対処法を知らねばならない。学生は，健康とその増進のために必要な個人としての取り組みだけでなく，社会全体としての取り組みの重要性についても理解するようになる。

⑤　2E 細胞・分子生物学

私たち人間は細胞からできている。その細胞内に存在するタンパク質や核酸などの分子レベルの振る舞いを理解することによって，学生は，それらの分子による細胞の制御メカニズムや細胞の様々な営みについて，基礎的な理解を得るようになる。

⑥　2F エクササイズ＆スポーツ　実技

心身の鍛錬は自律の基本である。学生は，身体形成の必要性を知り，体力づくりや運動技能習得のための原理・原則を理解し実践することによって，自己を知り自己を鍛えるための能力を高めることができる。

**(3)「考え・価値観を表現する」**

①　3A プレゼン・ディベート論（初学者ゼミⅡ）＜必修＞

本授業では，初学者ゼミⅠの内容を踏まえ，そこでの調査・研究を継続するとともに，成果をいかに効果的に発表し議論するか，という視点を導入して演習を行う。学生は，この作業を通して，発表・討論に必要な技術・能力を習得することが出来るようになる。

②　3B クリティカル・シンキング

日本語は，他の言語と同様に，もちろん十分に論理的である。しかし，その論理性は日本語という文法構造によって具体化されているため，＜日本語を用いて＞論理的な表現を行うためには，英語やスワヒリ語とは別の規則を知らなければならない。これらの規則は，クリティカル・シンキングという考え方の基本と，日本語文法の間に存在する。学生は，これらの３つのレベルでの文章評価・文章構成の訓練を通して，論理的な＜思考・表現＞の能力を高めることができる。

③　3C 価値と情動の認知科学

行動や表現を引き起こすのは，最終的には理性というより，行為者の価値観や態度や情動である。しかもそれらは，往々にして非合理的な要素を多く含み，しかも行為者当人からは隠されている。自己の行動や表現を適切にコントロールし，他者の行動や表現を適切に理解するためには，価値や情動に関する＜認知・行動＞の仕組みに関する理解が必要となる。学生は，最新の認知科学的な知見から，その理解の端緒を得ることができる。

④　3D 論理学から見る世界／数学的発想法　※２

【論理学から見る世界】

学士課程レベルにおいて最も有効にして必要な論理学として，標準的な古典論理のうち，命題論理と第１階の述語論理（量化論理）までを，学生は習得する。それを通して，学生は，妥当な推論とは何か，その妥当性の由来は何か，といった理論的な理解のみならず，妥当な推論を構成し，かつ推論の妥当性をチェックできるようになる。

【数学的発想法】

数学は多くの学問分野において，その法則を適切に表現するための言葉として用いられ，文系，理系を問わず必要なリテラシーとされている。学生は，数学の基本的技法に加えて応用的方法を学ぶことによって，数学の思考方法を習得し，根拠の確かな判断能力や生活の中で数学を活用する能力を身に付けることができるようになる。

※２　「３D 論理学から見る世界／数学的発想法」の科目も他の科目と同様１単位科目であるが，「論

理学から見る世界」のクラスと「数学的発想法」のクラスに分かれており，両方のクラスを受講することはできるが，GS科目としては，１単位しか認定されない。

⑤　３E 芸術と自己表現

人間の最も根源的で洗練された自己表現は，絵画，音楽，演劇，舞踏などの芸術であろう。それらは人間の諸能力のシンプルな表出であると同時に，人間存在の繊細で奥深い次元に根ざすものである。芸術においては，鑑賞するにせよ創作するにせよ，自己と表現との愚直な関係が求められるがゆえに，学生は，様々な芸術の実際を体験することによって，自己表現の真摯なあり方を知るようになる。

⑥　３F スポーツ科学

本授業では，保健体育の意義や，身体の理（ことわり）と自然・生活様式などとの関係についての理解を深める。学生は，これらの活動を通して，コミュニケーション能力を高めることができるようになる。

### (4)「世界とつながる」

①　４A 金沢・能登と世界の地域文化

グローバル化は国家の枠組を超えてローカルな枠組と結びつきやすく，また現実の国際化は国家総体よりも個々の地域の枠組のなかで進行する。グローバル化に対応するためには，地域とその文化に対する正確な理解は欠かせない。本授業では，私たちの住む金沢・能登の文化を事例にその豊かさと変容を学ぶとともに，金沢・能登と関係する世界各地の地域文化についても調査する。学生は，自らの暮らす地域の文化とその世界との結びつきに対する理解を深め，その内容を情報発信するとともに，それらを相対化する視点を得ることができるようになる。

②　４B 日本史・日本文化

現代社会では，人は必ず国家に帰属することが求められ，海外に出ればその帰属した国家を代表する存在として見られがちである。一方，国家の歴史や文化についての一般的言説には誤謬が含まれているものもあり，時としてそれは誤解・トラブルの原因となる。本授業では，最先端の学問的成果に基いて日本史・日本文化を学ぶ。日本人学生は自らの帰属する国家をより深く理解し，その内容を正しく情報発信できるようになり，外国人学生は自分たちが留学している国についてより正確に理解できるようになる。

③　４C 異文化間コミュニケーション

グローバル化した社会では，自らの育った地域の歴史，文化を知り，その特徴を自覚した上で，自らの特殊性を認め，さらに，自らと異なる国家体制，民族，宗教への理解を深めることが重要である。学生は，偏見・差別をなくし文化的差異を認めることの必要性を認識することによって，他者への深い共感に基づいて異文化を受け入れ，異質な他者と共生する能力を身につけられるようになる。

④　４D 異文化体験

異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには，事前・事後指導や，体験後の発表等も必要である。学生は，本授業において，海外語学研修，海外ボランティア，海外インターンシップ等，異文化環境での短期の生活を体験し，外国語による国際コミュニケーション能力を身につけることができる。

（本授業は，「人間力強化プログラム」（海外体験）と連携した科目である。また，現カリキュラムの海外異文化体験学習の後継科目でもある。）



⑤　４E 国際社会とボランティア

ボーダーレス化が進む国際社会では，ボランティアのネットワークも国境を越えて広がる。学生は，日本を含む世界の各地でどのようなボランティアのニーズがあるのか，国際社会・地域社会における共生のためにボランティアに何ができるのか等を，実践例に基づきながら理解することができるようになる。

⑥　４F グローバル社会と地域の課題

学生はいま学生として，あるいは将来地域社会を担っていく者として，グローバルな視野に立ちつつ，地域の様々な課題に取り組んでいかなければならない。そこで求められるのは地域の課題を的確に見抜く力であり，他者と協力しながらそれに取り組む力である。学生は，事前指導・実践・事後指導を通し

て，地域の課題を捉え，他者と協調していく能力を身に付けることができる。（本授業は「人間力強化プログラム」（地域体験）と連携した科目である。）

### (5)「未来の課題に取り組む」

① 5A 科学技術と科学方法論

人類の未来は，希望も絶望も，科学技術がそのカギを握っている。したがって，科学という「世界の捉え方」，技術という「ものの作り方・使い方」を知らずしては，人類の課題も解決も見えてこない。学生は，科学や技術がどういう歴史を辿って知識の中心となったのか，また科学の方法論はいかなる特徴をもつのか等を学ぶことによって，科学技術が開く未来の姿を，一定の限界内において，理解できるようになる。

② 5B 統計学から未来を見る

世界の人口問題とそれに伴う食料や資源，エネルギーの問題，また国内における少子高齢化とそれに伴う医療福祉・教育・労働・経済・産業に関する問題など，私たちを取り巻く現状を数値化して分析し，それに基づいて未来を予測するために，統計学はすべての学問分野において必要とされている。学生は，初等統計の基礎を様々な実例を通して学ぶことによって，統計学的視点からの問題把握ができるようになる。

③ 5C 情報の科学

世の中には多くの情報が溢れている。現状を理解し，今後の展望を見極めるためには，情報に踊らされることなく，正しい情報を見極めて，それを収集し発信していくことが必要である。学生は，情報とは何か，情報収集・発信の有効性と危険性，情報のモラル，セキュリティなどを学ぶことによって，情報を制御するために不可欠の知識と能力を習得することができるようになる。

④ 5D 環境学とESD

環境問題は，一般に，自然科学的側面と社会科学的側面にまたがって生ずる。学生は，その両方を視野に入れながら，わが国における公害問題の発生と克服，環境政策の展開について学ぶとともに，近年の地球環境の危機とグローバル・コミュニティの対応，今後取り組むべき対策などを理解することによって，個人や地域や社会のそれぞれレベルにおいて，持続可能社会に向けた環境への取り組みを行うことができるようになる。

⑤ 5E 生活と社会保障

日本を含む世界の少なからぬ国々は今，人口減少，人口分布の地域的偏在，及び高齢化という局面を迎えながら，社会保障の一層の拡充という困難な課題に直面している。学生は，世界・日本・地方という複眼的な視点からこの課題を捉え，初歩的なレベルにおいてではあるが，有効な解決策に向けた議論を展開できるようになる。

⑥ 5F 人権・ジェンダー論

未来を平和で豊かな持続可能な社会にしていくうえで，人権の思想とジェンダー学の視点は不可欠とされるが，現実の国際社会・日本社会は未だその理想からは遠い状況にある。本授業では，人権・ジェンダーについての基本的な知識を踏まえつつ，これらの視点から現代社会の問題を分析・考察する。学生は，その理解を通して，未来を構築するうえで必要な視点と問題意識を得ることができるようになる。

# Ⅱ 時 間 帯 表

# 共通教育科目の時間帯表

平成29年度１年第１クォーター　　（　　は，専門教育科目の開講予定時間帯です）

| 曜日 | 時限 | 人間社会学域 | | | | | | 理工学域 | | | | | | 医薬保健学域 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 人文 | 法 | 国際 | 経済 | 学校教育 | 地域創造 | 数物科学 | 物質化学 | 自然システム | 機械工学 | 電子情報 | 環境デザイン | 医 | 薬・創薬 | 保健 |
| 月 | 1 | | | | | | | 大社論 | 大社論 | 大社論 | 大社論 | 地域概論 | 地域概論 | 化学I | | 大社論 |
| | 2 | 大社論 | 大社論 | 大社論 | 地域概論 | 地域概論 | 大社論 | 化学I* | 化学I | 化学I | | 物理学I | 化学I | 微積第一 | 大社論 | 物理学I# |
| | 3 | EAP | | | | 情報 | 情報 | 線形代数一 | 線形代数一 | 線形代数一 | 化学I* | | | | | 微積第一# |
| | 4 | | | | | | | | | | 情報 | | | EAP | | |
| | 5 | | | | | 初習(仏中)A* | | 初習(独仏中)A* | | | 初習(独仏中)A* | | | 初習(独仏中)A* | | |
| 火 | 1 | TOEIC準備 | | | | | | | | | | 情報 | | 情報(後半) | 初ゼミI | |
| | 2 | 初習(仏中)A | 初習A | 初習(仏中)A | EAP | | | | | 初ゼミI | | 初ゼミI<br>初ゼミII | 初ゼミI | 大社論 | | |
| | 3 | 初習(独)A | | 初習(独)A | 初習(中)A | | | 初ゼミI | | | EAP | | | | | |
| | 4 | | | | 情報 | | | EAP | | | | | | 地域概論 | | |
| | 5 | 初ゼミI | | 初ゼミI | | | | 情報 | 初ゼミI | | 初ゼミI | | | | | |
| 水 | 1 | | | | | | | | | | TOEIC準備 | | | | | |
| | 2 | 情報 | | | 初ゼミI | | | TOEIC準備 | | | 微積第一 | 微積第一<br>線形代数一 | 微積第一 | | | |
| | 3 | | 初ゼミI | 情報 | 初習A | 初習(独)A* | 初習A | | | 情報 | | | | 線形代数一 | | 初ゼミI |
| | 4 | | 情報 | | EAP | | | 地学I* | | 地学I | 地学I* | | | 物理学I | | 地域概論 |
| | 5 | | | | | 初ゼミI | 初ゼミI | | | | | | | | | 情報 |
| 木 | 1 | 地域概論 | 地域概論 | | TOEIC準備 | | | 微積第一 | 微積第一 | 微積第一 | 物理学I | 化学I* | 物理学I | | 微積第一 | 線形代数一# |
| | 2 | EAP | | | | | | 物理学I | 物理学I | 物理学I | 線形代数一 | 線形代数一<br>微積第一 | 線形代数一 | | | 化学I# |
| | 3 | 初習A | | | | 大社論 | | | 地域概論 | | | 大社論 | 大社論 | EAP | | |
| | 4 | | | | 初習(仏)A | 初習(仏中)A* | 初習(仏中)A | 初習(独仏中)A* | | | 初習(独仏中)A* | | | 初習(独仏中)A* | | |
| | 5 | | | | | | | | 情報 | | | | | 情報(前半) | 情報 | |
| 金 | 1 | | | | | | | | | | | | | TOEIC準備 | | |
| | 2 | | | | 大社論 | | | EAP | | | | | | | | |
| | 3 | | | | 初習(独)A | 初習(独)A* | 初習(独)A | | | | EAP | | | (移動)※ | | |
| | 4 | | | | | | | | | | 地域概論 | | | | | |
| | 5 | | 初ゼミI | | | | | | | | | | 情報 | | | |

※専門教育科目の開講予定時間帯であっても，その時間帯に専門教育科目が開講されていない場合は，共通教育科目を履修できます。　　*：選択科目　#：専攻により異なる(保健学類)
※医(移動) …角間・宝町キャンパス間の移動時間

平成29年度１年第２クォーター　　（　　は，専門教育科目の開講予定時間帯です）

| 曜日 | 時限 | 人間社会学域 | | | | | | 理工学域 | | | | | | 医薬保健学域 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 人文 | 法 | 国際 | 経済 | 学校教育 | 地域創造 | 数物科学 | 物質化学 | 自然システム | 機械工学 | 電子情報 | 環境デザイン | 医 | 薬・創薬 | 保健 |
| 月 | 1 | | | | | | | 地域概論 | | 地域概論 | | | | 化学I | 地域概論 | |
| | 2 | | | 地域概論 | | | 地域概論 | 化学I* | 化学I | 化学I | | 物理学I | 化学I | 微積第一 | | 物理学I# |
| | 3 | | | | | | | 線形代数一 | 線形代数一 | 線形代数一 | 化学I* | | | | | 微積第一# |
| | 4 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 5 | | | | | 初習(仏中)A* | | 初習(独仏中)A* | | | 初習(独仏中)A* | | | 初習(独仏中)A* | | |
| 火 | 1 | TOEIC準備 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | 初習(仏中)A | 初習A | 初習(仏中)A | | | | | | 初ゼミII | | 初ゼミI<br>初ゼミII | 初ゼミII | | | |
| | 3 | 初習(独)A | | 初習(独)A | 初習(中)A | | | 初ゼミII | | | | | | | | |
| | 4 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 5 | 初ゼミII | | | | | | | 初ゼミII | | 初ゼミII | | | | | |
| 水 | 1 | | | | | | | | | | TOEIC準備 | | | | | |
| | 2 | | | | 初ゼミII | | | TOEIC準備 | | | 微積第一 | 微積第一<br>線形代数一 | 微分積第一 | | | |
| | 3 | | 初ゼミII | | 初習A | 初習(独)A* | 初習A | | | | | | | 線形代数一 | | |
| | 4 | | | | | | | 地学I* | | 地学I | 地学I* | | | 物理学I | | |
| | 5 | | | | | | 初ゼミII | | | | | | | | | 初ゼミII |
| 木 | 1 | | | | TOEIC準備 | | | 微積第一 | 微積第一 | 微積第一 | 物理学I | 化学I* | 物理学I | | 微積第一 | 線形代数一# |
| | 2 | | | | | | | 物理学I | 物理学I | 物理学I | 線形代数一 | 線形代数一<br>微積第一 | 線形代数一 | | | 化学I# |
| | 3 | 初習A | | | | | | | | | | | | | | |
| | 4 | | | | 初習(仏)A | 初習(仏中)A* | 初習(仏中)A | 初習(独仏中)A* | | | 初習(独仏中)A* | | | 初習(独仏中)A* | | |
| | 5 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 金 | 1 | | | | | | | | | | | | | TOEIC準備 | | |
| | 2 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 3 | | | | 初習(独)A | 初習(独)A* | 初習(独)A | | | | | | | (移動)※ | | |
| | 4 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 5 | | 初ゼミII | | | | | | | | | | | | | |

※専門教育科目の開講予定時間帯であっても，その時間帯に専門教育科目が開講されていない場合は，共通教育科目を履修できます。　　*：選択科目　#：専攻により異なる(保健学類)
※医(移動) …角間・宝町キャンパス間の移動時間

# 共通教育科目の時間帯表

平成29年度１年第３クォーター

（　　は，専門教育科目の開講予定時間帯です）

| 曜日 | 時限 | 人間社会学域 | | | | | | 理工学域 | | | | | | 医薬保健学域 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 人文 | 法 | 国際 | 経済 | 学校教育 | 地域創造 | 数物科学 | 物質化学 | 自然システム | 機械工学 | 電子情報 | 環境デザイン | 医 | 薬・創薬 | 保健 |
| 月 | 1 | | | | | 初習(仏中)A* | | 初習(独仏中)A* | | | 初習(独仏中)A* | | | 初習(独仏中)A* | | |
| | 2 | | | | | | | 化学Ⅱ* | 化学Ⅱ | 化学Ⅱ* | 化学Ⅱ* | 物理学Ⅱ | 化学Ⅱ* | 化学Ⅱ | | 物理学Ⅱ# |
| | 3 | | | | | | | 線形代数二 | 線形代数二(選択必修) | 線形代数二* | | | 物理学実験 | | | 物理学実験*<br>化学実験*<br>(看護) |
| | 4 | | | | EAP | | | | | | 微積第二 | | | (移動)※ | | |
| | 5 | | | | | | | | | | | | | 初ゼミⅠ | | |
| 火 | 1 | TOEIC準備 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | 初習(仏中)A | 初習A | 初習(仏中)A | | | | | | | | | | | | |
| | 3 | 初習(独)A | | 初習(独)A | 初習(中)A | | | | | | | | | (移動)※ | | |
| | 4 | | | | | | | | | | | | | 初ゼミⅡ | | |
| | 5 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 水 | 1 | | | | | | | | | | TOEIC準備 | | | | | |
| | 2 | | | | | | | TOEIC準備 | | | | | | | | |
| | 3 | | | | 初習A | 初習(独)A* | 初習A | | | | | 微積第二<br>線形代数二 | 微積第二 | 統計数学 | | |
| | 4 | | | | | | | 地学Ⅱ* | | | 地学Ⅱ* | | | 物理学Ⅱ | | 統計数学# |
| | 5 | | | | | 初習(仏中)A* | | | | | 初習(独仏中)A* | | | 初習(独仏中)A* | | |
| | | | | | | | | 初習(独仏中)A* | | | | | | | | |
| 木 | 1 | | | | TOEIC準備 | | | 微積第二 | 微積第二(選択必修) | 微積第二* | 物理学Ⅱ | 化学Ⅱ*<br>線形代数二 | 物理学Ⅱ* | | 統計数学 | 化学Ⅱ# |
| | 2 | EAP | | | | | | 物理学Ⅱ | 物理学Ⅱ | | 線形代数二 | 微積第二 | 線形代数二 | | | |
| | 3 | 初習A | | | | 初ゼミⅡ | | 化学実験* | | 化学実験(選択必修) | | | | EAP | | |
| | 4 | | | | 初習(仏)A | | 初習(仏中)A | | | | | | | | | |
| | 5 | | | | | | | | | | | | | 初ゼミⅡ | | |
| 金 | 1 | | | | | | | | | | | | | TOEIC準備 | | |
| | 2 | | | | | | | EAP | | | | | | | | |
| | 3 | | | | 初習(独)A | | 初習(独)A | 化学実験* | 化学実験 | 物理学実験(選択必修) | EAP | | | 物理学実験*化学実験* | | |
| | 4 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 5 | | | | | | | | | | | | | | | |

※専門教育科目の開講予定時間帯であっても，その時間帯に専門教育科目が開講されていない場合は，共通教育科目を履修できます。

*：選択科目　#：専攻により異なる(保健学類)

※医(移動)…角間・宝町キャンパス間の移動時間

平成29年度１年第４クォーター

（　　は，専門教育科目の開講予定時間帯です）

| 曜日 | 時限 | 人間社会学域 | | | | | | 理工学域 | | | | | | 医薬保健学域 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 人文 | 法 | 国際 | 経済 | 学校教育 | 地域創造 | 数物科学 | 物質化学 | 自然システム | 機械工学 | 電子情報 | 環境デザイン | 医 | 薬・創薬 | 保健 |
| 月 | 1 | | | | | 初習(仏中)A* | | 初習(独仏中)A* | | | 初習(独仏中)A* | | | 初習(独仏中)A* | | |
| | 2 | | | | | | | 化学Ⅱ* | 化学Ⅱ | 化学Ⅱ* | 化学Ⅱ* | 物理学Ⅱ | 化学Ⅱ* | 化学Ⅱ | | 物理学Ⅱ# |
| | 3 | | | | | | | 線形代数二 | 線形代数二(選択必修) | 線形代数二* | | | 物理学実験 | (移動)※ | | 物理学実験*<br>化学実験*<br>(看護) |
| | 4 | | | | EAP | | | | | | 微積第二 | | | | | |
| | 5 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 火 | 1 | TOEIC準備 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | 初習(仏中)A | 初習A | 初習(仏中)A | | | | | | | | | | | | |
| | 3 | 初習(独)A | | 初習(独)A | 初習(中)A | | | | | | | | | | | |
| | 4 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 5 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 水 | 1 | | | | | | | | | | TOEIC準備 | | | | | |
| | 2 | | | | | | | TOEIC準備 | | | | | | | | |
| | 3 | | | | 初習A | 初習(独)A* | 初習A | | | | | 微積第二<br>線形代数二 | 微積第二 | 統計数学 | | |
| | 4 | | | | | | | 地学Ⅱ* | | | 地学Ⅱ* | | | 物理学Ⅱ | | 統計数学# |
| | 5 | | | | | 初習(仏中)A* | | | | | 初習(独仏中)A* | | | 初習(独仏中)A* | | |
| | | | | | | | | 初習(独仏中)A* | | | | | | | | |
| 木 | 1 | | | | TOEIC準備 | | | 微積第二 | 微積第二(選択必修) | 微積第二* | 物理学Ⅱ | 化学Ⅱ*<br>線形代数二 | 物理学Ⅱ* | | 統計数学 | 化学Ⅱ# |
| | 2 | EAP | | | | | | 物理学Ⅱ | 物理学Ⅱ | | 線形代数二 | 微積第二 | 線形代数二 | | | |
| | 3 | 初習A | | | | | | 化学実験* | | 化学実験(選択必修) | | | | EAP | | |
| | 4 | | | | 初習(仏)A | | 初習(仏中)A | | | | | | | | | |
| | 5 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 金 | 1 | | | | | | | | | | | | | TOEIC準備 | | |
| | 2 | | | | | | | EAP | | | | | | | | |
| | 3 | | | | 初習(独)A | | 初習(独)A | 化学実験* | 化学実験 | 物理学実験(選択必修) | EAP | | | 物理学実験*化学実験* | | |
| | 4 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 5 | | | | | | | | | | | | | | | |

※専門教育科目の開講予定時間帯であっても，その時間帯に専門教育科目が開講されていない場合は，共通教育科目を履修できます。

*：選択科目　#：専攻により異なる(保健学類)

※医(移動)…角間・宝町キャンパス間の移動時間

# 共通教育科目の時間帯表

平成30年度２年第１クォーター

（　　は，専門教育科目の開講予定時間帯です）

| 曜日 | 時限 | 人間社会学域 | | | | | | 理工学域 | | | | | | 医薬保健学域 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 人文 | 法 | 国際 | 経済 | 学校教育 | 地域創造 | 数物科学 | 物質化学 | 自然システム | 機械工学 | 電子情報 | 環境デザイン | 医 | 薬・創薬 | 保健 |
| 月 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 3 | | | | | | | 物理学実験 | 物理学実験(選択必修) | | 化学実験* | 化学実験* | 化学実験 | | | |
| | 4 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 5 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 火 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | | | | | | | | | 物理学II* | | | | | | |
| | 3 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 4 | | | | | | | | | | | | | | 化学実験 | (検査) |
| | 5 | | | 初ゼミII | | | | | | | | | | | | (検査) |
| 水 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 3 | | | | | | | | | | | | | (移動)※ | | |
| | 4 | | | | | | | | | | 物理学実験 | | | | | |
| | 5 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 木 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 3 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 4 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 5 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 金 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 3 | | | | | | | | | | | 物理学実験 | | | | |
| | 4 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 5 | | | | | | | | | | | | | | | |

※専門教育科目の開講予定時間帯であっても，その時間帯に専門教育科目が開講されていない場合は，共通教育科目を履修できます。

*：選択科目

※医(移動）…角間・宝町キャンパス間の移動時間

平成30年度２年第２クォーター

（　　は，専門教育科目の開講予定時間帯です）

| 曜日 | 時限 | 人間社会学域 | | | | | | 理工学域 | | | | | | 医薬保健学域 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 人文 | 法 | 国際 | 経済 | 学校教育 | 地域創造 | 数物科学 | 物質化学 | 自然システム | 機械工学 | 電子情報学 | 環境デザイン | 医 | 薬・創薬 | 保健 |
| 月 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | | | | | | | | | | | | | | 初ゼミII | |
| | 3 | | | | | | | 物理学実験 | 物理学実験(選択必修) | | 化学実験* | 化学実験* | 化学実験 | | | |
| | 4 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 5 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 火 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | | | | | | | | | 物理学II* | | | | | | |
| | 3 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 4 | | | | | | | | | | | | | | | (検査) |
| | 5 | | | | | | | | | | | | | | | (検査) |
| 水 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 3 | | | | | | | | | | | | | (移動)※ | | |
| | 4 | | | | | | | | | | 物理学実験 | | | | | |
| | 5 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 木 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 3 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 4 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 5 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 金 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 3 | | | | | | | | | | | 物理学実験 | | | | |
| | 4 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 5 | | | | | | | | | | | | | | | |

※専門教育科目の開講予定時間帯であっても，その時間帯に専門教育科目が開講されていない場合は，共通教育科目を履修できます。

*：選択科目

※医(移動）…角間・宝町キャンパス間の移動時間

# 共通教育科目の時間帯表

平成30年度２年第３・４クォーター

（ ▭ は，専門教育科目の開講予定時間帯です）

| 曜日 | 時限 | 人間社会学域 | | | | | | 理工学域 | | | | | | 医薬保健学域 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 人文 | 法 | 国際 | 経済 | 学校教育 | 地域創造 | 数物科学 | 物質化学 | 自然システム | 機械工 | 電子情報 | 環境デザイン | 医 | 薬・創薬 | 保健 |
| 月 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 3 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 4 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 5 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 火 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 3 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 4 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 5 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 水 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 3 | | | | | | | | | | | | | (移動)※ | | |
| | 4 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 5 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 木 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 3 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 4 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 5 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 金 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 3 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 4 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 5 | | | | | | | | | | | | | | | |

※専門教育科目の開講予定時間帯であっても，その時間帯に専門教育科目が開講されていない場合は，共通教育科目を履修できます。
※医（移動）…角間・宝町キャンパス間の移動時間

# 共通教育科目の時間帯表

平成31年度３年第１・２クォーター

（　　は，専門教育科目の開講予定時間帯です）

| 曜日 | 時限 | 人間社会学域 | | | | | | 理工学域 | | | | | | 医薬保健学域 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 人文 | 法 | 国際 | 経済 | 学校教育 | 地域創造 | 数物科学 | 物質化学 | 自然システム | 機械工学 | 電子情報 | 環境デザイン | 医 | 薬・創薬 | 保健 |
| 月 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 3 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 4 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 5 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 火 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 3 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 4 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 5 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 水 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 3 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 4 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 5 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 木 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 3 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 4 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 5 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 金 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 3 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 4 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 5 | | | | | | | | | | | | | | | |

※専門教育科目の開講予定時間帯であっても，その時間帯に専門教育科目が開講されていない場合は，共通教育科目を履修できます。

平成31年度３年第３・４クォーター

（　　は，専門教育科目の開講予定時間帯です）

| 曜日 | 時限 | 人間社会学域 | | | | | | 理工学域 | | | | | | 医薬保健学域 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 人文 | 法 | 国際 | 経済 | 学校教育 | 地域創造 | 数物科学 | 物質化学 | 自然システム | 機械工 | 電子情報 | 環境デザイン | 医 | 薬・創薬 | 保健 |
| 月 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 3 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 4 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 5 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 火 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 3 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 4 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 5 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 水 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 3 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 4 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 5 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 木 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 3 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 4 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 5 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 金 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 3 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 4 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 5 | | | | | | | | | | | | | | | |

※専門教育科目の開講予定時間帯であっても，その時間帯に専門教育科目が開講されていない場合は，共通教育科目を履修できます。

# 共通教育科目の時間帯表

平成32年度 4 年第 1 ・ 2 クォーター

（　　は，専門教育科目の開講予定時間帯です）

| 曜日 | 時限 | 人間社会学域 | | | | | | 理工学域 | | | | | | 医薬保健学域 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 人文 | 法 | 国際 | 経済 | 学校教育 | 地域創造 | 数物科学 | 物質化学 | 自然システム | 機械工 | 電子情報 | 環境デザイン | 医 | 薬・創薬 | 保健 |
| 月 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 3 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 4 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 5 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 火 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 3 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 4 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 5 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 水 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 3 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 4 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 5 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 木 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 3 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 4 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 5 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 金 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 3 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 4 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 5 | | | | | | | | | | | | | | | |

※専門教育科目の開講予定時間帯であっても，その時間帯に専門教育科目が開講されていない場合は，共通教育科目を履修できます。

平成32年度 4 年第 3 ・ 4 クォーター

（　　は，専門教育科目の開講予定時間帯です）

| 曜日 | 時限 | 人間社会学域 | | | | | | 理工学域 | | | | | | 医薬保健学域 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 人文 | 法 | 国際 | 経済 | 学校教育 | 地域創造 | 数物科学 | 物質化学 | 自然システム | 機械工 | 電子情報 | 環境デザイン | 医 | 薬・創薬 | 保健 |
| 月 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 3 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 4 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 5 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 火 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 3 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 4 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 5 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 水 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 3 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 4 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 5 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 木 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 3 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 4 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 5 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 金 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 3 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 4 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 5 | | | | | | | | | | | | | | | |

※専門教育科目の開講予定時間帯であっても，その時間帯に専門教育科目が開講されていない場合は，共通教育科目を履修できます。

# Ⅲ 学 生 生 活

☆ 「金沢大学学生便覧」にある「学生生活」「施設案内」を必ず読んでください。
ここでは，共通教育科目を履修する上での必要なことに限定しています。

## 1．学生生活に関する相談

勉学，進路，就職，健康問題，その他のことで困ったことや悩みごとがあれば，所属学類のアドバイス教員または学生相談窓口に何でも気軽に相談してください。相談の内容について秘密が保持されるように配慮されています。総合教育講義棟，保健管理センターにも相談室があります。

**・総合教育講義棟の学生相談室**

学期中の平日，基幹教育学務係向かいにある「なんでも相談室－よるまっし」で，学生生活一般について相談を受け付けています。教員または大学院学生・学類学生が担当しています。（相談担当者名を記した開室日程表を月ごとに相談室前に掲示します。）

**・保健管理センターの学生相談室**

月～金曜日の午前・午後，本部棟１階の保健管理センターで，学生生活一般について相談を受け付けています。専任のカウンセラー，非常勤カウンセラーが常にいますが，電話（076－264－5255）による予約も可能です。

**・ハラスメント相談窓口**

各学類に担当教員がいます。所属学類の手引き・ハンドブック等で確認してください。所属している学類以外の教員に相談することもできますので，「なんでも相談室－よるまっし」前の掲示板等で確認してください。

入学時に配付されている『きぃつけまっし』の「1. 心と身体の健康・悩み事」の項目も参照してください。

また，金沢大学公式Webサイト⇒在学生⇒学生相談窓口⇒ハラスメント防止について　に詳細が掲載されています。

## 2．キャンパス交通ルール

本学では，教育研究の場にふさわしい環境を保全するため，キャンパス内における交通規制をおこなっています。学内の交通ルールを守って，安全確保，教育研究環境保全のために，節度ある行動をしてください。

### (1) 自動車通学

自動車による通学は，特別な事情がある場合以外は許可されません。特別な事情とは，身体に障がいがある場合，公共交通機関を利用することが地理的に非常に困難な場合等です。特別な事情がある場合は，掲示板で期限等を確認した上で，基幹教育学務係に申請して許可を得てください。

### (2) 交差点での進入禁止

金沢大学中央の交差点から総合教育講義棟へ向かう道路は，進入禁止となっていますので，キャンパス内の交通ルールを遵守してください。

### (3) 建物周辺への乗り入れ禁止

角間地区はアカデミックゾーン（総合教育講義棟・体育館・各学類の建物周辺を含む周回道路内）への乗り入れ，駐停車は禁止です。降りるためだけの乗り入れも絶対にしないでください。角間地区周回道路も駐停車禁止です。

### (4) 自転車通学・バイク通学

自転車またはバイクは，所定の駐輪場に止めてください。なお，駐輪場の使用について，手続きは必要ありません。

また，アカデミックゾーン（総合教育講義棟・体育館・各学類の建物周辺を含む周回道路内）への乗り入れ，駐輪を禁止します。

### (5) 違反者に対する処分

**許可証を掲示していない自動車の駐車，駐輪場以外での自転車・バイクの駐輪に対しては，警告ポールを取り付けます。**警告ポールは所定の手続きを経るまで最低一週間は，取り外すことができません。

また，**悪質な違反**（繰り返しの違反，警告ポールの破損等）**は懲戒処分の対象**となります。

なお，キャンパス交通ルールの詳細やこれに関係するさまざまな注意事項については，入学時に配付されている**『きぃつけまっし』を必ず読んで**ください。

## 3．総合教育棟の利用

### (1) 講義室等の使用

**学生が課外活動のために総合教育講義棟の講義室使用を希望する場合は，あらかじめ基幹教育学務係で講義室の空き状況を確認の上，学生部学生支援課で了承を得，「学内施設使用許可願」を基幹教育学務係に提出し許可を得てください。**

1）使用は，**平日16時30分～19時50分**の間のＡ３又はＡ４講義室とし，教育，研究等に支障のない範囲で許可します。ただし，休業期間中は除きます。
2）「学内施設使用許可願」は，責任者が直接基幹教育学務係に提出してください。
3）使用希望日の，１週間前から前日までに許可を得てください。
4）使用の許可を得た場合でも，授業その他の都合で変更されることがあります。
5）火気の使用は厳禁です。
6）許可された使用目的以外に使用しないでください。
7）他に迷惑をかけないよう，静かに使用してください。
8）各室とも机，椅子など備え付けの物は，移動しないでください。
　移動した場合は，必ず原状復帰してください。
9）常に清潔に保ち，講義室等の維持保全（美化および使用後の消灯・窓閉め・エアコン暖房オフ）に協力してください。
10）施設等を故意または過失によってき損した場合は，基幹教育学務係に申し出るとともに，速やかに修理し，原状に復してください。

**以上の注意事項を守らない場合は，使用許可を取り消すことがあります。**

### (2) プレゼンテーション室

総合教育講義棟２階（基幹教育学務係隣り）にあるプレゼンテーション室は，グループ学修や教育，学習及び研究に関する説明会等のイベント等に利用できます。

1）利用時間は，平日８時30分～19時50分まで，長期休業期間中は17時00分までです。
2）予約せずに自由に利用できます。
3）予約する場合は，基幹教育学務係窓口に予約申込書を提出してください。予約受付は，希望日の１週間前から前日の17時00分までです。

### (3) 学生自習室

学生自習室は総合教育２号館４階（Ⅳ．建物配置図参照）にあります。
また，総合教育講義棟Ａ４講義室は授業に使用しない場合は，学生自習室として利用できます。

### (4) 掲示等

**掲示その他，これに類するものは，基幹教育学務係に申し出てください。**

**※　課外活動のための使用場所は，原則として，課外活動共用施設（サークル棟）・大学会館集会室です。**

## 4．所属変更・休学・復学・退学

所属変更（転学類・転コース等），休学，復学および退学は，各学類の学務係が取り扱っています。
転学類・転コース等の情報は，掲示板を必ず確認するよう心がけてください。

## 5．パソコンとネットワーク

**(1)** 金沢大学では平成18年度入学生から，ノートパソコンを必携としています。学内には無線LANのアクセスポイントや有線LANの情報コンセントが，主要な講義室，ロビー等に設置されており，ノートパソコンで，インターネットなどのネットワークを便利に，かつ安全に利用できる環境が整備されています。授業のみならず，学生生活や研究活動などさまざまな形で利用することができます。

**(2) ノートパソコンは，各自の責任で管理してください。**

ただし，体育館・グラウンド等を使用する保健体育関連科目の授業に出席する場合などに限り，その授業の間だけ３階のＢ10示範教室，４階のＣ10示範教室および５階のＤ10講義室前に設置された専用ロッカーを使用できます（野外に出る実験等の場合も使用できます）。専用ロッカーを使用する場合には次のルールを守ってください。

・専用ロッカーは保健体育関連科目などの授業の間だけしか使用できません。授業終了後は，すみやかに取り出してロッカーを明け渡してください（長時間ロッカーに入れたままの場合には，強制的に撤去することがあります）。
・専用ロッカーにはノートパソコン以外のものは入れないでください。貴重品は，基幹教育学務係に預けることができます。

**(3)** 大学生活でパソコンおよびネットワークを十分に活用するためには，入学当初に，**①ノートパソコンのセキュリティ点検を受ける，②ネットワークIDの登録，③アカンサスポータルの利用方法の習得，④インターネットによる履修登録方法の習得**の４つのことをしなければなりません。

① セキュリティ点検は，全入学生が入学時に必ず受けなくてはなりません。ここでウイルス対策ソフトの動作状況の確認などの点検を行います。

② 入学後，学内のネットワークを利用するために「ネットワークID」の登録が必要です。総合アカウント管理システムから，所定の操作で登録できます。

このネットワークIDを使って安全にインターネットを利用するためには最低限の「情報倫理とネットワークセキュリティ」の知識を習得する必要があります。そのために，「情報処理基礎」の授業の最初の３回で「情報倫理とネットワークセキュリティ」を学習します。

③ アカンサスポータルは，学生個々人のさまざまな情報にアクセスするための入口となるインターネット上のシステム（Webページ）です。このシステムを利用するためのIDとパスワードを【金沢大学ID】といい，履修ガイダンスで配付されます。アカンサスポータルの使用方法について，「情報処理基礎」の授業中に指導します。そのため新入生は必ずこの第１回目の授業に出席してください。

④ 履修登録は，アカンサスポータルから行います。金沢大学IDを用いてアカンサスポータルにアクセスし，時間割表の下にある「リンクメニュー」内のリンク「履修登録」をクリックしてください。リンク先の「履修科目申請画面」で履修登録を行うと，自動的にアカンサスポータルの時間割表に授業科目が表示されるようになります。履修登録の詳しい方法は，『学生便覧』を参照してください（第１クォーターのみ別途指示があります）。

**(4)** 金沢大学では，学生証をICカード化し，出欠管理に活用しています。授業によっては出席確認に必要になりますので，学生証は忘れずに携帯してください。学生証による出席確認を行う場合は，講義室の前後に設置されている端末に学生証をかざしてください。

**(5) パソコンを始めとするコンピュータまたはネットワークの不正な使用は，懲戒処分の対象となります。**

## 6．その他

(1) 角間キャンパスは敷地内禁煙です（灰皿設置場所は除く）。総合教育講義棟の最寄りの喫煙場所は，総合教育２号館地下通路（２Ｆ）です。宝町・鶴間キャンパスは全面禁煙です。

喫煙する場合は喫煙のルールを厳守し，非喫煙者に迷惑をかけたり，環境を害することがないよう十分気をつけましょう。言うまでもなく，未成年者の喫煙は法律で禁止されています。

(2) 騒音防止と敷石保護のため，アカデミックゾーン内のスケートボード等は禁止です。

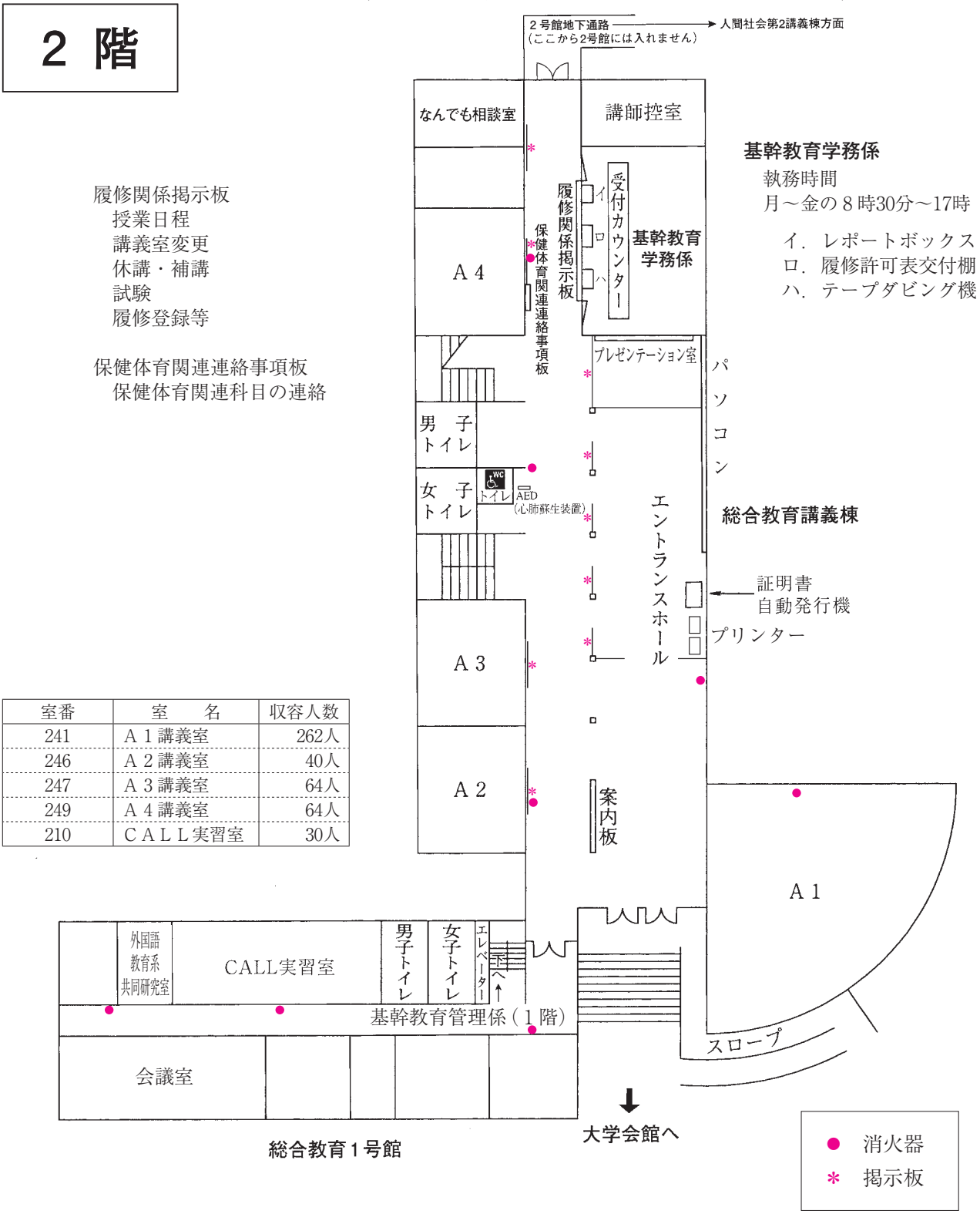
(3) 学生意見箱が基幹教育学務係に設けられています。共通教育について意見があるけれども教職員に言えない場合に，意見を書いて意見箱に入れてください。

# Ⅳ　建物配置図

# 総合教育棟　平面図

## 2 階

（総合教育２号館・体育館へは、３階に上がって渡廊下で）




履修関係掲示板
- 授業日程
- 講義室変更
- 休講・補講
- 試験
- 履修登録等

保健体育関連連絡事項板
- 保健体育関連科目の連絡

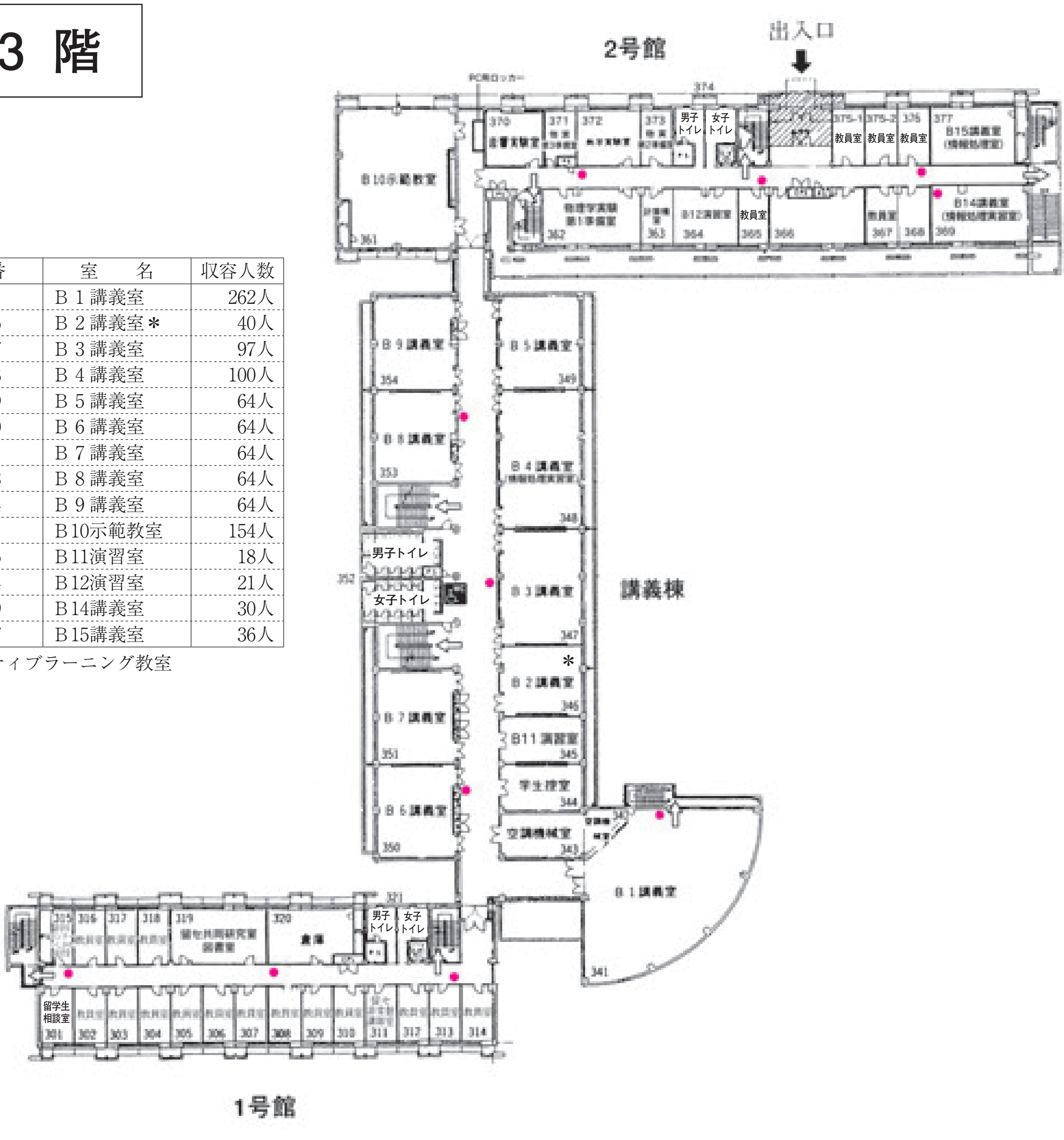
| 室番 | 室　　名 | 収容人数 |
|---|---|---|
| 241 | Ａ１講義室 | 262人 |
| 246 | Ａ２講義室 | 40人 |
| 247 | Ａ３講義室 | 64人 |
| 249 | Ａ４講義室 | 64人 |
| 210 | ＣＡＬＬ実習室 | 30人 |

**※　Ａ４講義室は授業に使用しない場合は，学生自習室として利用できます。**

# 3 階

| 室番 | 室　　名 | 収容人数 |
|---|---|---|
| 341 | B 1 講義室 | 262人 |
| 346 | B 2 講義室＊ | 40人 |
| 347 | B 3 講義室 | 97人 |
| 348 | B 4 講義室 | 100人 |
| 349 | B 5 講義室 | 64人 |
| 350 | B 6 講義室 | 64人 |
| 351 | B 7 講義室 | 64人 |
| 353 | B 8 講義室 | 64人 |
| 354 | B 9 講義室 | 64人 |
| 361 | B 10示範教室 | 154人 |
| 345 | B 11演習室 | 18人 |
| 364 | B 12演習室 | 21人 |
| 369 | B 14講義室 | 30人 |
| 377 | B 15講義室 | 36人 |

＊アクティブラーニング教室

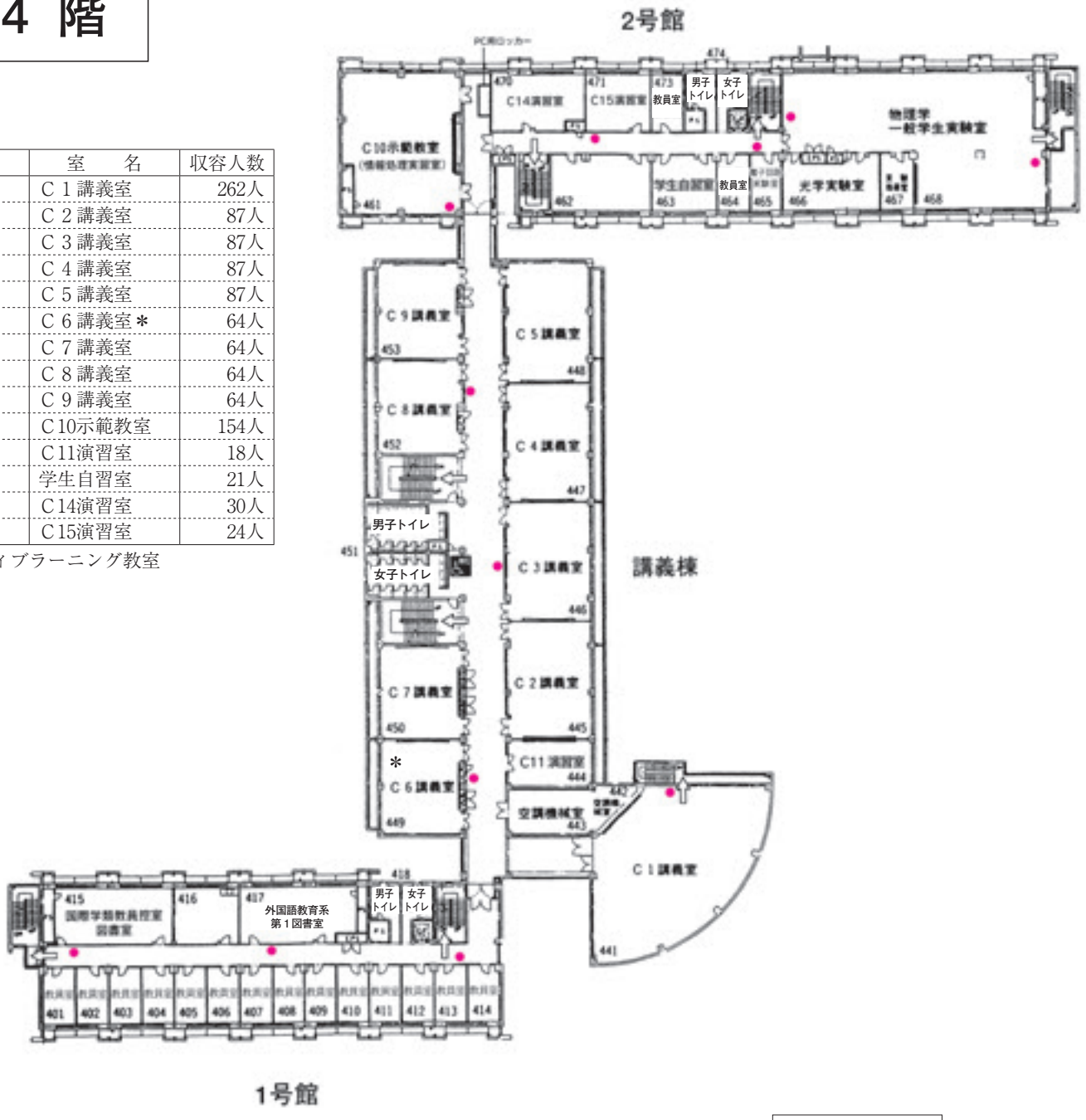



避難経路
消火器

# 4 階

| 室番 | 室　　名 | 収容人数 |
|---|---|---|
| 441 | C 1 講義室 | 262人 |
| 445 | C 2 講義室 | 87人 |
| 446 | C 3 講義室 | 87人 |
| 447 | C 4 講義室 | 87人 |
| 448 | C 5 講義室 | 87人 |
| 449 | C 6 講義室＊ | 64人 |
| 450 | C 7 講義室 | 64人 |
| 452 | C 8 講義室 | 64人 |
| 453 | C 9 講義室 | 64人 |
| 461 | C10示範教室 | 154人 |
| 444 | C11演習室 | 18人 |
| 463 | 学生自習室 | 21人 |
| 470 | C14演習室 | 30人 |
| 471 | C15演習室 | 24人 |

＊アクティブラーニング教室



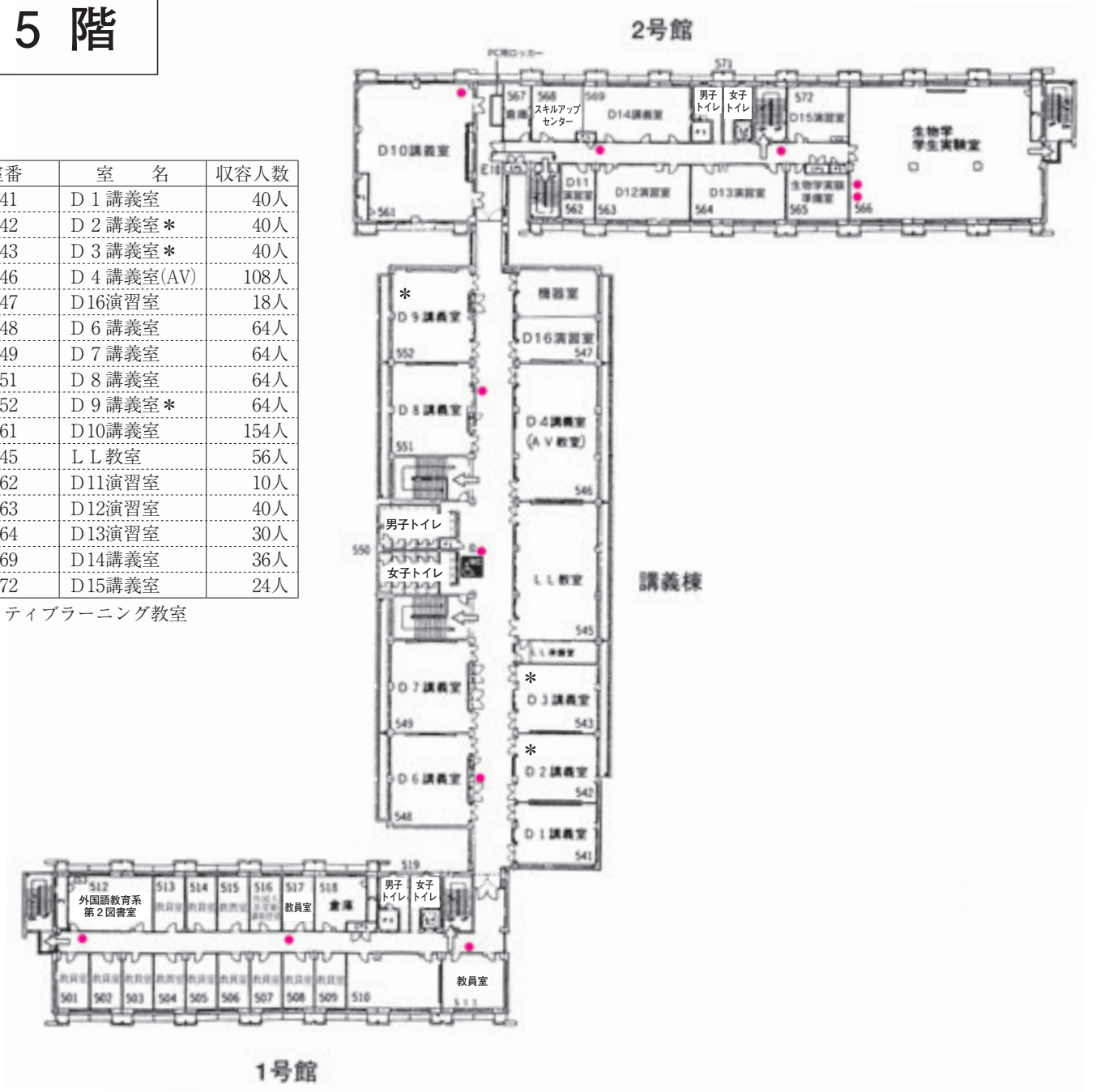

避難経路

● 消火器

# 5 階

| 室番 | 室　　名 | 収容人数 |
|---|---|---|
| 541 | D 1 講義室 | 40人 |
| 542 | D 2 講義室＊ | 40人 |
| 543 | D 3 講義室＊ | 40人 |
| 546 | D 4 講義室(AV) | 108人 |
| 547 | D16演習室 | 18人 |
| 548 | D 6 講義室 | 64人 |
| 549 | D 7 講義室 | 64人 |
| 551 | D 8 講義室 | 64人 |
| 552 | D 9 講義室＊ | 64人 |
| 561 | D10講義室 | 154人 |
| 545 | ＬＬ教室 | 56人 |
| 562 | D11演習室 | 10人 |
| 563 | D12演習室 | 40人 |
| 564 | D13演習室 | 30人 |
| 569 | D14講義室 | 36人 |
| 572 | D15講義室 | 24人 |

＊アクティブラーニング教室



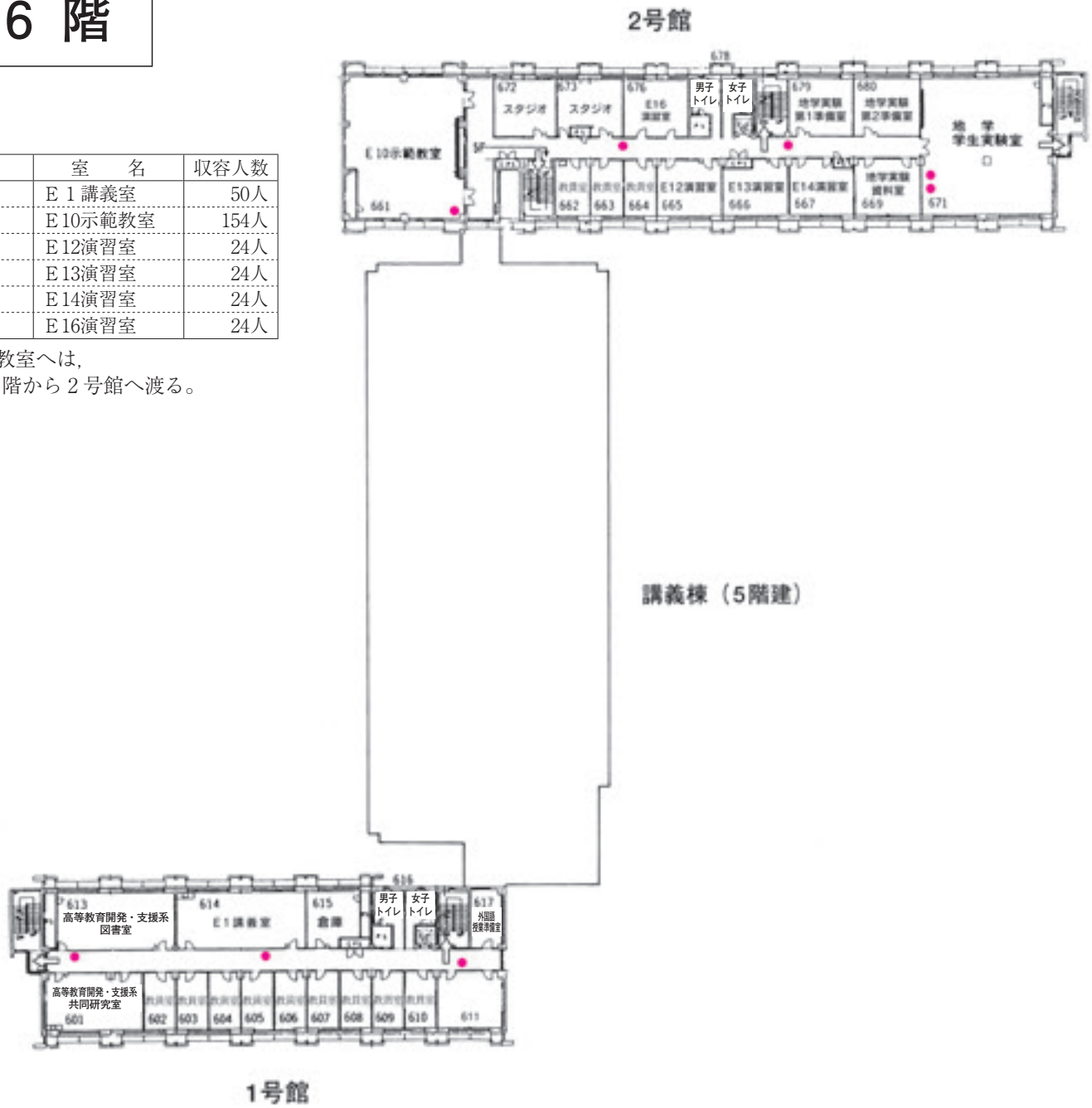

避難経路

● 消火器

# 6 階

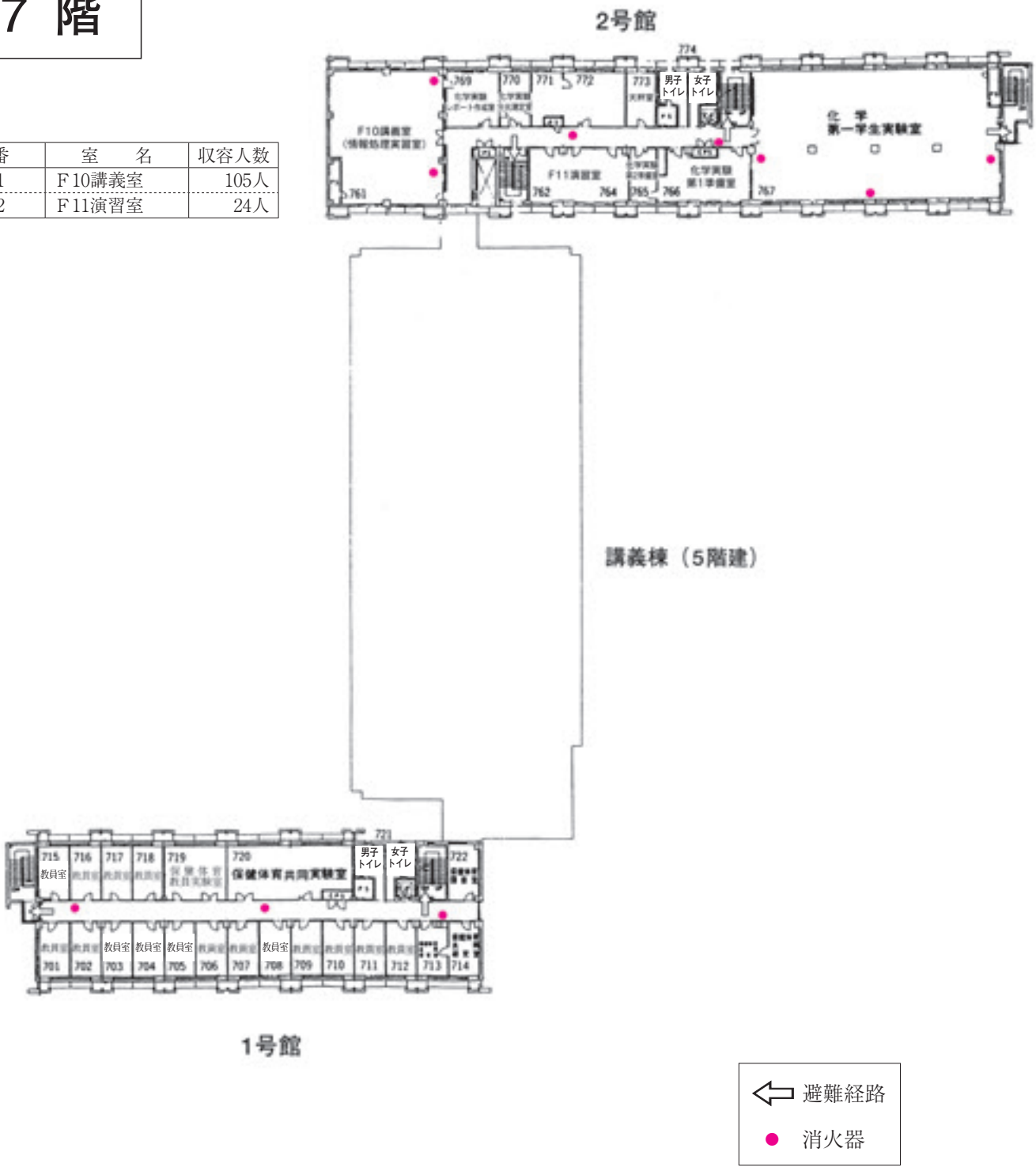
| 室番 | 室　　名 | 収容人数 |
|---|---|---|
| 614 | E 1 講義室 | 50人 |
| 661 | E10示範教室 | 154人 |
| 665 | E12演習室 | 24人 |
| 666 | E13演習室 | 24人 |
| 667 | E14演習室 | 24人 |
| 676 | E16演習室 | 24人 |

E10示範教室へは,
講義棟 5 階から 2 号館へ渡る。



# 7 階

| 室番 | 室　　名 | 収容人数 |
|---|---|---|
| 761 | F10講義室 | 105人 |
| 762 | F11演習室 | 24人 |



# 総合教育１号館，２号館在室者一覧（五十音順）

（平成29年４月１日現在）

| カナ | 氏　　名 | 部屋番号 | 所　属 |
|---|---|---|---|
| ア | アートル・ジョン | １号館４階　404号室 | 外国語 |
| | 荒井　章司 | １号館５階　511号室 | ＧＳ教育 |
| | 伊藤　大将 | １号館３階　318号室 | 留学生セ |
| | 井上　咲希 | １号館４階　409号室 | 高等教育 |
| | 井上　英夫 | １号館３階　310号室 | ＧＳ教育 |
| | 上畠　洋佑 | １号館７階　710号室 | 高等教育 |
| | 太田　　亨 | １号館３階　303号室 | 留学生セ |
| | 大竹　茂樹 | １号館３階　314号室 | ＧＳ教育 |
| | 大藪　加奈 | １号館４階　406号室 | 外国語 |
| | 岡田　　彩 | １号館７階　715号室 | ＧＳ教育 |
| | 小川　道大 | １号館７階　706号室 | ＧＳ教育 |
| カ | 垣内　康孝 | １号館４階　405号室 | ＧＳ教育 |
| | 數見由紀子 | １号館４階　413号室 | 外国語 |
| | 河内　真美 | １号館６階　602号室 | 高等教育 |
| | 北浦　　孝 | １号館７階　719号室 | ＧＳ教育 |
| | クオン・ヒージョン | １号館５階　503号室 | 外国語 |
| | 国本　浩喜 | ２号館４階　473号室 | ＧＳ教育 |
| | 古泉　達矢 | １号館４階　414号室 | 国際学類 |
| | 黄　　悦 | １号館５階　504号室 | 外国語 |
| | 小島　荘一 | １号館３階　313号室 | 留学生セ |
| | 小林　恵美子 | １号館５階　507号室 | ＧＳ教育 |
| サ | 斉木　麻利子 | １号館３階　304号室 | 留学生セ |
| | 澤田　茂保 | １号館６階　603号室 | 外国語 |
| | 清水　邦彦 | １号館６階　605号室 | 国際学類 |
| | 杉村　安幾子 | １号館５階　515号室 | 外国語 |
| | 杉森　公一 | １号館６階　609号室 | 高等教育 |
| | 鈴木　克徳 | ２号館３階　375-1号室 | ＧＳ教育 |
| タ | 髙橋　涼子 | １号館４階　402号室 | 地域創造 |
| | ダガン　さがの | １号館７階　717号室 | 外国語 |
| | ダリシエ・ミシェル | １号館６階　610号室 | ＧＳ教育 |
| | 茶谷　丹午 | １号館７階　718号室 | 外国語 |
| | 趙　　菁 | １号館５階　508号室 | 外国語 |
| | 堤　　敦朗 | １号館３階　305号室 | 留学生セ |
| ナ | 中野　正俊 | １号館４階　411号室 | 高等教育 |
| | 仲　正昌樹 | １号館６階　608号室 | 法学類 |
| | 南　　相瓔 | １号館５階　506号室 | ＧＳ教育 |

| カナ | 氏　　名 | 部屋番号 | 所　属 |
|---|---|---|---|
| ナ | 西嶋　愉一 | １号館５階　514号室 | 外国語 |
| | 西山　宣昭 | １号館７階　709号室 | 高等教育 |
| ハ | 濱田　里羽 | １号館７階　701号室 | 高等教育 |
| | ハモンド・マーク | １号館７階　705号室 | 外国語 |
| | 早川　文人 | １号館４階　412号室 | 外国語 |
| | ビットマン・ハイコ | １号館３階　316号室 | 留学生セ |
| | 平松　潤奈 | １号館４階　410号室 | 外国語 |
| | ビントリフ・ジョン | １号館５階　509号室 | 外国語 |
| | ﾌｨﾘｯﾌﾟｽ・ｼﾞｪﾚﾐｰ | ２号館４階　464号室 | ＧＳ教育 |
| | 深川　美帆 | １号館３階　312号室 | 留学生セ |
| | 藤本　　茂 | １号館７階　703号室 | ＧＳ教育 |
| | ブラウン・デール | １号館５階　517号室 | 外国語 |
| | 古畑　　徹 | １号館４階　401号室 | 国際学類 |
| | 寶學淳郎 | １号館７階　711号室 | ＧＳ教育 |
| | 堀井祐介 | １号館７階　712号室 | 高等教育 |
| マ | マウラー・ヘニング | １号館５階　502号室 | 外国語 |
| | 松井三枝 | ２号館３階　375-2号室 | ＧＳ教育 |
| | 松浦義昭 | ２号館６階　663号室 | ＧＳ教育 |
| | 松田真希子 | １号館３階　307号室 | 留学生セ |
| | ﾏﾏ-ﾄﾞｩｱ・ｱｲ-ダ | １号館３階　308号室 | 留学生セ |
| | マリー・ルイス | １号館７階　704号室 | 外国語 |
| | 三上　純子 | １号館５階　513号室 | 外国語 |
| | 峯　　正志 | １号館３階　317号室 | 留学生セ |
| | 村上　清敏 | ２号館３階　365号室 | ＧＳ教育 |
| | 村山　孝之 | １号館７階　707号室 | ＧＳ教育 |
| ヤ | 八重澤　美知子 | １号館３階　302号室 | ＧＳ教育 |
| | 山本　　洋 | １号館３階　306号室 | 留学生セ |
| | 吉田　泰幸 | ２号館６階　664号室 | 文化資源 |
| | 吉永　契一郎 | １号館７階　708号室 | 高等教育 |
| ワ | 渡辺　達雄 | １号館６階　604号室 | 高等教育 |

備考
・ＧＳ教育：GS教育系（国際基幹教育院）
・高等教育：高等教育開発・支援系（国際基幹教育院）
・外国語：外国語教育系（国際基幹教育院）
・文化資源：人間社会研究域附属国際文化資源学研究センター
・留学生セ：国際機構留学生センター

・教員室は変更になる可能性があります。

# 付. 時間割表
# 受講票

# 時　間　割　表

（　年　　）

| 曜 | 時限／科目等 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 月 | 科　目 | | | | | |
| | 時間割番号 | | | | | |
| | 教　員 | | | | | |
| 火 | 科　目 | | | | | |
| | 時間割番号 | | | | | |
| | 教　員 | | | | | |
| 水 | 科　目 | | | | | |
| | 時間割番号 | | | | | |
| | 教　員 | | | | | |
| 木 | 科　目 | | | | | |
| | 時間割番号 | | | | | |
| | 教　員 | | | | | |
| 金 | 科　目 | | | | | |
| | 時間割番号 | | | | | |
| | 教　員 | | | | | |
| 集中講義その他 | 科　目 | | | | | |
| | 時間割番号 | | | | | |
| | 教　員 | | | | | |

（　年　　）

| 曜 | 時限／科目等 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 月 | 科　目 | | | | | |
| | 時間割番号 | | | | | |
| | 教　員 | | | | | |
| 火 | 科　目 | | | | | |
| | 時間割番号 | | | | | |
| | 教　員 | | | | | |
| 水 | 科　目 | | | | | |
| | 時間割番号 | | | | | |
| | 教　員 | | | | | |
| 木 | 科　目 | | | | | |
| | 時間割番号 | | | | | |
| | 教　員 | | | | | |
| 金 | 科　目 | | | | | |
| | 時間割番号 | | | | | |
| | 教　員 | | | | | |
| 集中講義その他 | 科　目 | | | | | |
| | 時間割番号 | | | | | |
| | 教　員 | | | | | |

# 時　間　割　表



（　年　　）

| 曜 | 時限／科目等 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 月 | 科　目 | | | | | |
| | 時間割番号 | | | | | |
| | 教　員 | | | | | |
| 火 | 科　目 | | | | | |
| | 時間割番号 | | | | | |
| | 教　員 | | | | | |
| 水 | 科　目 | | | | | |
| | 時間割番号 | | | | | |
| | 教　員 | | | | | |
| 木 | 科　目 | | | | | |
| | 時間割番号 | | | | | |
| | 教　員 | | | | | |
| 金 | 科　目 | | | | | |
| | 時間割番号 | | | | | |
| | 教　員 | | | | | |
| 集中講義その他 | 科　目 | | | | | |
| | 時間割番号 | | | | | |
| | 教　員 | | | | | |

（　年　　）

| 曜 | 時限／科目等 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 月 | 科　目 | | | | | |
| | 時間割番号 | | | | | |
| | 教　員 | | | | | |
| 火 | 科　目 | | | | | |
| | 時間割番号 | | | | | |
| | 教　員 | | | | | |
| 水 | 科　目 | | | | | |
| | 時間割番号 | | | | | |
| | 教　員 | | | | | |
| 木 | 科　目 | | | | | |
| | 時間割番号 | | | | | |
| | 教　員 | | | | | |
| 金 | 科　目 | | | | | |
| | 時間割番号 | | | | | |
| | 教　員 | | | | | |
| 集中講義その他 | 科　目 | | | | | |
| | 時間割番号 | | | | | |
| | 教　員 | | | | | |

# 時　間　割　表

（　年　　）

| 曜 | 時限／科目等 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 月 | 科　目 | | | | | |
| | 時間割番号 | | | | | |
| | 教　員 | | | | | |
| 火 | 科　目 | | | | | |
| | 時間割番号 | | | | | |
| | 教　員 | | | | | |
| 水 | 科　目 | | | | | |
| | 時間割番号 | | | | | |
| | 教　員 | | | | | |
| 木 | 科　目 | | | | | |
| | 時間割番号 | | | | | |
| | 教　員 | | | | | |
| 金 | 科　目 | | | | | |
| | 時間割番号 | | | | | |
| | 教　員 | | | | | |
| 集中講義その他 | 科　目 | | | | | |
| | 時間割番号 | | | | | |
| | 教　員 | | | | | |

（　年　　）

| 曜 | 時限／科目等 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 月 | 科　目 | | | | | |
| | 時間割番号 | | | | | |
| | 教　員 | | | | | |
| 火 | 科　目 | | | | | |
| | 時間割番号 | | | | | |
| | 教　員 | | | | | |
| 水 | 科　目 | | | | | |
| | 時間割番号 | | | | | |
| | 教　員 | | | | | |
| 木 | 科　目 | | | | | |
| | 時間割番号 | | | | | |
| | 教　員 | | | | | |
| 金 | 科　目 | | | | | |
| | 時間割番号 | | | | | |
| | 教　員 | | | | | |
| 集中講義その他 | 科　目 | | | | | |
| | 時間割番号 | | | | | |
| | 教　員 | | | | | |

# 受　講　票

平成　　年度　Q1・Q2・Q3・Q4・前期・後期

| 学　域 | 学　類 | 学　年 | 名列番号 | 学 籍 番 号 | 氏　名(ふりがな) |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 年 | | | |

| 授　業　科　目　名 | 授業時間帯・時間割番号 | 担 当 教 員 名 |
|---|---|---|
| | 曜日　限 | 教員 |

学生への　1．太枠内をすべて記入し，必ず所定の期間中に1科目に1枚，担当教員に提出すること。
　　注意　2．担当教員から求められた場合は，提出すること。

| 教員欄 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | | | | | | | | |

教員への　1．履修制限等により受講させない者からは，受理しないで返却してください。
　　連絡　2．本票が受理され出席していても，一連の履修登録手続きに誤りがある者には単位認定できません。

金沢大学共通教育科目


# 受　講　票

平成　　年度　Q1・Q2・Q3・Q4・前期・後期

| 学　域 | 学　類 | 学　年 | 名列番号 | 学 籍 番 号 | 氏　名(ふりがな) |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 年 | | | |

| 授　業　科　目　名 | 授業時間帯・時間割番号 | 担 当 教 員 名 |
|---|---|---|
| | 曜日　限 | 教員 |

学生への　1．太枠内をすべて記入し，必ず所定の期間中に1科目に1枚，担当教員に提出すること。
　　注意　2．担当教員から求められた場合は，提出すること。

| 教員欄 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | | | | | | | | |

教員への　1．履修制限等により受講させない者からは，受理しないで返却してください。
　　連絡　2．本票が受理され出席していても，一連の履修登録手続きに誤りがある者には単位認定できません。

金沢大学共通教育科目



# 受　講　票

平成　　年度　Q1・Q2・Q3・Q4・前期・後期

| 学　域 | 学　類 | 学　年 | 名列番号 | 学 籍 番 号 | 氏　名(ふりがな) |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 年 | | | |

| 授　業　科　目　名 | 授業時間帯・時間割番号 | 担 当 教 員 名 |
|---|---|---|
| | 曜日　限 | 教員 |

学生への　1．太枠内をすべて記入し，必ず所定の期間中に1科目に1枚，担当教員に提出すること。
　　注意　2．担当教員から求められた場合は，提出すること。

| 教員欄 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | | | | | | | | |

教員への　1．履修制限等により受講させない者からは，受理しないで返却してください。
　　連絡　2．本票が受理され出席していても，一連の履修登録手続きに誤りがある者には単位認定できません。

金沢大学共通教育科目



# 受　講　票

平成　　年度　Q1・Q2・Q3・Q4・前期・後期

| 学　域 | 学　類 | 学　年 | 名列番号 | 学 籍 番 号 | 氏　名(ふりがな) |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 年 | | | |

| 授　業　科　目　名 | 授業時間帯・時間割番号 | 担 当 教 員 名 |
|---|---|---|
| | 曜日　限 | 教員 |

学生への　1．太枠内をすべて記入し，必ず所定の期間中に1科目に1枚，担当教員に提出すること。
　　注意　2．担当教員から求められた場合は，提出すること。

| 教員欄 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | | | | | | | | |

教員への　1．履修制限等により受講させない者からは，受理しないで返却してください。
　　連絡　2．本票が受理され出席していても，一連の履修登録手続きに誤りがある者には単位認定できません。

金沢大学共通教育科目

この『共通教育科目履修案内』は，みなさんの学修に役立つことを目的に作られています。本年度の内容も，先輩学生の助言を得て，より読みやすいものにしたつもりです。来年度以降の改訂にあたっても，学生諸君の意見を取り入れていきたいと考えています。ここが分からない，こういう説明があればもっと良くなる，というご意見・ご希望がありましたら，下記の学生部基幹教育支援課基幹教育学務係までお寄せください。

2017年度共通教育科目履修案内

平成29年４月

金沢大学国際基幹教育院

〒920-1192　金沢市角間町
ＴＥＬ 076-264-5758
ＦＡＸ 076-234-4171
e-mail stgaku@adm.kanazawa-u.ac.jp
学生部基幹教育支援課基幹教育学務係

| | |
|---|---|
| 学域　　学類 | |
| 氏<br>名 | |